

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日
氏名 井上 眞理子

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又 は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
どう変わる？何が課題？ 現場の視点で新要領・指針を考え合う	共 著	2017年6月	ひとなる書房 (142ページ)	平成29年告示の新要領・指針の改定に伴い保育者の専門性や育成に対してどのような変化が求められているのか、現場の実態と新要領・指針がねらう質向上について、「カリキュラム・マネジメント」「キャリアパス」「保育者のキャリアと研修」という視点から解説する。子どもの多様性を認めることのできる保育者の専門性や組織としての園における保育者の役割の重要性を唱え、保育者の学び手としての主体性を検討する。 (pp.91～97)大宮勇雄・川田学・近藤幹夫・島本一男編著、井上眞理子・塩崎美穂他執筆)
人材育成ハンドブック	共 著	2019年3月	金子書房 (721ページ)	現代の社会の動向を踏まえ、産学官の視点から人材育成に関する理論・実践・話題を人材育成学会の研究領域をベースにまとめたもの。キーワードとして「組織マネジメント」について解説した。(p.643)
保育士等キャリアアップ研修テキストシリーズ vol.7 マネジメント	共 著	2019年6月	オフィスポケット株式会社 (57ページ)	組織の中で活躍するミドルリーダーの役割、後輩保育士の育成、組織理念を実現するためのリーダーの役割と保育の評価について解説している。リーダーシップ、人材育成、理念ワークについて執筆 pp.14～24, 30～40) (須永進監修、井上眞理子、坂田哲人、須藤真紀執筆)
保育士等キャリアアップ研修テキストシリーズ vol.8 保育実践	共 著	2019年6月	オフィスポケット株式会社 (57ページ)	乳幼児教育において環境がなぜ重要とされているのか、組織的に保育を実践し、質の高い保育を提供するために計画との関係性を解説している。環境を通して行う教育・保育の意義、組織的な保育実践と保育の計画について執筆 (pp.5～8, 44～53) (須永進監修、井上眞理子、小林直美、坂本喜一郎、田澤里喜執筆)
採用と育成の好循環を生み出す園長の仕事術—子ども主体の保育を実現するリーダーシップ	共 著	2020年3月	中央法規出版 (249ページ)	保育現場における組織マネジメントの中でも、人材育成と方法論と組織理念の実現との関係における管理職の意識や取り組みについて解説している。第5章、育成の仕事術、保育者を育てる組織と園長の役割 (pp.214～225) (田澤里喜・若月芳浩編著、井上眞理子、松山洋平他執筆)

これからの時代の保育者養成・実習	共著	2020年12月	中央法規出版 (143ページ)	子ども主体の保育への転換が求められる中、保育者を養成する視点で、養成校教育の内容と共に実習における学びのあり方、質、実習での経験を問い直す必要がある。実習におけるこれまでの「当たり前」を捉えなおし、保育の仕事の楽しさや奥深さを体験できる実習のあり方を模索し、それに伴う実習での指導の指南書として、学生、養成校、保育現場活用できるテキストとなっている。 第2章1節「今までの学びを大切にしよう」p.34-35、第5章3節「部分実習とは」p.118-119、第4節「責任実習とは」p.122、「実習園の先生方へ」p.136 (大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著、井上眞理子・宮崎豊他執筆)
トライアル・アンド・エラーに学ぶ 質の向上を目指す保育マネジメント	共編著	2021年7月	中央法規出版 (143ページ)	保育の質向上のためには、チャレンジしていこうとする「試行」と何度も立ち止まって考える「錯誤」のプロセスが欠かせない。保育実践と保育現場の両者のトライアルアンドエラーの実践プロセスを紐解きながら、保育マネジメントの実現のための実践からのエッセンスを紹介、解説する。(pp.17～20, 62, 136～142) (井上眞理子・田澤里喜・田島大輔編著／亀ヶ谷元譲・田中健介・長谷川真紀他執筆)
「アクティベート保育学12 保育・教育実習	共著	2022年1月	ミネルヴァ書房 (194ページ)	第2章「実習の内容と課題」として、実習にはステップがあり、それぞれの段階に応じた学習内容があることを理解すること。養成校のカリキュラムにおける実習の位置づけを理科し、それぞれの実習の到達目標を把握した上で、自己の課題を明確化する。保育の実態の理解が深まるように、多角的に保育を捉える視点を整理し、実習に臨む準備を行う。これらの理解のためにワーク等を通じて、授業内での取り組み内容を提示した。PP.15～29(汐見稔幸・大豆生田啓友監修／矢藤誠慈郎・高嶋景子・久保健太編著／井上眞理子・開仁志・須永美紀他執筆)
幼稚園・認定こども園 キャリアアップ研修テキスト マネジメント	共著	2023年2月	中央法規出版 (151ページ)	成人教育学の観点から、「大人の学び手」としての保育者の学びや成長の特性を理解することを目的としている。プロフェッショナルとしての保育者の成長プロセス、とりわけ、ドナルド・A・ショーンのリフレクション(省察)に基づく実践の振り返りをもとに成長するメカニズムから、保育者としての自己の成長を捉える。さらに、園内における学びのシステムの構築から、園内における学び合う組織づくりについて解説する。第4章第1節pp.82-90 (小田豊・秋田喜代美編集／岡健・岩立京子編著／井上眞理子・亀ヶ谷元譲他)
保育者が育ち、園が機能する 保育の質が高まる組織マネジメント	単著	2024年1月	中央法規出版 (144ページ)	2020年4月から2年間に渡り日本教育新聞に連載した記事をベースに、保育の質を向上するための組織マネジメントについて取り扱っている。バーナードの組織の成立条件「共通の目的」「貢献意欲」「コミュニケーション」の柱から保育現場の課題を改善し、保育の質を向上させるための手立てを解説する。その他、人材育成やリーダーシップのテーマに沿い、実践を添えることで具体的なマネジメントのあり方について理解するための書籍である。

(学術論文等)				
研究論文「園内における保育士の専門性発達のプロセス:TEM(複線径路・等至性モデル)による保育士の成長プロセスの分析」 (査読付き)	共著	2015年3月	洗足論叢 第44号 14ページ	保育者が園内(組織)の人間関係の中でどのように成長していくのか、そのプロセスに着目し、新任保育者からクラスリーダーと成長する保育士へのインタビューから、質的分析手法TEMを用いて分析する。保育士の成長は直線的ではなく、苦悩と葛藤を経て、仕事へのモチベーションを高低させながら、園内の人的環境に影響を受けながら視点を変容させていく一過程を明らかにした。(共同研究につき抽出不可。研究デザイン、対象者へのインタビューと分析、考察を担当)(pp:117-130)(井上眞理子・坂田哲人)
研究論文「ふれ合い体験プロジェクト」から生まれる新たな保育者養成の検討—導入園の保育者を対象としたアンケート調査から— (査読付き)	共著	2020年3月	保育者養成教育研究 第4号 11ページ	保育の魅力を感じ合う共同体としての対話的な養成のあり方を探ることを目指し、ふれ合い体験に対する保育者の意識や導入による変容を分析した。その結果、保育者は保育の魅力に注力できるふれ合い体験の意味を高く認識しており、保育経験年数を経るごとに学生観・養成観の変容の割合が高まっていた。また、指導・評価が伴わない出会いの中で、学生の生き生きした姿の表出を感嘆と共に感受する保育者のまなざしが生まれ、学生に寄り添う関わりへの変化や、養成への喜び・意欲がもたらされていた。本結果から、あるべき姿にとらわれがちな従来の一方的な養成を脱し、保育の魅力と共に感じ交わし合う新たな養成の可能性が示唆された。(共同研究につき抽出不可。研究デザイン、対象者へのインタビューと分析、考察を担当)。(金元あゆみ・佐藤晶子・井上眞理子・坂本喜一郎)
研究ノート「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討-「実習日誌」及び「保育者ための文章表現授業」アンケートからの分析-」(査読付き)	共著	2021年2月	洗足論叢 第49号 p.81-95	保育の初学者としての短大養成校1年生における保育記録を書くことを通して、保育を見る視点を養うことを目的とした授業実践を分析する。「書く」ことに対しさまざまな課題をもつ保育学生が増えていることを受け、その困難さを克服しつつ、保育者としての「視点」を育むための授業に対して、学生の学びの変容を分析する。(共同研究につき抽出不可能。研究デザイン、アンケートデータの分析と考察を担当)。(井上眞理子・向笠京子・長島万里子・高橋優子・伊藤路香・上田よう子)
The Educational Intention behind Non-Intervention: A Case on the Japanese Mimamoru Approach as Early Childhood Teachers' Professionalism (査読付き)	共著	2021年6月	Croatian Journal of Education, vol23, No.4, 2021 pp.1115-1138	子どもの主体性を育むため、日本の保育者は「見守る」という教育的アプローチを行う。このアプローチの背景にある保育者の意図や教育効果について、3名の保育者を対象にした調査を実施した。フォーカスグループインタビューにより得られたデータをSCATにて質的に分析し、「見守る」アプローチの構造とそれに伴う保育への影響について分析した。(中坪史典・上田敏文・吉田貴子・井上眞理子・中西さやか・境 愛一郎・Lok-Wah Li)

保育者の成長・動機付け要因に着目した職務満足度に関する研究(査読付き)	共著	2023年3月	大妻女子大学家政系研究紀要, 第59号, 41-46	保育者の処遇や労働環境に関する課題、とりわけ離職との関係での研究が進む中、本稿では、離職要因の一因となる職務満足にフォーカスし、全国の保育士を対象とする質問紙調査を実施した。成長・動機づけ要因に着目した分析を行ったところ、給与や人間関係といった側面よりも、自身の保育観が理念と合致することや成長実感など満足要因の側面による影響が高いことが明らかとなった。共同研究により抽出不可。研究デザインの構想、質問紙調査の作成、データ分析を担当。 (坂田哲人, 井上真理子)
就学前施設における「行事」のあり方の転換が保育者・組織の実態に与える影響—管理職と保育者の認識の重なりから捉えるマネジメント的課題—(査読付き)	共著	2024年3月	洗足論叢, 第52号,	子どもの主体性を尊重する保育のあり方を模索する現場の実践、とりわけ「行事」のあり方にフォーカスし、「行事」のあり方の見直しをするプロセスにおいて、保育者もまた自身の関わりや役割、専門性の発揮の仕方の変化、また派生的に職員関係等の職場のあり方にも変化が起こることを仮説に、保育者及び管理職がそのプロセスをどう認識していたのか、その共通点や相違点から、保育の転換が現場にもたらすマネジメント的課題を明らかにする。14(18) (井上真理子, 亀ヶ谷元謙, 田澤里喜)
保育者の成長・動機付け要因に着目した職務満足度に関する研究(2)(査読付き)	共著	2024年3月	大妻女子大学家政系研究紀要, 第60号, 39-46	保育者不足や離職問題の背景として労働条件に注目が集まる中、職務満足に関する内的要因に着目し、2018年および2022年に全国調査を実施・比較した。主要因項目に顕著な変化は見られず、保育者の職務意識の安定性が示唆された。加えて、人的資源管理論における内発的動機づけ要因への議論の不足が、現行の労働政策議論との乖離として課題化された。共同研究による抽出不可。研究デザインの構想、データの分析、結果の考察への助言を担当(坂田哲人, 井上真理子)
就学前施設における心理的安全性と組織の成長に関する研究 — 保育の質の向上を支える組織要因の分析(査読付き)	共著	2025年3月	乳幼児教育・保育者養成研究, 第5号, 145-161	本研究は、就学前施設における心理的安全性を保障する組織要因を明らかにすることを目的とし、若年組織の特徴や組織成長モデルを踏まえて検討を行った。量的・質的分析の結果、心理的安全性を支える7つの概念を抽出し、これらが保育者個人の経験、組織風土、リーダーシップと密接に関連することを示した。保育の質向上には、組織の成長段階に応じた柔軟かつ探究的なマネジメントが求められる。共同研究による抽出不可。研究全体のデザイン構造、データの収集、分析、論文の構造及び執筆の重要な部分をになった。 (井上真理子, 坂田哲人, 松井剛太, 田澤里喜, 松山洋平, 伊藤路香, 加藤 翼)

(研究助成)				
園内における保育士の専門性発達モデルの構築と園内マネジメントのあり方に関する研究 基盤研究(C)	研究代表	2015年採択 (平成28年度 ～ 平成30年度)	日本学術振興会	「個々の保育士の成長」という観点だけでなく、園組織が保育士の成長をどのようにマネジメントするのか、すなわち「保育士の成長を促す園内マネジメント」という観点から保育士の育成の課題を検討する。保育士の発達段階に即した育成促進要因を明らかにし、促進要因を生み出す園内マネジメントのあり方及び園内における保育士人材育成モデルを開発する。(井上真理子、坂田哲人)
保育者の成長志向性と組織要因との関連における保育者の成長モデルの構築に関する研究 基盤研究(C)	研究分担者	2016年採択 (平成29年度 ～ 平成31年度)	日本学術振興会	組織の中に位置づけられる保育者個人の成長モデルを明らかにし、その志向性やプロセス、成長に影響を与える経験を保育者自身の語りから抽出、分析することを目指す。(坂田哲人、井上真理子)
保育者の成長プロセスに応じた専門性向上の機会のあり方に関する研究 基盤研究(C)	研究分担者	2020年採択 (2020年度 ～ 2023年度)	日本学術振興会	組織の中に位置づけられる保育者個人の成長に影響を与える学びの機会や経験を分析し、組織の中で保育者の専門性が向上するプロセスのモデル化を目指す。(坂田哲人、井上真理子、高橋優子)
文部科学省科学研究補助金 基盤研究(C)21K02423 「保育の質をもたらす組織の質及び自律型組織の成長モデルに関する研究」	研究代表	2021年採択 (2021年度 ～2024年度)	日本学術振興会	本研究における「質の高い組織」とは、外部・他者による組織改善に頼らずとも、組織が自ら自律的に自園の成長段階を認識し、課題を設定した上で、必要な方策を講じて成長を実現できること、また既存の評価軸や社会的価値に縛られることなく、新たな価値を創造することができる組織である。組織の質は様々な要素が相互に影響し合、実態をつくっている。組織の質を規定する要素と関係性を明らかにし組織の成長プロセスのモデル化、指標の開発により、組織の成長度と成長のための課題と方策を園自身が把握し、組織の質向上、それに伴う保育の質向上を実現する組織のあり方、成長プロセスをバックアップする手立ての開発を目指す。(井上真理子、坂田哲人、松井剛太、田澤里喜、松山洋平、高橋優子、伊藤路香、加藤翼)
文部科学省科学研究補助金 基盤研究(C)24K05863 「保育実習の質向上への転換を図る保育者の専門性開発に関する研究」	分担者	2024年採択 (2024年度 ～2026年度)	日本学術振興会	本研究は、近年注目される保育の質に関する議論が、配置基準や業務量など量的側面に偏りがちであることを踏まえ、その根底にある本質的な課題に迫ることを目的とする。特に保育実践の背景に潜在する保育者の「観念」に着目し、それを視覚化するプロセスおよび方法について検討を行う。近年、不適切保育や重大なインシデントが社会問題として取り上げられる中で、それらの背景にも保育者の観念が影響を与えている可能性があると考えられる。本研究では、「リフレクション」の概念や方法論を発展的に活用し、観念の可視化を試みる。その上で、可視化された観念を基に、園単位で職員間の対話や検討を行い、必要に応じて改善へとつなげ、保育実践に再反映させていく。このような一連のプロセスを「自己評価」の視点とともに、専門性開発の枠組みを用いてモデル化し、保育の質向上に資する理論的基盤の構築を目指す。(坂田哲人、井上真理子)

(学会発表)				
保育者観の形成プロセスの考察: 保育者の資質に関する学びのプロセス—ALACTモデルからの検討	単独 口頭	2015年5月	日本保育学会 第68回大会(名古屋)	養成校教育の中で学生がどのように保育者としての資質に関する学びを展開していくのかを理論的に検討する。単なる知識としての理解を超えて、自己の行動を振り返り、照らし考えることによる理解に到達するプロセスを、ALACTモデルの5段階から検討する。
保育士不足が保育の質に与える影響: 日本保育士協会調査結果から	共同 ポスター	2015年5月	日本保育学会 第68回大会(名古屋)	深刻化する保育士不足の問題が保育現場に与える影響、特に保育の質にどのような影響を与えているのか、日本保育士協会が行った調査結果から検討する。(今井豊彦・井上真理子・小野田晴世・塩谷香)
「ふれ合い体験」(プレ実習)の意義とその効果: 日本保育協会神奈川県支部が発信するプレ実習体験をもとに	共同 ポスター	2015年9月	全国保育士養成協議会第54回研究大会	日本保育協会神奈川県支部の「ふれ合い体験」は、学生が抱く実習に対する負の要素を回避し、むしろ現場における保育実践の面白さ、子どもの成長する姿への純粋な感動や可能性を純粋に感じることによって、専門職への理解を深め、養成教育へのモチベーションを高める効果をねらっている。この取組に参加した学生、及び受け入れ園へのアンケート調査結果から、養成施設での学習の深化をもたらす経験となる学生への影響や、園の保育の振り返りの機会となる受入園への影響などが明らかになった。(坂本喜一郎・佐藤康富・井上真理子・金元あゆみ・松山洋平)
保育者の人材育成に関わる人的要因と組織マネジメント(1): 後輩育成に関する現状と課題	共同 口頭	2015年12月	人材育成学会 第13回年次大会	全国の保育所における人材育成の課題と現状を明らかにするため、2015年度に日本保育協会で行った調査結果をもとに、保育士のステップアップに対する意識や保育所経営の側面から人材育成に関するマネジメントの意識を分析した。(坂田哲人、井上真理子、今井豊彦)
保育者の人材育成に関わる人的要因と組織マネジメント(2): 後輩育成の力量形成のプロセスと要因の検討	共同 口頭	2015年12月	人材育成学会 第13回年次大会	園内における保育者の人材育成に寄与する「後輩を育成する保育者」の役割に着目し、意図的に後輩を育てようとする保育者への成長プロセスを質的分析手法TEM及びSCATを用いて分析する。人的要因を中心に4つの観点を導き出した。(井上真理子、坂田哲人、今井豊彦)
未来の保育を担う人材の育成を考える: 保育現場と養成校の連携、新たなステージへの展開	自主 シンポジウム	2016年5月	日本保育学会 第69回大会(東京)	保育者養成に求められる実践力を備えた人材の養成をめぐり、保育者養成校の学生の実態や意識を踏まえ、現場と養成校が連携していく形を模索し、あらゆるミスマッチに向き合いながら、学び手としての学生を尊重した関係性構築への手がかりを討論する。 (企画・司会: 井上真理子 話題提供: 金元あゆみ・坂本喜一郎・松山洋平・三橋貴文)

保育現場における園組織が取り組む人材育成の現状と課題(1)	共同 口頭	2016年5月	日本保育学会 第69回大会(東京)	保育現場における人材育成の現状を踏まえ、園組織における要因が人材育成のメカニズムや個人の成長に対する意欲に対し、どのような影響を与えているのか、管理職者の考え、組織要因、人材育成の意欲の関係性を検討する。(坂田哲人・井上眞理子・今井豊彦)
保育現場における園組織が取り組む人材育成の現状と課題(2)	共同 口頭	2016年5月	日本保育学会 第69回大会(東京)	保育者の成長や育成に大きな影響を与える管理職のマネジメント。組織の存在意義としての保育理念の実現と人材育成の関係性を検討する。理念実現のために課題となっている具体的な要因を検討し、管理職研修におけるこれからの展開を模索する。(井上眞理子・坂田哲人・今井豊彦)
保育内容「人間関係」・「言葉」の科目間連携による授業展開	共同 ポスター	2016年5月	日本保育学会 第69回大会(東京)	「保育内容・人間関係」と「保育内容・言葉」の科目を通じ、共通教材を用いることにより学生が保育理解を多角的に捉えることができるのではないかという仮説のもと、言葉の発達とともにすすむ人間関係の在り方、コミュニケーションが深まる子どもの実態に気付け授業展開の研究を行った。(神蔵幸子・並木眞理子・曾野麻紀・桃枝智子・井上眞理子)
児童文化教材作成と指導案立案をつなぐ授業展開の課題―「保育内容・言葉」の授業における学生の意識調査から	共同 口頭	2016年11月	乳幼児教育学会 第26回大会(神戸)	児童文化教材の作成から、指導案立案の学習過程において、学生がどのような意識のもとに教材作成や指導案立案を行っていたのかを調査し、授業展開のどこに課題があったのかを明確にする。子どもに伝えたいことを具体的に言葉や作品に具現化する力の育成や子どもの視点で行う自己評価のスキルを養成することが課題であることが明らかとなった。(並木眞理子・井上眞理子・岡本かおり)
未来の保育を担う人材の育成を考える:養成教育における学びの意義を問い直す	自主 シンポジウム	2017年5月	日本保育学会 第70回大会(倉敷)	保育者を志す養成校学生が、実習をはじめとする現場体験や養成校教育を通して何を感じ、何を学んでいるのか、保育者になる学びのプロセスを学生の視点から捉え直し、これからの保育現場を担う人材の育成である学生にとって、真に必要な学びとは何かを追求する。保育現場と養成校の連携のあり方、実習と実習指導の意義、が療湯主体の現場体験における学びのテーマに検討を深める。(井上眞理子・金元あゆみ・坂本喜一郎・松山洋平)
保育所開設時における管理職が抱える課題～世田谷区保育施設開設前支援プログラムの事例から～	共同口頭	2018年5月	日本保育学会 第71回大会(仙台)	待機児童解消のため世田谷区が保育の量の充足のために認可保育施設を開設するにあたり、質の確保を目指すべく取り組んでいる開設園に対する研修プログラムの事例から、保育施設をスタートアップさせるための現場における課題を精査した。保育の質の向上のためには、園組織の安定と成長に影響を与える管理職の育成が必至である。(坂田哲人・井上眞理子・今井豊彦)

組織マネジメントにおける管理職が抱える課題～保育マネージャー養成講座の事例から～	共同ポスター	2018年5月	日本保育学会 第71回大会(仙台)	管理職を対象とした研修プログラムを開発するプロセスの中で、職員の育成や組織づくりの要となる組織マネジメントの力量の育成が、保育施設の管理職に不足していることに鑑み、マネジメントに特化した研修プログラムの実施内容からマネジメント研修の実態と今後の課題を明らかにした。(今井豊彦・坂田哲人・井上真理子)
保育所の組織的な要因との関連における保育者の成長・キャリア形成の現状と課題	共同口頭	2018年	日本乳幼児教育学会 第28回大会(岡山)	全国調査「」のデータをもとに、保育士等キャリアアップ研修の実施が現場に与える影響について、分析を行った。保育士が園の中で成長、キャリア形成をしていくにあたり、組織的な影響要因を明らかにするとともに、組織マネジメントをつかさどる管理職の状況と職員のキャリア意識への影響を中心に分析を行った。(坂田哲人・井上真理子・今井豊彦)
現場と養成校の協同による現場経験の可能性を模索する	大会企画 シンポジウム	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回大会(東京)	「ポスト・コロナ」時代の保育者養成教育をどう描くのか～コロナ禍をきっかけに顕在化した実習教育についての諸課題 企画:岡健 シンポジスト:矢藤誠慈郎・丸山純・井上真理子 コーディネーター:石井章仁 シンポジストとして、短大養成校におけるコロナ禍での実習をはじめとする現場経験の実態と制限がある中でも保育者養成として欠かすことのできない教育の可能性を探り、現場との協働のあり方を提唱する。
就学前施設と養成校の協同による保育者養成	共同 ポスター	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回大会(東京)	コロナ禍の養成教育の可能性として、従来の幼稚園での見学実習が実施できない中、幼稚園の環境を動画で撮影し作成したオンデマンド教材を活用してその理解の可能性と課題を探る。(伊藤路香・井上真理子・上田よう子・高橋優子・田澤里喜)
子どもの人権を尊重する保育-保育者の自己評価から見える現状と改善に向けての考察～川崎市多摩区公私立認可保育園の取り組み～	共同口頭	2021年5月	日本保育学会 第74回大会 (オンライン)	保育の質向上のために欠かすことのできない子どもの人権に配慮した保育の実現に向け、川崎市多摩区において、行政・現場・養成校の協働により、現場主体の自己評価の指針としての「チェックリスト」を作成したプロセスの報告及びその取り組みにより保育者の認識の変容の実態を明らかにする。(山口高志・船津篤子・近藤康子・山梨優佳・高橋孝子・福田和子・山下康代・井上真理子)
コロナ禍における保育所の実習生受け入れ態勢の実態及び感染症対策、職場環境についての調査研究 第1報	共同口頭	2022年3月	日本保育者養成教育学会 第6回大会 (オンライン)	コロナ禍における保育所実習実現のため、現場と養成校の協働による、現場(子ども・職員)及び実習生の安全に配慮した実施方法について探る。保育所に対するアンケート結果から見えるコロナ禍における現場の実習に対する認識を量的に調査・分析した。(向笠京子・長島万里子・井上真理子・坂田哲人・高橋優子・伊藤路香・上田よう子)

コロナ禍における保育所の実習生受け入れ態勢の実態及び感染症対策、職場環境についての調査研究 第2報	共同口頭	2022年3月	日本保育者養成教育学会 第6回大会 (オンライン)	コロナ禍における保育所実習実現のため、現場と養成校の協働による、現場(子ども・職員)及び実習生の安全に配慮した実施方法について探る。保育所に対するアンケート結果から見えるコロナ禍における現場の実習に対する認識を質的に分析した。(長島万里子・向笠京子・井上真理子・坂田哲人・高橋優子・伊藤路香・上田よう子)
トライアル・アンド・エラーに学ぶ 質の向上を目指す保育マネジメント～試行錯誤のプロセスから捉える保育の質向上の検討～	自主シンポジウム	2022年5月	日本保育学会 第75回大会 (オンライン)	保育の質向上を目指し、保育の実践の改善に向けて、日々、保育者は試行錯誤を繰り返し、葛藤を経て、より良い保育を目指そうとしている。保育者のそのような営みが可能となるためには、それを認め、許す園の方針や組織風土、職員関係が不可欠であり、実践とマネジメントの両軸から検討することが欠かせない。今回は、行事の転換をめぐる質向上の実践を紐解き、試行錯誤のプロセスの実態に迫る。(井上真理子・田澤里喜・亀ヶ谷元譲・西井宏之)
「行事」の転換が保育者・組織の実態に及ぼす影響に関する質的研究～「劇あそび」から「チャレンジ活動」への転換を可能にした組織要因～	共同口頭	2022年5月	日本保育学会 第75回大会 (オンライン)	恒例となっていた「劇あそび」の行事をコロナ感染防止の観点で、変更せざるを得なくなったことを契機に、より教育理念に基づく行事のあり方へと変容する実践及び組織の変容プロセスを、管理職の視点と職員の実感を重ね、質的に分析することにより、「実践」と「組織」の両面の変容の実態を明らかにした。管理職の認識との相違から、マネジメント的な課題に迫る。(亀ヶ谷元譲・井上真理子・田澤里喜)
保育者のキャリアと成長を支えるマネジメントに関する研究～園長・主任・職員の三者のマッチングデータから捉える組織要因の分析～	共同ポスター	2022年5月	日本保育学会 第75回大会 (オンライン)	2018年に実施した全国認可保育所500園を対象にした質問紙調査の結果から、施設長・職員の両者から回答が得られたデータを用いて、マルチレベル分析を行った。「園長の日頃からのコミュニケーション」「園長のリーダーシップと職員のギャップ」「職員のライフプラン・キャリア志向の理解」「園長の外部とのコミュニケーションのあり方」の4点から考察した。(井上真理子・坂田哲人)
保育の成長をもたらす学びのあり方に関する研究 一園長・保育士の二者のマッチングデータの分析から一	共同ポスター	2023年5月	日本保育学会 第76回大会 (オンライン)	全国認可保育所を対象にした質問紙調査の結果から、園長が職員の成長に期待する研修等の学びの機会と、保育士等自身が成長を実感する学びの機会のマッチング分析を行った。保育士等キャリアアップ研修等の保育士の専門性を向上させる園外研修の機会の効果が現れるためには、モデルリーダー層の支援など、園内の環境のあり方を検討する必要性が結果から明らかになった。(加藤翼・井上真理子・坂田哲人)
トライアル・アンド・エラーから学ぶ 質の向上を目指す保育マネジメント(2) ～実践者・モデルリーダー・管理職の視点の重なりから考える～	自主シンポジウム	2023年5月	日本保育学会 第76回大会 (オンライン)	保育実践の向上を目指すとき、現状の保育の課題や閉塞感、見直し等を起点とし、現場で試行錯誤を繰り返す。そのプロセスに関わる、実践者、モデルリーダー、管理職らは、それぞれの立場や視点から現象を捉え、役割を担いながら組織全体で保育の転換を試みる。多様な視点から見る転換のプロセスを検討する。 企画: 田澤里喜・井上真理子 指定討論: 西井宏之・亀ヶ谷元譲 話題提供: 田中健介

保育者の職場に対する「心理的安全性」と組織の質に関する研究 ～保育者の学びと成長が保障される組織要因と管理職のリーダーシップ～	共同 口頭発表	2023年12月	日本乳幼児教育学会 第33回大会(名古屋)	全国の就学前施設を対象に行った質問紙調査の結果から、「心理的安全性」を高く感じている職員が多い施設を抽出し、その園の「主任」「中堅保育者」「若手保育者」の3者に対するインタビュー調査を行い、「心理的安全性」が保障される園の組織要因として、「リーダーの肯定的フィードバックへの信頼」「適度な距離感の担保」など5要因を明らかにした。 (井上眞理子・松井剛太・田澤里喜)
トライアル・アンド・エラーから学ぶ 質の向上を目指す保育マネジメント(3) ～保育実習と園マネジメントの両面からの 捉え直し～	自主シン ポジウム	2024年5月	日本保育学会 第77回大会 (オンライン)	本企画は、保育の中での葛藤や試行錯誤こそが質の向上につながる学びであるという視点から、実践に根ざしたマネジメントを再考するものである。今回は副園長や主任などミドルリーダーに焦点を当て、トライアル・アンド・エラーを通じた保育の質向上のプロセスを多角的に検討する。 企画・ファシリテーター: 田島大輔 指定討論: 田澤里喜・井上眞理子 話題提供: 西井宏之・佐藤 援
(社会的活動等)				
日本保育士協会 調査研究委員会 委員		2012年度 ～2016年度	日本保育士協会	
自主研修事業検討委員会 委員		2015年度 ～2019年度	日本保育協会	
世田谷区認可保育所整備・運営事業者選定委員会 委員		2015年度 ～2025年度	世田谷区	
養成校との連携を考えるWG アドバイザー		2015年度 ～2024年度	日本保育協会 神奈川県支部	
人材開発・組織マネジメントアドバイザー		2017年度～ 2020年度	HITOWAキッズライフ 株式会社	
『保育所における自己評価ガイドライン【改訂版】(試案)』の試行検証に関する調査研究事業」調査研究チーム訪問調査員		2020年度	厚生労働省	
評議員・人材開発室顧問 コンプライアンス第三者委員		2020年度 ～2025年度	社会福祉法人 厚生館福祉会	
人材育成マネージメント 教育アドバイザー		2020年度 ～2025年度	株式会社 小学館アカデミー	
保育実践充実コーディネーター		2022年度 ～2025年度	世田谷区 教育委員会	
保育士養成課程等検討会 構成員		2022年度 ～2023年度	厚生労働省	
保育分野におけるICTの導入効果及び普及促進方策に関する調査研究 委員		2022年度	厚生労働省	

第三者調査委員		2023年度	社会福祉法人 千葉学園	
世田谷区立公立保育園における事例検証委員		2023年度	世田谷区	
こども家庭庁 こども家庭審議会 専門委員(座長代理)		2023年8月～ (2026年4月)	こども家庭庁	幼児期までのこどもの育ち部会 保育士資格等に関する専門委員会
こども家庭庁 令和5年度 子ども・子育て支援調査研究事業「企業主導型保育事業における地域の課題等に関する調査研究」事業検討委員会 座長		2023年度	こども家庭庁	事業実施者 PwCコンサルティング合同会社
こども家庭庁 保育人材確保懇談会 構成員		2024年3月～ (2025年3月)	こども家庭庁	
こども家庭庁 令和6年度「保育士試験の質の確保に関する調査研究」検討委員会 座長		2024年4月～ (2025年3月)	こども家庭庁	事業実施者 有限責任監査法人トーマツ
世田谷区 保育の質ガイドライン策定委員会 委員長		2024年4月～ (2025年3月)	世田谷区	
川崎市内保育士養成校との意見交換会 委員		2024年4月～ (2025年3月)	川崎市社会福祉協議会	かわさき 保育実習園ガイドブック作成
世田谷区 子ども・子育て会議 委員		2025年4月～ (2025年3月)	世田谷区	
(講演・研修会等)				
平成28年度 世田谷区 保育実習指導研修会	講師	2016年6月	世田谷区主催	演題「未来の人材を確実に育て確保するために―実習指導、新人研修の可能性を探る」
平成28年度 静岡県 教員募集・採用研修会	講師	2016年6月	静岡県私立幼稚園 振興協会主催	演題「未来の人材を確実に育て確保するために―実習指導、新人研修の可能性を探る」
平成28年度 習志野市保育所・こども園職員研修「職種別研修(所長・室長会)」	講師	2016年6月	習志野市主催	演題「時代の変化に対応しうる所長・室長としての資質向上を目指す」
平成28年度 働きやすい環境づくりセミナー	講師	2016年8月	日本保育協会主催	プログラムⅠ「働きやすい環境づくり―保育者の実感から」 プログラムⅡ「組織運営上におけるメリット」
働くための環境をどうつくる	講師	2016年9月	simply design主催	演題「未来の保育者が考える働きやすさとは」
今、求められるリーダーを育てるには	講師	2016年12月	わくわくBase株式会社主催	「人が主体的に動く組織づくりに向けて」

平成29年度 豊島区施設長研修	講師	2017年6月	豊島区主催	「保育における人材育成、職員集団づくり」
平成29年度 園長・施設長講座	講師	2017年7月	横浜女子短期大学 保育センター	「保育に求められるリーダーシップの育成」
平成29年度 保育士等のキャリアと育成セミナー	講師	2017年8月	厚生労働省委託事業 日本保育協会主催	「保育士等職員の資質向上に向けて～管理職の役割・キャリアパスの構築」
第39回 全国青年保育者会議	講師	2017年9月	日本保育協会青年 部主催	「これからの保育園に必要なリーダー・中堅保育士の育成を考える」
平成29年度 第3回保育セオリー研修	講師	2017年11月	栃木県幼稚園連合 会主催	「保育者の育成と組織マネジメント」
平成29年度 日本保育協会新潟県支部青年部研修会	講師	2018年2月	日本保育協会新潟 県青年部主催	「これからの保育を担う職員の育成」
宮城県 大崎保育研究会「職員研修会」	講師	2018年7月	宮城県大崎保育研 究会	「主任・副主任・専門リーダーを中心に育ち合う組織へ」
平成30年度 世田谷区保育課実習指導研修	講師	2018年8月	世田谷区主催	「実習生の受け入れについて学ぶ」
保育所等マネジメント研修会～副主任対象	講師	2018年9月	日本保育協会	「マネジメントの理解」
川崎市幸区 全体園長連絡会議講演会	講師	2018年9月	川崎市幸区	「職員の人材育成について:職員を育てるための環境づくりと園長のリーダーシップ」
平成30年度 豊島区子ども福祉研修 「副園長・主査・リーダー研修」	講師	2018年11月	豊島区主催	「組織的な保育の展開とマネジメント」
平成30年度 施設長運営研修会	講師	2018年11月	群馬県保育協議会	分科会「保育現場における人材育成と組織づくり～人材確保と施設長のリーダーシップ～」
川崎市幸区 主任保育士会議講演会	講師	2018年12月	川崎市幸区	「職員の人材育成について:職員を育てるための環境づくりと園長のリーダーシップ」
保育所等マネジメント研修 ～施設長対象～	講師	2019年2月	日本保育協会	マネジメントの理解～長が果たす組織での役割～

日本保育協会 中堅所長研修会	講師	2014年度 ～2017年度	日本保育協会	日本保育協会が主催する中堅所長研修会において、保育所の組織マネジメントをテーマに人材を育成する組織の在り方についての講演を行った。
世田谷区開設前支援プログラム	講師	2014年度 ～2023年度	世田谷区	・保育施設の開設・運営の課題 ・保育所の組織マネジメントと人材育成
保育マネージャー養成講座	講師	2015年度～ 2017年	日本保育協会	・保育理念と組織マネジメント ・自園の人材を把握する ・人材を活かす組織マネジメント ・持続可能な組織づくり
世田谷区開設前支援プログラム フォローアップ研修	講師	2015年度 ～2024年度	世田谷区	1「開設後の現状を把握する」 2「保育の環境構成の現状と課題」 3「自園のアクションプランをつくる」
保育所初任所長等研修会	講師	2016年度～ 2017年度	日本保育協会	組織マネジメントとこれからの保育所づくり
主任保育士等研修事業 保育所等実習指導研修会	講師	2016年度～ 2018年度	厚生労働省委託事業 日本保育協会主催	プログラム4「保育実習～基本編～」 プログラム6「自園における保育所実習」
保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2017年度 ～2022年度	神奈川県 神奈川県保育会	「保育の質向上につながる職員育成にリーダーはどう向き合うか」 「保育士等の育成」
保育の質を考え合うシンポジウム	コーディネーター	2017年 1月・10月 2018年 9月	保育の質を考え合う シンポジウム実行委員会主催	「子どもの未来につながる0歳児保育の質」 (汐見稔幸・井桁容子・井上眞理子) 「なぜ乳幼児教育に“共感”なのか」 (佐伯胖・井桁容子・井上眞理子) 「」 (井桁容子・井上眞理子)
平成29年度 保育士育成研修 ※保育士キャリアアップ研修	講師	2017年 7月・12月	神奈川県保育会	「保育の質向上につながる職員育成にリーダーはどう向き合うか」
平成29年度 保育士のキャリアアップ研修 の実施に向けて事前説明会	講師	2017年11月 2018年6月	沖縄県主催	「これからの保育施設に必要な職員育成を考える」 「保育者の育成と組織の課題」
HITOWAキッズライフ株式会社 研修会	講師	2017年度 ～2023年度	HITOWAキッズライフ 株式会社	園長研修・主任研修・新採用者研修
保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2018年度 ～2024年度	東京都 公益財団法人総合 健康推進財団	「職員が育つ組織づくり」「リーダーシップ論」「保育現場における人材育成の現状と課題」「組織論の基礎」「保育理念の実現と保育時線」「働きやすい環境づくりと保育の質向上」 「職員の特性を生かしたチームづくり」「未来の保育現場を担う人材育成と実習」
保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2018年度 ～2023年度	神奈川県 横浜女子短期大学 研修センター	「保育に求められるリーダーシップの育成」

保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2018年度 ～2024年度	川崎市	「保育所等における人材育成」
平成30年度 宮崎県保育連盟連合会研修 ※保育士キャリアアップ研修	講師	2018年 4月・6月	宮崎県 宮崎県保育連盟連 合会主催	「現場で役立つマネジメント～意味あるキャ リアアップ研修にしよう」
保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2018年 4月・6月	山形県 日本保育協会山形 県支部	「人材育成と組織の環境」「リーダーに求め られる役割」「保育現場における職員育成 の現状と課題」「組織としての保育施設」
園長研修	講師	2018年10月 2019年2月	ベネッセ	「保育の質を高める施設長の役割」 「組織におけるリーダーの役割とコミュニ ケーション」
平成29年度 日本保育協会長野県支部中 央研修会	講師	2018年1月 2019年1月	日本保育協会長野 県支部	「保育の質向上と組織マネジメント」 「保育者の育成と組織マネジメント」
沖縄県 保育施設管理職向け研修	講師	2018年6月 2018年11月	CREATIVE CONSENT	「組織としての保育施設と保育者の専門 性」 「組織的な保育の展開とマネジメント」
保育士等キャリアアップ研修 「幼児教育」	講師	2019年度 ～2023年度	東京都 公益財団法人総合 健康推進財団	「職員が育つ組織づくり」「リーダーシップ 論」「保育現場における人材育成の現状と 課題」「組織論の基礎」「保育理念の実現と 保育時線」「働きやすい環境づくりと保育の 質向上」 「職員の特性を生かしたチームづくり」「未 来の保育現場を担う人材育成と実習」
保育施設長研修～運営管理編～	講師	2019年 1月(大阪) 2月(東京)	日本保育協会	保育所等の組織マネジメントとリーダーシップ
東京都私立幼稚園連合会 研究大会 分科会	講師	2020年度 ～2022年度	東京都 私立幼稚園連合会	
世田谷区 人材育成研修	講師	2020年度 ～2023年度	世田谷区	保育者養成の現状を知り、実習指導を通じ た職員育成のあり方について学ぶ。
社会福祉法人 協愛福祉会 法人研修	講師	2021年度 ～2024年度	社会福祉法人 協愛 福祉会	
保育士等キャリアアップ研修	講師	2021年度 ～2022年度	東京都民間保育園 協会	
関東地区教員研修 神奈川大会	講師	2022年度	全日本私立幼稚園 連合会	特別フォーラム 園長・設置者向け

浄土宗保育協会関東地区研修会	講師	2022年度	浄土宗保育協会関東地区連絡会	
企業主導型保育事業 施設長等研修	講師	2022年度～ 2023年度	児童育成協会	保育施設等における人材育成
教育セミナー	講師	2022年度	日本社会福祉マネジメント学会	保育現場におけるリーダーシップと組織マネジメント
幼稚園保育実践講座	講師	2022年度	福島市教育委員会	
公私幼保合同研修「施設長研修」	講師	2022年度	大阪市	
保育所・認定こども園・幼稚園職員研修会	講師	2022年度	金沢市	
認定こども園・幼稚園・保育所等の教頭・主任等研修会	講師	2022年度	熊本県教育委員会	
香川県私立幼稚園連盟 夏季特別研修会	講師	2022年度	香川県私立幼稚園連盟	
香川県保育協議会 所長研修会	講師	2022年度	香川県保育協議会	
第65回 香川大学教育学部附属幼稚園研究発表会 講演	講師	2022年度	香川大学教育学部	
大田区私立幼稚園 教諭研修	講師	2022年度	大田区私立幼稚園連盟	
大田区区立保育園 副園長・主任研修	講師	2022年度	大田区	
川崎市保育所等職員研修	講師	2022年度	川崎市	不適切な保育を未然に防ぐために～子どもの人権を尊重する保育～

保育実践充実推進のための中央セミナー	講師等	2022年度～ 2023年度	厚生労働省	令和4年度 分科会(ア)保育所等における 保育内容等の自己評価【基調講演】 令和5年度 分科会(ア)保育の振り返りを 通じた実践の向上(保育内容等の自己評 価)」助言者
全日私幼連 関東地区教員研修	講師	2024年度	全日私幼連大会事 務局	
中国・四国ブロック研修会	講師	2024年度	全国私立保育連盟 中国・四国ブロック事 務局	
東京都公立幼稚園・こども園 副園長研修	講師	2024年度	東京都公立幼稚園・ こども園副園長会	未来へつなぐ幼児教育を推進する幼稚園・ こども園における副園長の役割
東社協保育部会 保育講座	講師	2024年度	東京都社会福祉協 議会	保育所における組織マネジメント～チーム の一員として何が出来るか～
保育人材育成研修	講師	2024年度 2025年度	東京都福祉保健財 団	・東京都認証保育所施設長研修 ・東京都認可外保育施設職員テーマ別研 修
世田谷区 区立保育園施設長マネジメント 研修	講師	2024年度	世田谷区	
世田谷区 運営方針を具現化するための組 織づくり研修	講師	2024年度	世田谷区	世田谷区放課後児童健全育成事業の運営 方針 区立児童館・新BOP・民設民営放課 後児童クラブ対象
広島市私立保育協会職員研修	講師	2024年度	広島市私立保育協 会	
板橋アカデミー 板橋区立学校園教職員・教育委員会	講師	2024年度	板橋区教育支援セン ター	学びの基盤をつくる幼児教育と小学校との 接続～子どもの主体性・多様性を尊重し、 組織で実現する教育の質～
(その他)				
特集「保育体験の新しいデザイナー 神奈川 県発、Win-Win連携に学ぶ」	共著	2016年1月	フレーベル館 「保育ナビ」1月号 10～19頁	ミスマッチが多かった保育者養成校と保育 現場の連携。そのあり方を見直し、互いの 存在を認め、対等な関係で保育者を目指す 人材の育成に取り組むことの魅力や可能 性、保育実習をも変える新たな連携の形を 提案する。

特集「リーダーの学びスイッチ！ 園を成長へと導くリーダーの学びの姿勢」	共著	2017年12月	フレーベル館 「保育ナビ」12月号 4-24頁	保育の質を上げ、選べる園となっていくために、また園全体がイキイキとした集団となっていくために大切な要素として、リーダーの学びに注目した。園の未来のビジョンを描き、職員に方向性を示すリーダー、その学びに対する姿勢はどうあればいいのか、なぜリーダーは学ぶ必要があるのか、学び続けるリーダーの実例と座談会からリーダーとしての学びを考察する。
連載「保育マネージャー養成講座—管理職のスキルアップと園の保育の質向上のために」	共著	2016年度 4月号～3月号	フレーベル館 「保育ナビ」連載	保育現場における園長をはじめとする管理職が、保育の質向上のために、自園の職員の特性を活かし、保育理念の実現のためにどのようにリーダーシップを発揮し、具体的な手立てをどのように講じるか、保育マネージャー養成講座でのワークを紹介しながら、手法と理論を解説する。
連載企画「園内研修講座 特選6講」	共著	2019年 4月～	フレーベル館 「保育ナビ」2019年度 4月号～	保育の質向上や職員の専門性を高めるために各保育施設において実施されている園内研修であるが、時間とエネルギーを要するばかりで職員の学びにつながらないという実態もある。また多様な保育施設が誕生する中で、ミドルリーダーなど園内研修を企画する職員に経験やアイデアが不足している現状から、特にテーマとして重要な6つについて、専門家の園内研修を紹介することにより、研修充実を図る企画である。 (企画者: 井上真理子・坂田哲人・今井豊彦)(執筆: 那須信樹<4月号>)
日本教育新聞 「保育の質向上のための組織マネジメント」連載	単著	2020年3月～ 2021年3月	日本教育新聞社	保育現場における質向上に伴う現実的な課題を組織マネジメントの視点で解説する。
厚生労働省「保育をもっと楽しく 保育所における自己評価ガイドライン ハンドブック」	作成協力	2020年12月	厚生労働省	
厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン」	作成協力	2021年3月	厚生労働省	
日本教育新聞 「続・保育の質向上のための組織マネジメント: 実践編」連載	単著	2021年4月～ 2022年3月	日本教育新聞社	保育現場における質向上を目指すために、マネジメントの理論をどう保育実践に活かすのか、現場の管理職、実践者との対話からより実践的アプローチで組織マネジメントについて解説する。
厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン 業務改善実践に向けた事例集」	作成協力	2022年3月	厚生労働省	

リレー討論「教育・保育の無償化」令和時代の保育学 xi	寄稿	2023年1月	日本保育学会	多様化する保育ニーズに対応する人材確保と管理職のマネジメント
ミスマッチから生まれるマネジメント～次世代リーダーの葛藤と新発想	監修	2023年1月号	フレーベル館 「保育ナビ」特集	「ミスマッチ」を前提にしたマネジメントのすすめ～次世代リーダーたちの挑戦
保育の友 2023年3月号 特集 スムーズに新年度を迎えるために	共著	2023年3月	全国社会福祉協議会	保育者のモチベーションを高めるリーダーのあり方
あそびと環境 目指せ 保育者同士が育ち合う園	監修	2023年4月号	(株)GAKKEN幼児教育事業部	「園は組織として機能する」「学びあう風土」「役割付与」
時間とゆとりをつくり出す 保育所等におけるはじめてのICT活用ハンドブック	作成協力	2023年3月	厚生労働省	三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社
日本教育新聞 「保育を楽しむ組織マネジメント」連載	単著	2023年4月～ 2024年3月	日本教育新聞社	子ども主体の保育、保育の質向上を実現するためには、保育者もまた、保育にやりがいを実感し、子どもと共に生き生きと保育に参画する必要がある。香川大学教育学部附属幼稚園の実践をもとに、保育実践および組織マネジメントの視点でリアルな保育の実際を紹介する。
ぜんほきょう 特集 施設長のあり方(めざす姿)	寄稿	2023年10月	全国保育協議会	
保育ナビ 2024年3月号 スペシャル対談 地域課題の解消へ まちと子どもをつなぐ保育・教育改革	共著	2024年3月	フレーベル館	井上真理子 川田 学
保育の友 2024年5月号 特集 違いは魅力！ ～働きがいのある職場であり続けるために～ 総論 多様性を前提とし「気づき」を共有しながら学び合える組織になるために	単著	2024年4月	全国社会福祉協議会	
日本保育学会 会報189号 特集～コロナ禍で変化したこと、変化しなかったこと～ 「省察的実践がもたらす保育者養成プロセスと能動的学びの意義を再考する」	寄稿	2024年4月	日本保育学会	
幼児教育じほう 2024年11月号 特集「保育者のウェルビーイング」 論説 保育者の「多様性」の尊重と持続可能な保育の質	単著	2024年11月	全国国公立幼稚園・認定こども園	

世田谷区 保育の質ガイドライン(改訂)	作成協力	2024年度	世田谷区	ガイドライン改訂委員会 委員長
日本教育新聞 連載 「実践×理論で考える 組織マネジメント」	共著	2025年度	日本教育新聞社	

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 秋山 徹

著書・学術論文などの名称	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(学会発表等)			
音楽鑑賞教室	2015/3/13	狛江市文化振興事業	狛江市文化振興事業団 主催
フィリアジュニア合唱団コンサート	2015/3/22	フィリアホール事業 洗足学園音楽大学 後援	フィリアホール主催、洗足学園音楽大学後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)湯山昭:電話 他
ゴールデンウェーブ in 横浜	2015/4/13	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
秦野市楽友協会創立30周年コンサート	2015/6/14	秦野市楽友協会演奏会	秦野市楽友協会 主催 秦野市 共催 秦野市教育委員会/秦野市音楽協会 後援
ミューザ川崎市民合唱祭	2015/6/28	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
芸術鑑賞会	2015/7/8	神奈川県立厚木北高等学校 芸術鑑賞会	神奈川県立厚木北高等学校 主催
相模原市合唱祭	2015/7/12	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
厚木合唱祭	2015/7/20	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
川崎の風コンサート2015	2015/8/29	川崎市文化協会演奏会 川崎市文化協会 主催 川崎市 /川崎区 共催 川崎市教育委員会 他 後援	川崎市文化協会主催、川崎市・川崎区共催、川崎市教育委員会・他後援演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)藤村記一郎:「ぞうれっしゃがやってきた」
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2015/9/5	子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所 主催 洗足学園音楽大学・大学院 共催 川崎市教育委員会/「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/高津区役所主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤おに」
厚木男声合唱団定期演奏会	2015/10/17	厚木男声合唱団演奏会	厚木男声合唱団 主催 厚木市 共催 厚木合唱連盟/厚木市音楽協会 後援
芸術鑑賞会	2015/10/24	横浜市立荏田南小学校芸術鑑賞会	横浜市立荏田南小学校 主催

ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2015/12/3	FUYUON 2015	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
鎌倉風致保存会コンサート	2016/1/31	鎌倉風致保存会事業	鎌倉風致保存会 主催 鎌倉・逗子・葉山市教育委員会 他 後援
フィリアジュニア合唱団コンサート	2016/3/20	フィリアホール事業	フィリアホール主催の演奏会において、幼 児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)シューベルト:魔王、ビゼー:オ ペラ「カルメン」闘牛士の歌
ゴールデンウェーブ in 横浜	2016/4/11	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 他 主催 神奈川県・横浜市 他 後援
湘南合唱祭	2016/6/5	湘南合唱連盟演奏会	湘南合唱連盟 主催 茅ヶ崎市音楽協会 / 茅ヶ崎市文化・スポー ツ振興財団 後援
厚木混声合唱団定期演奏会	2016/6/19	厚木混声合唱団演奏会	厚木混声合唱団 主催 厚木市 共催 厚木合唱連盟/厚木市音楽協会 後援
ブッチーニ 作曲 オペラ「蝶々夫人」	2016/7/2	「蝶々夫人」実行委員会演奏 会	「蝶々夫人」実行委員会 主催 エリザベート音楽大学 後援
相模原市合唱祭	2016/7/10	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
ミューザ川崎市民合唱祭	2016/7/17	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
厚木合唱祭	2016/7/18	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
ワーグナー 作曲 オペラ「トリスタンとイゾルデ」	2016/9/11・17	東京二期会オペラ劇場公演	東京二期会 主催 読売日本交響楽団 共催 ドイツ連邦共和国大使館 他 後援
秦野マンドリンクラブ定期演奏会	2016/11/23	秦野マンドリンクラブ演奏会	秦野マンドリンクラブ 主催 秦野市/秦野市教育委員会 後援
女声合唱団「すみれ会」定期演奏会	2016/11/26	すみれ会演奏会	すみれ会 主催 相模原市教育委員会/相模原市合唱連盟 後援
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2016/12/5	FUYUON 2016	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
フィリアジュニア合唱団コンサート	2017/3/18	フィリアホール事業	フィリアホール主催の演奏会において、幼 児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)ムソルグスキー:蚤の歌、大中 恩:早口ことばのうた

小黒恵子童謡記念館リニューアルオープン記念コンサート	2017/4/1	小黒恵子童謡記念館事業	小黒恵子童謡記念館リニューアルオープンに伴う記念コンサートにおいて、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)小黒恵子の詩による5曲のメドレー
ゴールデンウェーブ in 横浜	2017/4/10	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 他 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
せたがや歌の広場コンサート	2017/5/19	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」事業	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」/世田谷区 主催
湘南合唱祭	2017/6/11	湘南合唱連盟演奏会	湘南合唱連盟 主催 藤沢市みらい創造財団 / 藤沢市合唱連盟 後援
ミューザ川崎市民合唱祭	2017/6/17	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
相模原市合唱祭	2017/7/9	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
厚木合唱祭	2017/7/17	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2017/9/2	子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所 主催 洗足学園音楽大学・大学院 共催 川崎市教育委員会/「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤おに」
レーヴェ&ドイツ歌曲のワンダーランド	2017/9/11	日本カール・レーヴェ協会演奏会	日本カール・レーヴェ協会 主催 国際カール・レーヴェ協会 後援
芸術鑑賞会	2017/10/21	横浜市立荏田南小学校芸術鑑賞会	横浜市立荏田南小学校 主催
モラヴィアの風	2017/10/27	純声会演奏会	純声会 主催 チェコ大使館/洗足学園音楽大学 他 後援
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2017/12/7	FUYUON 2017	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
厚木混声合唱団定期演奏会	2017/12/24	厚木混声合唱団演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
ゴールデンウェーブ in 横浜	2018/4/16	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 他 主催 神奈川県/横浜市 他 後援

厚木男声合唱団定期演奏会	2018/5/12	厚木男声合唱団演奏会	厚木男声合唱団 主催 厚木市/厚木合唱連盟/厚木市音楽協会 後援
せたがや歌の広場コンサート	2018/5/18	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」事業	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」/世田谷区 主催
ミュージア川崎市民合唱祭	2018/6/23	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2018/7/4・5	平成30年度栗原市事業	栗原市教育委員会 主催の芸術鑑賞会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤おに」
相模原市合唱祭	2018/7/8	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
ブッチーニ 作曲 オペラ「ラ・ボエーム」	2018/7/14	「ラ・ボエーム」実行委員会演奏会	「ラ・ボエーム」実行委員会 主催 エリザベート音楽大学 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2018/9/1	子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所 主催 洗足学園音楽大学・大学院 共催 川崎市教育委員会/「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/高津区役所主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤おに」
厚木市民芸術文化祭	2018/10/28	厚木合唱連盟演奏会	厚木市 主催 厚木市教育委員会 後援
洗足学園フェスティバル2018 「ファミリーコンサート」	2018/11/11	GAKUSAI 2018	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2018/12/5	FUYUON 2018	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
あつぎ市民芸術文化祭 交響曲第9番「合唱」	2018/12/16	厚木市事業	厚木市 主催 厚木市教育委員会 後援
コーラルフェストかわさき	2019/2/3	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催
ゴールデンウェーブ in 横浜	2019/5/20	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 他 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
厚木混声合唱団定期演奏会	2019/5/26	厚木混声合唱団演奏会	厚木混声合唱団 主催 厚木市 共催 厚木合唱連盟/厚木市音楽協会 後援

湘南合唱祭	2019/6/2	湘南合唱連盟演奏会	湘南合唱連盟 主催 座間市 / 座間市合唱連盟 後援
ミュージア川崎市民合唱祭	2019/7/6・7	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
相模原市合唱祭	2019/7/7	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
厚木合唱祭	2017/7/15	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2019/9/7	子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所 主催 洗足学園音楽大学・大学院 共催 川崎市教育委員会/「音楽の まち・かわさき」推進協議会 後援	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所主催の演奏会において、幼児 対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤お に」
谷川忠博 作曲 オペラ「宝蓑」	2019/9/29	「宝蓑」公演実行委員会主催	「宝蓑」公演実行委員会 主催 川崎市/川崎市教育委員会/「音楽のまち・ かわさき」推進協議会後援の演奏会におい て、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)谷川忠博:オペラ「宝蓑」
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2019/12/5	FUYUON 2019	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
コーラルフェストかわさき	2020/2/2	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2020/9/5	子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所 主催 洗足学園音楽大学・大学院 共催 川崎市教育委員会/「音楽の まち・かわさき」推進協議会 後援	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所主催の演奏会において、幼児 対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤お に」
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2021/2/10	洗足学園音楽大学附属幼稚 園 主催	洗足学園音楽大学附属幼稚園主催の演奏 会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤お に」
せたがや歌の広場コンサート	2021/3/24	世田谷うたの広場「詩と作曲 の会」事業	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」/世田谷 区 主催
ミュージア川崎市民合唱祭	2022/6/26	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
厚木合唱祭	2022/7/17	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援

松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2022/8/10	子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所 主催 洗足学園音楽大学・大学院 共催 川崎市教育委員会/「音楽の まち・かわさき」推進協議会 後援	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所主催の演奏会において、幼児 対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤お に」
あつぎ市民芸術文化祭	2022/10/30	厚木市事業	厚木市 主催 厚木市教育委員会 後援
秦野マンドリンクラブ定期演奏会	2022/11/23	秦野マンドリンクラブ演奏会	秦野マンドリンクラブ 主催 秦野市/秦野市教育委員会 後援
チャリティコンサート	2023/1/7	秦野市文化振興基金助成事 業	フォーライフ 主催 秦野市/秦野市社会福祉協議会 後援
コーラルフェストかわさき	2023/2/5	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催
厚木合唱連盟ウィンターコンサート	2023/2/25	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市音楽協会 後援
厚木男声合唱団第5回演奏会	2023/5/3	厚木男声合唱団演奏会	厚木男声合唱団 主催 厚木市/厚木合唱連盟/湘南合唱連盟/厚 木市音楽協会 後援
厚木混声合唱団定期演奏会	2023/5/28	厚木混声合唱団演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市合唱連盟/厚木市音楽協会 後援
湘南合唱祭	2023/6/4	湘南合唱連盟演奏会	湘南合唱連盟 主催 伊勢原市合唱連盟 後援
ミュージア川崎市民合唱祭	2023/6/10/10・11	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団/川崎市文化財 団グループ 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
厚木合唱祭	2023/6/25	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2023/8/5	子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所 主催 洗足学園音楽大学・大学院 共催 川崎市教育委員会/「音楽の まち・かわさき」推進協議会 後援	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所主催の演奏会において、幼児 対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤お に」
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2023/10/23	洗足学園音楽大学附属幼稚 園 主催	洗足学園音楽大学附属幼稚園主催の演奏 会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤お に」

あつぎ市民文化祭 「音楽発表会」	2023/10/29	厚木市事業	厚木市 主催 厚木市教育委員会 後援
ファールムコンサート	2023/12/1	日本現在音楽協会演奏会	日本現代音楽協会 主催 (社)日本音楽作家団体協議会 後援
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2023/12/7	洗足学園音楽大学・大学院/ 洗足こども短期大学演奏会	洗足学園音楽大学・大学院/洗足こども短期大学 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
ワールドミュージックコース ウィンターコンサート 2023	2023/12/17	洗足学園音楽大学・大学院 演奏会	洗足学園音楽大学・大学院 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
コーラルフェストかわさき	2024/2/3	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催 川崎市/川崎市教育委員会 共催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会/川崎市文化財団 後援
松井和彦 作曲 ぎずなオペラ「泣いた赤おに」	2024/2/4	SENZOKU GAKUEN 100th. ANNIVERSARY プレミアムコ ンサート	洗足学園音楽大学・大学院 主催 「音楽 のまち・かわさき」推進協議会 後援の演奏 会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤お に」
あつぎ高校合唱祭	2024/3/26	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
湘南合唱祭	2024/5/12	湘南合唱連盟演奏会	湘南合唱連盟 主催 小田原市合唱連盟 後援
ミューザ川崎市民合唱祭	2024/6/22/23	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化財団 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
厚木合唱祭	2024/7/28	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤おに」	2024/8/3	子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所 主 催 洗足学園音楽大学・大学院 共催 川崎市教育委員会/「音楽の まち・かわさき」推進協議会 後援	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所主催の演奏会において、幼児 対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤お に」
洗足学園小学校オーケストラ演奏会	2024/8/11	洗足学園小学校 主催	洗足学園小学校主催の演奏会において、 合唱指導を担当した。
あつぎ市民文化祭 合唱ワークショップ	2024/10/27	厚木市事業	厚木市 主催 厚木市音楽協会 主管
あつぎ音楽祭	2024/11/3	厚木市事業	厚木市 主催 厚木市音楽協会 主管

ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2024/12/10	洗足学園音楽大学・大学院/ 洗足こども短期大学演奏会	洗足学園音楽大学・大学院/洗足こども短期大学 主催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 後援
鎌倉芸術祭	2024/12/15	鎌倉芸術祭実行委員会演奏会	鎌倉芸術祭実行委員会 主催 鎌倉市/鎌倉市教育委員会 後援
オペラ講座 モーツァルト作曲 「フィガロの結婚」	2025/1/12	秦野市立本町公民館主催事業	秦野市立本町公民館 主催
コーラルフェストかわさき	2025/2/1	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催 川崎市/川崎市教育委員会 共催 「音楽のまち・かわさき」推進協議会/川崎市文化財団 後援
あつぎ市民芸術文化祭	2025/2/9	厚木市 主催 厚木市教育委員会 後援	厚木市主催、厚木市教育委員会後援の演奏会において、児童合唱の指導と指揮を行った。
(講演、学会における役職等)			
「保育士を志す学生の集い研修会」講師	2015/6/6	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会において、幼児教育の現場でも取り上げられる楽曲をテーマとして、各楽曲の解説を、実演を含めて講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2015/8/9	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「保育士を志す学生の集い研修会」講師	2016/6/4	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会において、幼児教育の現場でも取り上げられる楽曲をテーマとして、各楽曲の解説を、実演を含めて講演した。
「幼児期に必要な音楽とは」講師	2016/7/25	緑区幼保小教育交流事業 夏季合同職員研修会 講師 緑区 主催	緑区幼保小教育交流事業合同職員研修会において、幼児期に必要な音楽をテーマとして、楽曲の紹介や解説、指導上の留意点、それに伴う発声や発音について講演した。
「音楽リズムと乳幼児の保育」講師	2016/11/9	高津区保育施設職員研修 高津区 主催 洗足こども短期大学 共催	高津区保育者対象人材育成研修において、音楽リズムと乳幼児の保育をテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「幼児の音楽指導の実践について」講師	2017/5/31	うめのき保育園職員研修 うめのき保育園 主催	うめのき保育園職員研修会において、乳幼児の音楽指導の実践についてをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「乳幼児の発達に即した楽器遊び」講師	2017/6/1	高津区保育施設職員研修 高津区 主催 洗足こども短期大学 共催	高津区保育施設職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「保育士を志す学生の集い研修会」講師	2017/6/3	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会において、幼児教育の現場でも取り上げられる楽曲をテーマとして、各楽曲の解説を、実演を含めて講演した。
「保育士を志す学生の集い研修会」講師	2018/6/2	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会において、幼児教育の現場でも取り上げられる楽曲をテーマとして、各楽曲の解説を、実演を含めて講演した。
「乳幼児の発達に即した楽器遊び」講師	2018/6/26	高津区保育施設職員研修 高津区 主催 洗足こども短期大学 共催	高津区保育施設職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。

「保育士を志す学生の集い研修会」講師	2019/6/1	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会において、幼児教育の現場でも取り上げられる楽曲をテーマとして、各楽曲の解説を、実演を含めて講演した。
「楽器はお友達」講師	2019/6/27	高津区保育施設職員研修 高津区 主催 洗足こども短期大学 共催	高津区保育施設職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「乳幼児の発達に即した楽器遊び」講師	2019/10/30	つくし保育園職員研修 つくし保育園 主催	つくし保育園職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2021/7/4	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「みんながたのしめるコンサートをつくろう！」講師	2021/11/14 2021/12/5	高津区にコンサートをつくる会/川崎市教育委員会 主催	高津区にコンサートをつくる会/川崎市教育委員会主催事業において、幼児、児童対象のコンサート制作をテーマとして講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2022/7/3	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
秦野青少年音楽祭 審査員	2023/7/2	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
(その他、教育活動)			
小黑恵子童謡記念館における解説資料作成	2017/4/1	小黑恵子童謡記念館事業	小黑恵子童謡記念館における館内展示の解説資料作成者を務めた。
図書館便り<私の推薦図書>	2020/11/1	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学附属図書館 第12巻 第2号 (1ページ)	「歌舞伎400年の言葉」学ぶ・演じる・育てるを推薦図書として、推薦内容を掲載した。
(単著) コード伴奏による幼児歌曲100曲集	2015年4月1日 第1刷 2016年4月1日 第2刷 2017年4月1日 第3刷 2018年3月1日 第4刷(再編) 2019年3月1日 第5刷 2020年2月1日 第6刷 2021年3月1日 第7刷 2022年3月1日 第8刷 2023年3月1日 第9刷 2024年3月1日 第10刷	カワイ出版 (128ページ)	楽曲の弾き歌い技能向上の為、運指が行い易くコード伴奏で演奏可能な幼児歌曲集を、調性、和音、発想用語など、原曲を損なわぬよう配慮して、幼児歌曲より100曲を精選して作成。全曲にコード、ならびにオリジナル楽譜が参考となる楽曲についてはピアノ鍵盤図を付記した。また、演奏に際しての留意点、弾き歌いの実践方法、各調の主要三和音と伴奏例の実践方法などの解説を記載し、教材としても活用している。
図書館便り<私の推薦図書>	2024/9/1	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学附属図書館 第15巻 第1号 (1ページ)	「泣いた赤おに」「夕鶴」「かさじぞう」を推薦図書として、推薦内容を掲載した。

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 坪井 葉子

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(紀要論文)				
保育者養成に関する体験型学習プログラムの検討	共著	2024.3	洗足論叢 第52号 研究ノート (11ページ)	2023年5月に洗足こども短期大学で実施した「絵本の部屋ワークショップ」に関連して、保育者養成にかかる先行研究をレビューすることで、体験型学習プログラムの効用と課題を探った。体験的学習では意欲的な学びや実践的な実感を持った気づきなどの教育的効果が指摘されていた。質問紙の活用など客観的な方法によって客観的な効果を示すことが今後の課題である。(共同研究により抽出不可)
保育所保育指針・保育士養成課程基準を踏まえた乳児保育の授業展開の検討	共著	2022.3	洗足論叢 第50号 研究ノート (13ページ)	2018年の保育所保育指針改定、それに伴う保育士養成課程カリキュラムの改訂による「乳児保育」科目の増加充実に対して、養成校として対応ができていくかどうかについて、シラバス、学生へのアンケートから検討した。実践的、具体的、体験的な学びを土台とし、概念的な学習を行う配慮がある方が効果的な学習が期待できることが示唆された。(共同研究により抽出不可:主に教授内容の基準、シラバスと授業展開の実際、結果と考察について担当)
(学会等および社会における主な活動)				
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2019.8 2020.8 2021.8	川崎市幼稚園協会	「園内外における質の高い連携を目指して」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2019.5	川崎市幼稚園協会	「義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼稚園教育の内容とは」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2020.11	川崎市幼稚園協会	「幼稚園教育要領の保育内容と保育実践の繋がりを考える」を担当
神奈川県社会福祉協議会 第3回保育研修会 講師		2019.3	神奈川県 社会福祉協議会	「信頼関係を育む園内研修の考え方・進め方」を担当

神奈川県社会福祉協議会 第三者評価 評価機関・評価調査者 説明会 講師	2019.2	神奈川県 社会福祉協議会	「福祉サービス第三者評価・内容評価（保育所版）の概要について」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師	2018.8	川崎市幼稚園協会	「園内外における質の高い連携を目指して」を担当
川崎市子ども・子育て会議 委員	2015.04～2025.0	川崎市	計画推進部会、教育・保育推進部会
福祉サービス第三者評価推進委員会 委員	2015.04～ 2021.03	川崎市	福祉サービス機関の第三者評価受診 推進にあたっての助言
保育士処遇改善キャリアアップ研修 講師	2017.12	川崎市	「幼児教育の意義」を担当
洗足学園大学附属幼稚園 研修会講師	2017.08	洗足学園大学 附属幼稚園	幼稚園教育要領改訂の理解 「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の 理解について
川崎市児童福祉審議会委員	2014.04～	川崎市	川崎市児童福祉審議会第2部会部会長 川崎市児童福祉審議会副委員長(2017. 04 ～全体会副委員長)
講演会講師 (平成28年度第2回麻生区幼保小連携事業実務担 当者会議 講師)	2016.10.24	川崎市麻生区役所 保健福祉センター	「幼小接続期の発達課題とその支援」
川崎市保育所整備推進室 民間活用推進委員会	2016.08 2017.03 2018.03	川崎市	川崎市保育所整備推進室民間活用推進委員 会に選考委員として出席
川崎市高津区食育推進分科会	2022.04～	川崎市高津区	川崎市高津区食育推進分科会に委員として出 席

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 柳井 郁子

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
『はじめて学ぶ乳児保育(第二版)』(コラム7 担当)	共 著	2018年3月	同文書院 (203ページ)	保育者を志す学生向けに、保育の場での 子どもの育ち、保護者の成長について記し た。また、園生活を通じて子どもが保育者 や園児たちとの関係を構築し、親も保育者 や保護者とのかかわりをもつことは豊かな 園生活のために大切であることを述べた。 保育所での経験が子どもと保護者それぞ れにどのような影響を及ぼすのか、そこで 保育者に期待される役割とは何かについて 論じた。(pp:122-126) 志村聡子 編著 吉長真子・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知 子・塩崎美穂・柳井郁子・小柳康子・宇都弘 美 著
『保育学用語辞典』	共 著	2019年12月	中央法規(450ページ)	辞典項目執筆： 「日本保育学会」「児童愛護連盟」「民主保 育連盟」のそれぞれの項目について、保育 の実践者、研究者、保育及び教育・心理な どの隣接領域の学生を想定し、保育の歴 史的発展をふまえた説明をした。 秋田喜代美監修／東京大学大学院教育学 研究科附属発達保育実践政策学センター 編著
『はじめて学ぶ乳児保育(第三版)』(コラム7 担当)	共 著	2022年3月	同文書院 (208ページ)	保育者を志す学生向けに、保育の場での 子どもの育ち、保護者の成長について記し た。また、園生活を通じて子どもが保育者 や園児たちとの関係を構築し、親も保育者 や保護者とのかかわりをもつことは豊かな 園生活のために大切であることを述べた。 保育所での経験が子どもと保護者それぞ れにどのような意味をもつのか、現代にお いて保育所が果たす役割とはどのようなも のであるかについて論じた。(pp:122-126) 志村聡子 編著 吉長真子・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知 子・塩崎美穂・柳井郁子・小柳康子・宇都弘 美 著
『子どもの未来を拓く 保育者論』	共 著	2024年4月	青踏社(190ページ)	第2章第2節「保育者の史的変遷」を執筆し た。保育の専門職者は、どのように誕生し 変遷してきたのか、その史的変遷を記述し た。近代以降の日本における保育者が、そ れぞれの時代にどのような役割を果たした のかをまとめた。保育を学ぶ学生がこれか らの保育者のあり方を考えるにあたり、歴 史的な視点から保育者という仕事をとらえ、 これまで積み重ねられてきた保育の世界の 先人たちの取り組みに学ぶことの大切さを 伝えている。 (pp:58-71) 名須川知子編著

『保育者・小学校教諭を目指す学生のための ワークで学ぶ 教育原理』	編著	2025年3月	ミネルヴァ書房(184ページ)	「はじめに」及び「第1章教育とは何か」第1・2節、「第7章近代公教育制度の成立と展開」、「第8章戦後における学校教育の展開」を担当した。保育者(保育士、幼稚園教諭、保育教諭)や小学校教諭を目指す学生が、「幼・保」「幼・小」「保・小」「保・幼・小」の複数の免許・資格の取得に向けて学ぶための「教育原理」のテキストである。保育のみ、小学校のみを取得する学生も、幼小の接続を理解することは重要であることから、乳幼児期から児童期までをつながりとしてとらえる視点を大切にしている。また、主体的に調べて書き込める章末のワークと巻末の確認問題で学びへの理解を深める構成となっている。(pp: i - ii, 14-18, 77-98) 柳井郁子・長島万里子編著
『はじめて学ぶ乳児保育(第四版)』(コラム7担当)	共著	2025年4月	同文書院(208ページ)	保育者を志す学生向けに、保育の場での子どもの育ち、保護者の成長について記した。また、園生活を通じて子どもが保育者や園児たちとの関係を構築し、親も保育者や保護者とのかかわりをもつことは豊かな園生活のために大切であることを述べた。保育所での経験が子どもと保護者それぞれにどのような意味をもつのかについて述べた。また、最新の動向をふまえながら、現代において保育所が子育てと仕事の両立を支援することにおいて果たす役割が大きいことを指摘した。(pp:120-124) 志村聡子 編著 藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子・塩崎美穂・柳井郁子・小柳康子・宇都弘美 著

(論文)				
「1950-60年代における親の幼児教育意識」	単著	2015年2月	『洗足論叢』第43号 (洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学) (11ページ)	家庭教育雑誌『母の友』及び家庭教育意識に関する調査の検討を通して、1950-60年代の親の幼児教育意識について考察した。考察を通して、幼稚園普及にしたがって幼稚園での幼児教育の発達の意義が次第に親たちに理解されるようになり、幼児期の社会性や自立心を育てるといった幼児教育の目標は親たちにも受容されるようになっていった様相を描き出した。また、幼児教育の意義を認めつつも、親の教育要求は学校教育でよい成績をとる、あるいは高い学歴を獲得するといった志向性をもつものであったということを明らかにした。 (pp:153-163)
「保育者養成校初学者における子ども理解：詩的表現の試み」	共著	2018年2月	『洗足論叢』第46号 (洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学) (12ページ)	子ども理解について、第一に保育の実践研究として保育の中で起こっていることをどのように観察し記録するかという問題、第二に観察者と子どもとの関係性について、そして、第三に子ども理解における主観性の問題に注目し、それぞれの論点について先行研究を整理した。そのうえで、平成28年度S短期大学1年前期に実施した幼稚園半日体験において、学生自身の体験の振り返りを詩的表現によって記録することを試みる意義について論じた。 (共同研究につき抽出不可：問題関心と課題設定及び先行研究の整理にあたる部分を担当) 著者：金允貞・岡本かおり・桃枝智子・柳井郁子
「養成課程における保育の知の可能性：詩的表現の試みと子ども理解」	共著	2019年10月	『関東教育学会紀要』第46号(11ページ)	実習生が子どもの心にふれ、子どもに出会いながら保育の知を獲得するためには、これまでと違ったアプローチによる子ども理解の方法が模索されなければならないとの問題関心のもと、実習の記録とふりかえりを詩的表現を用いて行うことを試みた。保育者養成校の学生が書いた詩とそれに対する解説・感想を考察することで、詩的表現に現れる子どもの内面の理解を明らかにし、実践の中にある保育の知の可能性を探った。 (共同研究につき抽出不可：理論的背景と先行研究の整理にあたる部分を担当) 著者：金允貞・桃枝智子・柳井郁子
(社会における主な活動)				
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2019年8月	川崎市幼稚園協会	「幼稚園をめぐる近年の状況を踏まえた教員の役割」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2020年8月	川崎市幼稚園協会	「幼稚園をめぐる近年の状況を踏まえた教員の役割」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2021年8月	川崎市幼稚園協会	「幼稚園をめぐる近年の状況を踏まえた教員の役割」を担当
川崎市子ども・子育て会議委員		2025年4月より現在に至る	川崎市	計画推進部会、教育・保育推進部会

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 堀 純子

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
現場のエピソードに学ぶ保育士受験対策講座 子どもの保健（三幸保育カレッジ）	共著	2016年10月	株式会社 日本教育クリエイト (112ページ)	保育士受験対策講座で使用するテキストとして編集されたシリーズ。第2章「子どもの発育・発達と保健」、第3章「子どもの疾病と保育」、第4章「子どもの精神保健」、第5章「環境および衛生管理並びに安全管理」を担当した。心と体の健康は相互に密接な関係があること、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つような保育者の働きかけが重要であること、子どもの情緒の安定を図りながら、遊びを通して安全について学ぶようにすることについて理解を深められるような内容にした。(pp.21-43, pp.45-64, pp.67-75, pp.77-84) 吉田眞理監修 宇佐美かおる編 堀純子 宮川萬寿美 内山有子著
子どもの未来を拓く 子どもの保健	共著	2025年4月	株式会社 青踏社 (180ページ)	保育者養成校における「子どもの保健」の教科書として授業担当者による共著で編集された。第5章「身体発育及び運動機能の発達と保健」、第15章「保育者と子どもの保健」の執筆を担当し、全体の編集を行った。(pp.55-65, pp.173-180) 堀純子編著、他14名著
(学術論文)				
保育士に求められる 保健分野の知識・技術についての現状と課題	単著	2016年2月	洗足論叢	「子どもの保健」の授業について改善を図るために、①「子どもの保健(演習)」の実技テストの結果から学生の現状を知り、②現役保育士を対象としたアンケートから、保育士が保健分野の知識や技術をどこまでどのように習得すべきかを検討した。演習形式であるから見えてくる問題点や保育士として現場で重要だと感じられていることが明らかとなった。(13ページ) 第44号(平成28年度):pp.187-199
保育所保育指針・保育士養成課程基準を踏まえた乳児保育の授業展開の検討	共著	2022年3月	洗足論叢	「乳児保育」に対するより深い理解と実践力が求められているようになった状況において、保育士養成校の授業について学生の現状に合わせた授業展開を検討するために、保育所保育指針と保育士養成課程基準とシラバスを照らし合わせ、「乳児保育Ⅱ」の授業受講者を対象としたアンケート結果から学生の現状を知り、今後の授業展開について検討した。(13ページ) 第50号(2021年度):pp.145-157
(学会発表:口頭・ポスター)				
保育者に求められる保健分野の知識についての一考察	単独	2015年5月	日本保育学会	保育士資格取得の必修科目の1つである「子どもの保健」の授業内容について、現役の保育士が感じている実情を調べることで、現在、保育者に求められている保健知識を見直すことを目的とした。「乳児の養育方法」は実習前に習得が期待されることや、「感染症の知識」の重要性がわかり、また、保護者への対応には苦慮している様子も伺えた。

短期大学学生の保健体育に関する知識の現状と今後の課題	単独	2015年11月	日本学校保健学会	短期大学生が保健体育に関する知識をどの程度身につけているかは明確でない。今回の調査では、避妊方法、人工妊娠中絶や、妊娠、出産などについては認知度が高く、検診や病氣、不妊や生殖補助医療などについては理解が不十分か知らない割合が高いことがわかった。学生生活最後であり、その後の妊娠・出産や子育て支援につながる学びの場という認識で内容を再考する必要があることがわかった。
保育所実習における保健分野の実践と学びについて	単独	2016年5月	日本保育学会	現役の保育士を対象としたアンケート結果から、現在、保育所で保育士に必要とされている保健知識を調べた。「乳児の養育方法」は実習前に習得が望ましく、「病氣(特に感染症)の知識」が重要だと感じている保育士が多かった。保健分野においても、保護者に対応できる知識に加えて、思考力やコミュニケーション能力が必要不可欠であるということがわかった。
保育者養成校における学生の心身の現状および保育者としての健康管理の課題	共同	2018年10月	日本保育保健学会	短期大学2年生を対象としたアンケートより、保育者養成校の学生の心身の自覚症状や健康状態について調べた。実習中に増えた自覚症状は「強い倦怠感」「頭痛」「カフェインの過剰摂取」があり、原因として「不安・緊張・プレッシャー」「睡眠不足」が挙げられた。「アレルギー」に関しては自己管理ができていたことが伺えたが、就職に向けて不安なことに「月経痛」が多かった。学生自身が「生活リズムを整える」「運動習慣を持つ」ことの必要性を実感していることはわかったが、養成校としての具体的な支援につなげていくことが今後の課題である。 推野万里子、堀純子
保育者養成における保健分野の学びの現状と不安を踏まえた授業内容の検討と今後の課題	共同	2018年10月	日本公衆衛生学会	保育における保健分野の対応は医療職との連携について課題もある。本研究では、学生を対象としたアンケートより、養成校で習得すべき保健分野の内容について検討した。就職にあたり不安な内容は救急時の対応、応急手当の他、予防接種などについての保護者への説明が挙げられた。また、実習中に経験した内容については乳児クラスでの経験が全くできなかった学生もおり、個人差が大きかった。保健分野の学びについては大きな不安を抱えたまま就職する現状にあり、他職種とのサポートのあり方を含めて、養成校での学び方を再検討することが今後の課題である。 堀純子、推野万里子
コロナ禍における「手洗い」の教育方法の検討ー保育者養成校学生の実態からー	共同	2021年11月	日本学校保健学会	新型コロナウイルス感染症の流行下、保育者はより高い感染予防意識と対策が求められる。感染予防の基本である「手洗い」の習得と、感染予防意識の向上を目的として、実技演習授業を実施した。簡易手洗いチェックの自己採点結果からコロナ禍における「手洗い」の教育方法を検討した。 推野万里子 堀純子

保育者養成校の学生および保育者を対象とした心肺蘇生法の習得方法の検討	共同	2021年12月	日本公衆衛生学会	保育者養成校の学生および保育者が確実に心肺蘇生法を修得するための方法を以下の点より検討した。蘇生ガイドラインの改定について、乳幼児を対象とした内容を中心に整理し、保育者養成校の学生と保育者を対象とした心肺蘇生法に関する文献をまとめた。「子どもの健康と安全」の授業について、公開されている保育者養成校のシラバスを検索し、心肺蘇生法を授業でどの程度実施しているか、現状を確認し、コロナ禍における心肺蘇生法の授業の実際と今後の課題について、保育者養成校の「子どもの健康と安全」を担当する教員に聞き取り調査を実施した。 堀純子 推野万里子
コロナ禍における学生の感染予防に対する意識の現状と課題 -保育者養成校学生の手指衛生に関する実態から-	共同	2022年5月	日本保育保健学会	①手洗い教育用キットとチェックシートを用いて洗い残しを視覚化し、自己評価を行った。②ハンカチ・手指消毒液の携帯状況、実施している感染予防対策についてのアンケート調査を実施した。コロナ禍にあっても、保育者養成校学生の手指衛生状況は良いとはいえず、学生の感染予防に対する意識の低さが明らかとなった。日常生活における基本的な手洗い習慣の見直し、入学時から卒業までの期間を通じた積極的感染予防教育、継続した調査・研究と教育方法の検討の必要性が示唆された。 推野万里子 堀純子
(その他:講演等)				
「子どもの生活習慣とからだの変化を踏まえた課題について考える」	単独	2014年8月 2015年8月 2016年8月 2017年8月 2018年8月 2019年8月 2020年7月 2021年8月	公益社団法人 川崎市幼稚園協会	公益社団法人川崎市幼稚園協会主催の免許状更新講習の講師を務めた。担当項目「子どもの変化についての理解」のうち、「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について、「子どもの生活習慣とからだの変化を踏まえた課題について考える」というテーマで「1. 子どもの生活習慣とからだの変化、2. 乳幼児健診、母子健康手帳と母子保健、3. 感染症と予防接種、4. 子どもの事故を防ぐために」を取り上げ、最新のデータや最近の話題を紹介しながら解説した。

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 石濱 加奈子

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
子どもの権利条約31条のひろば2023報告集	共	2024年1月	Art.31	「報告③IPAグラスゴー大会にて「31条のひろば」の報告から考えたこと」を執筆(pp.22-25)
子どものしあわせ 父母と教師を結ぶ雑誌	共	2023 年2月	日本子どもを守る会	「ひろがる『31条ムーブメント』―「31条のひろば」体験記―」を執筆(pp.30-34)
子どもと社会の未来を拓く ―保育内容―健康	共	2022年3月	青踏社	第3章子どものからだと発育発達 「1からの発育発達」、「2からの発育発達における現代課題」を執筆 (pp.31-38)
子どもの運動・遊び ―健康と安全を目指して―	共	2021年9月	アイ・ケイコーポレーション	編著 1章「SECTION6健康課題からみた幼稚園・保育所に求められるもの」、2章「SECTION3幼児期運動指針」、3章「SECTION2小さな空間での運動遊び、3運動量を確保する運動遊び」、保護者に伝えたい子どもの健康・運動情報「気晴らしの保障」を執筆 (pp.24-29、40-45、50-57、102-103)
子ども白書2021	共	2021年8月	かもがわ出版	「余暇・遊びと子どもの健康」を執筆 (pp.106-107)
子どものからだと心白書2019	共	2019年12月	ブックハウスHD	「子どもが自由時間にやりたいこと:調査結果」を執筆 (pp.38-40)
(学術論文)				
日本の子どもにおける余暇の在り方に対する一考察 ―『くまのプーさん』による「何もしないをする」を基に―	単	2025年2月	洗足論叢53号, (10ページ)	国連子どもの権利委員会から、「子ども時代の享受」が勧告されている日本の子どもたちの余暇のあり方について、児童文学である『くまのプーさん』を基に検討することを目的とした。子どもは、活動のすべてが遊びであり、目的的不是な活動が繰り広げられる。「何もしないをする」と表現される「意味を求めない時間」を大人が認めることが必要である。
余暇に満足感を生起する放課後の過ごし方 ―小学3～6年生を対象として―	共	2023年	こども環境学研究, Vol.19, No.2(5ページ)	小学3～6年生(965名)を対象に、日ごろの余暇に対する満足感を生起する放課後の過ごし方を検討した。その結果、「外遊び」「家族とおしゃべり」「勉強に従事した子どもうち、「やりたいことだったと回答した子どもは、「やりたいことではなかった」と回答した子どもに比して余暇の満足感が高い様子が示された。(pp.72-77) (共同研究のため抽出不可、筆頭著者として全体的な研究の遂行と結果の解釈をもとに執筆を担当)

不定愁訴と自己イメージに及ぼす生活活動 (既定生活活動、余暇活動)の影響: 小学3 ～6年生を対象として	共	2021年3月	日本幼少児健康教育学 会誌 第6巻2号(9ペー ジ)	小学3～6年生(965)名を対象に、自己記入 式の調査票を用いて、平日の生活行動と不 定愁訴及び自己イメージを尋ねた。生活行 動は、睡眠、塾・習い事、勉強、食事で構成 される既定生活活動と、外遊び、屋内遊 び、ぼんやりする、家族とのおしゃべりで構 成される余暇活動とに分け、それぞれが同 時に不定愁訴と自己イメージに及ぼす影響 を構造方程式モデリングにより分析した。そ の結果、既定生活活動よりも余暇活動の方 が不定愁訴と自己イメージに影響を強く及 ぼすことが示され、特別な活動をせずとも 余暇を保障することで心身を充実させるこ とができると推測された。(pp.101-109) (共 同研究のため抽出不可、筆頭著者として全 体的な研究の遂行と結果の解釈をもとに執 筆を担当)
What Japanese Children Actually Do and What They Wish To Do in Their Free Time (日本の小学生における生活時間の実態と 自由時間にやりたいこととの関連)	共	2020年9月	Child Care in Practice Published online: 18 Sep. 2020 (13ページ)	小学3～6年生1230名を対象に、生活時間 と自由な時間にもっともやりたいことを尋 ね、それらの関連を検討した。自由な時間 にもっともやりたいことに多く選ばれたのは 「ゲーム機、携帯電話、スマートフォン、タブ レット、PCなどを使う」であり、次いで「から だを動かして遊ぶ」であった。生活時間との 関連では、やりたいこととやっていることが 一致する結果となり、自由な時間の不足と ともに、それしか選ぶことができない経験の 不足も懸念された。(共同研究のため抽出 不可、筆頭著者として全体的な研究の遂行 と結果の解釈をもとに執筆を担当)
S短期大学の女子学生における体力の推移 について —2010年から2016年までの測定結果より—	単	2018年2月	洗足論叢第46号 (8ページ)	2010～2016年にS短期大学に在籍した女 子学生のうち、体力テストと背筋力のデー タに欠損のない3778名を対象にした。体力テ ストについては、横ばいもしくは多少の向上 傾向であった。背筋力については、低下傾 向であった。もっとも高値を示した2013年と 最も低値を示した2016年との平均値を比較 する10kg以上にもなった。また、いずれの 年も両側に均等に分布しているものの、幅 は2016年の方が広い分布となった。(pp.379 ～386)
幼児期の発達調査に関する提言 —S幼稚園児の土踏まず測定と生活アン ケート結果をもとに—	共	2016年2月	洗足論叢第44号 (10ページ)	S幼稚園児を対象に、土踏まずの測定と生 活に関するアンケート調査を3年間縦断的 におこなった。その結果、男児においては、 身体を活発に動かす活動を好む、素早い 身のこなしができる、母親との運動遊びを よくおこなう、父母が運動を好む、という項 目と、土踏まずの有無との間に関連がみら れたが、女児ではそのような結果を得るこ とができなかった。(共同研究のため抽出 不可、足跡測定・分析および背景・考察の 執筆を担当)
(その他・学会発表等)				
放課後児童クラブの登所時および降所時の 唾液アミラーゼ濃度、気分尺度、不定愁訴	共	2024年8月	日本体育・スポーツ・健 康学会 第74回大会	4つの放課後児童クラブに在籍する児童99 名を対象に、登所時、および降所時の唾液 アミラーゼ濃度と質問紙(気分尺度、不定 愁訴)の調査を行った。その結果、男女に て過ごし方に違いはあるものの、いずれも 元気やリラックスの指標が高くなる様子を 確認することができた。

IPA世界大会@グラスゴーに参加して	単	2023年12月	教育科学研究会 「身体と教育」部会 特別例会	IPAという組織とグラスゴー大会の概要を説明した。また、世界大会に参加し、各国の遊びや健康の状況を見聞きすることから、日本における遊びやからだに関する課題を検討した。
子どもが発達欲求として求める遊び	共	2023年12月	IPA 日本支部 2023年 研究集会	子どもが発達欲求として遊びを求めていることを2つのデータから示すことを目的とした。1つ目はメラトニンの分泌状況とし、キャンプやお散歩などの活動後には、夜のメラトニン濃度が高くなり、翌朝は低くなることを示した。2つ目は、go/no-go課題による高次神経活動とし、朝子どもが大人とじゃれあつて遊ぶ実践をしている子どもは幼稚なタイプに判定される割合が少ないことを報告した。
小学3～6年生の心の育ちと身体活動量との関連	共	2023年9月	日本幼少児健康教育 学、第42回大会 【秋季：広島大会】	身体活動量と心の育ちとの関連を明らかにすることを目的に、3軸加速度計による身体活動量と質問紙によるGritおよび高次神経活動との関連を検討した。その結果、Grit総得点が高い方が立位に相当する時間が長いこと、go/no-go課題による高次神経活動では不活発型に判定された者はそうでない者に比して低・中・高活動時間の割合が高い様子が示された。
小学5・6年生が「自由時間にやりたいこと」と心身の状況との関連	共	2023年7月	こども環境学会2023年 度大会（沖縄）	「自由な時間にやりたいこと」と心身の状況との関連を明らかにすることを目的に、質問紙による「自由な時間にやりたいこと」「不定愁訴」「睡眠問題」の結果と、高次神経活動の調査結果とび関連を検討した。その結果、「自由な時間にやりたいこと」は、高次神経活動の発達や睡眠問題と関連することが明らかとなった。
「JAPAN TODAY」 —What Happens at Art Camp without a Program?—	共	2023年6月	IPA Triennial World Conference XX II Glasgow 2023	日本の子どもの遊びを取り巻く現状と問題点を示し、それらの改善を図ることを目的とした取り組みを報告した。その中で、自由な遊びを保障することを目的としたキャンプの実践報告を担当した。
屋内遊び・外遊びと家庭学習への意欲との関連 —小学3～6年生を対象として—	共	2022年9月	日本幼少児健康教育 学、第41回大会 【秋季：山陽小野田大会】	屋内遊び・外遊びと家庭学習への意欲との関連を明らかにするため、1都4県の公立小学校に在籍する小学3～6年生の男女965名を対象に家庭学習、屋内遊び、外遊びに従事した時間および意欲をそれぞれ尋ねた。その結果、外遊びを「やりたい」と思って実現できた子どもで、家庭学習への意欲が高いことが示された。

小学生の自由時間と心身の健康との問題	単	2020年 8月	教育科学研究会 「身体と教育」部会 特別例会	小学生(3～6年生)の余暇の実態と、既定された活動と余暇活動が、不定愁訴や自己意識に及ぼす影響について検討した。その結果、余暇にもっともやりたいことは「ゲームやスマートフォン」がもっとも多く選ばれた。加えて、自由に使うことができると考えられた余暇活動は、既定生活活動より不定愁訴と自己意識に好影響を及ぼす可能性も示唆された。
子どもの自由時間の満足感と自己肯定感・生活時間との関連	共	2020年3月 (web発表5月)	日本発育発達学会 第18回大会	1都4県の公立小学校に在籍する小学3～6年生の男女1,190名を対象に、自由時間に対する満足感と自己肯定感、生活時間に関する調査をおこなった。その結果、自由時間に不満と答えた子どもに比して、満足と答えた子どもの方が自己肯定感が高い傾向にあった。また、自由時間に満足と答えた子どもは、塾や習い事といった「しなければいけないこと」の時間が有意に短く、「屋内遊び」の時間が有意に長かった。
子どもが経験したことがある遊びとやりたい遊びとの関連:小学3～6年生を対象として	共	2019年9月	日本幼少児健康教育学会、第38回大会 【秋季:広島大会】	1都4県の公立小学校に在籍する小学3～6年生の男女1,304名を対象に、遊びに対する知識、経験、意欲、を調査した。その結果、多くの外遊びは90%前後の認知度があり十分に伝承されていない様子が確認できた。経験と欲求との関係からは、経験がある遊びの方が欲求が高くなるという有意な関連が明らかとなり、各遊びに対する欲求はその遊びの経験に基づくことが推測された。
保護者との約束事が子どもの自由時間における満足感に及ぼす影響	共	2018年12月	第40回 子どものからだと心 全国研究会議	1都4県の2159名の小学3～6年生の男女とその保護者を対象に、子どもの自由時間についてアンケート調査をおこなった。その結果、自由時間に満足な子どもは全体の76%、不満足な子どもは19%であった。保護者との約束事については、時間や場所などを連絡する約束事がある方が満足感が高いということが示され、自由時間の約束事は保護者から見守られている感覚になるのだろうと考えられた。
子どもが自由な時間にやりたいことと生活状況との関連	共	2018年10月	三大学院合同研究発表 会	世田谷区の公立小学校に在籍する3～6年生14911名を対象とした。「自由時間にやりたいこと」と生活状況との関連を二項ロジスティック回帰分析により検討した。その結果、日ごろ外遊びをしている者は、自由時間に身体活動を望み、日ごろ外遊びをしていない者は自由時間にゲームやパソコンなどをしてほしいと望んでいることが明らかとなったことから、日ごろやっていることとやりたいことは一致することが考えられた。
自由時間に「何もしたくない」「寝たい」と考えている子どもの生活と体調 -世田谷区の悉皆調査の結果を基に-	共	2018年8月	日本体育学会 第69回大会	世田谷区の公立小学校に在籍する3～6年生14911名を対象とした。「自由時間にやりたいこと」「寝る」「何もしない」と答えた者とそれ以外の者との生活状況を比較した。その結果、睡眠時間や通塾状況などには有意な差が見られなかったが、だるさ感や元気度には有意な差が見られ、心身の不調が自由時間にネガティブな欲求を引き起こす要因になっていることが明らかとなった。

子どもが「自由時間にやりたいこと」とその生活関連要因の検討 —世田谷区の悉皆調査の結果を基に—	共	2018年3月	日本発育発達学会 第16回大会	世田谷区の公立小学校に在籍する3～6年生14911名を対象とした。「自由時間にやりたいこと」は、からだを動かして遊ぶと答えた児童が多く、高学年になるにつれ、携帯電話・スマートフォン・タブレット・パソコンを使うが多くなった。生活関連要因としては、からだを動かして遊ぶと答えた児童は日常で外遊びをすると答える割合が高く、日ごろおこなっていることがやりたいことにつながる事が考えられた。
体力の感覚的判断と背筋力との関連について	単	2017年8月	日本体育学会 第68回大会	女子短大生584名を対象に、体力に対する自信と背筋力との関連を2011年と2016年の比較から検討することを目的とした。背筋力の平均値は2016年が有意に低値を示した。体力に対する自信について、いずれの年も「ある」「ふつう」「あまりない」と答えた割合は変わらなかった。これらのことから、背筋力の有無は体力の自信とは関係がないが、相対的な割合が変わらないことから、周囲との比較によって自信につながっていることが明らかとなった。
保育科学生における体格と体力・アンケート調査結果との関連 ～やせ傾向の学生に着目して～	単	2017年3月	日本幼少児健康教育学会 第35回大会	保育科学生284名を対象に、体重・体脂肪・体力テスト・アンケート調査を実施した。その結果、BMI18.5未満、体脂肪率20%未満に該当する者は、35名だった。やせ傾向の者と普通以上の者とは、体力テストの結果に差はなかったが、テレビ視聴時間が長く、気持ちの集中と粘り強さが低いことが示された。さらに、やせ傾向の者を、低体重、低体脂肪、両方ともに低い、とに分けたところ、低体重の者は他の者よりも握力・背筋力が有意に低いという結果を示した。
女子短期大学生における持久走と感情・意欲との関連について	単	2016年8月	日本体育学会第67回大会	女子短大生1240名を対象に、持久走の測定とアンケート調査を実施した。その結果、持久走タイムが速い方が、「健康である」「体力がある」と感じる割合が高く、意欲や行動力が高いことが示された。また、粘り強さや人付き合いといった外へ働きかける力も高いことが明らかとなり、持久走の測定は、個人の意欲や行動力、自信のバロメータとなることが考えられた。
女子短大生における背筋力・BMI・体力テストの関連について	単	2016年3月	日本幼少児健康教育学会 第34回大会	女子短大生1330名を対象に、背筋力と体重、体力テストを実施し、それらの関連を調査した。その結果、背筋力指数(背筋力/体重)1.5以上であっても、BMIが低いとパワー系の種目が有意に低いことが示された。背筋力指数1.5未満の者は、BMIが低いとパワーが、BMIが高いと体を移動させる種目が低いことが示された。これらのことから、背筋力指数に合わせ、BMIも含めた体力の検討が必要であることがわかった。

S幼稚園における幼少児の土踏まず測定と生活アンケート結果の分析	共	2016年3月	日本幼少児健康教育学会 第34回大会	S幼稚園児を対象に、土踏まずの測定と生活に関するアンケート調査を3年間縦断的におこない、在園中に土踏まずができた幼児を分析した結果、早寝・早起き、活発な身体活動をよくする、母親と運動遊びをよくおこなう、保護者と運動に関する話題をよくする、という項目において、他の群との間に有意な差がみられた。幼児期には、運動への興味を促す家庭環境が必要であり、実際に活発な身体活動をおこなうことが土踏まずの発達を促すものと考えられた。
The relation between back strength、mental action and lifestyle in S-college students	単	2015年8月	第20回東アジア運動・スポーツ科学学会	S短期大学の女子学生266名を対象に、背筋力や上体起こしの向上が意欲や自信にもたらす影響について検討した。その結果、背筋力や上体起こしの向上にともなって、スポーツの嗜好や意欲、自信における項目が良い傾向を示した。また、背筋力値が高い方が、スポーツの嗜好、意欲、自信における項目が高くなり、筋力の維持・向上と精神的な要素との関連が明らかとなった。
(社会的活動・講演、学会における役職等等)				
日本幼少児健康教育学会 学会誌編集委員		2025年4月		
日本幼少児健康教育学会 総務委員副委員長		2025年4月		
和光幼稚園合同研究		2024年7～12月		「子どもとつくる生活～幼児期に大切にしたいから観～」の研究主題にて、研究活動を行っている。年末に行われる研究会に向けて成果をまとめる際、共同研究者として関わっている。園にて対象クラスの保育活動を見学し、発表者との懇談会およびレポート作成にあたって助言する役割を担っている。
稲城市矢野口榎戸地区「みちあそび」プロジェクト代表		2024年4月		子どもがまちの中にある「みち」を使って遊ぶことで、地域の異年齢の方々との交流を図り、地域に愛着をもって暮らしていくことを目的に、子ども会の保護者を中心に実施する。地区内にある「みち」と「ひろば」を用いて、昔遊びの遊具や季節に応じた遊具、水、焚火など遊びと団らんができる環境を設定した。 【東京都子供の遊び推進プロジェクト助成事業】
日本幼少児健康教育学会第42回大会【春季：川崎大会】大会組織委員長、シンポジウムにおけるコーディネーター		2024年2月		
PLAY！2023 オンライン講演		2023年11月		
IPA日本支部運営委員		2023年9月		
「31条のひろば」フォーラム31, シンポジスト		2023年9月		
子どもの権利条約市民・NGOの会 専門委員会・健康部会専門委員		2023年3月		
「子どもの室内遊び」		2022年12月		川崎市高津区の保育者を対象に子どもの室内遊び(全身のバランスを整える遊び)に関するオンライン研修会の講師

子どもの権利条約31条のひろば 実行委員	2022年4月		
子どものからだと心連絡会議 運営委員	2022年4月		
「子どもの室内遊び」	2022年2月		川崎市高津区の保育者を対象に子どもの室内遊びに関するオンライン研修会の講師
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2021年9月		
日本幼少児健康教育学会 国際交流委員	2021年4月		
子どものからだと心連絡会議 全国委員	2021年4月		
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2020年9月		
日本幼少児健康教育学会第39回大会【春季:加須大会】大会組織委員	2020年5月		
「子どもの室内遊び」	2019年11月	保育・子育て研究所、高津区共催	川崎市高津区の保育者を対象に子どもの室内遊びに関する研修会の講師
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2019年9月		
日本幼少児健康教育学会 理事	2019年4月		
総説「遊びは心とからだの休養です」	2019年1月	幼少年体育指導士会 NEWSLETTER No.8	
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2018年9月		
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2017年9月		
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2016年9月		
川崎市保育会 夏季研修会	2016年7月		
日本幼少児健康教育学会 第35回大会 大会組織委員	2016年4月～		2017年3月に開催される学会大会まで委員としての任務にあたる
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2015年9月		
川崎市保育会 夏季研修会	2015年7月		
横浜マーチャндаイジングセンター 社長会 健康・体操についての講習会講師	2015年6月		

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 下尾 直子

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
「実習生の日誌事例から考察する 社会的 養護Ⅰ・Ⅱ」	編著	2024年3月	大学図書出版(171ページ)	下尾直子・雨宮由紀枝編著 P3はじめに P8~9第1章1節 P28コラム(しょうがいの表 記について) P38~40第4章1節(社会的養 護の体系用語の整理) P72 コラム(ICFで 考える社会的養護) P61~65第5章1節(2) (障害とは何かその捉え方),2節(社会的養 護における日常的支援) 各章扉(P7 P19 P29 P37 P55 P73 P87 P151) 全章事例
「保育と障害のある子ども第2版」	分担執筆	2024年3月	みらい (269ページ)	野田敦史・林恵編集 P29~38 第2章障害 児保育の基本を学ぶ 1. 障害とは 2. 2つ のモデルの統合ICF 3. 保育者に求められる これからの障害観 コラムしょうがいの表 記について
「保育と社会福祉 第4版」	分担執筆	2024年3月	みらい (234ページ)	橋本好市・宮田徹編集 P124~137 第9章 共生社会と障害者福祉 扉 1. 「障害」の 捉え方 2. 我が国の障害者福祉の法体系 3. 障害のあるこどもに関する施策とサービ ス
「わたしたち、こんなふうに、暮らしているよ」	分担執筆	2022年3月	千書房(31ページ)	楽しい生活応援団(田中恵美子・下尾直 子・千田好夫・MASHU. 白井千晶)著 2021 年度公益法人ひと・健康・未来財団助成事 業によりLLブックとして制作。P4~5この小さ な本の主人公たち P6~7こうして一人暮らし を始めました P10~11こんな一日を過ごし ています P14~15こんな1週間を過ごしてい ます P18~19こんなお部屋に住んでいます P22~23このくらいお金がかかっています P26~27こんな人たちと暮らしています P30~31おわりに
「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」	分担執筆	2021年3月	ミネルヴァ書房(587 ページ)	中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤喜余 子・立花直樹編 7章(P74~75)少子高齢社 会 家族の多様化 待機児童問題 ひとり 親家庭)
「東京の民生委員・児童委員百年史」	共著	2020年12月	東京都社会福祉協議会 (375ページ)	東京都社会福祉協議会編 P181~204 第2 部第3章東京における災害対応と復興支 援課活動
「実習生の日誌事例から考察する 社会的 養護Ⅱ」	編著	2020年4月	大学図書出版(130ページ)	雨宮由紀・下尾直子編著 P3はじめに P21~23 第2章1節(4)障害とは何か P48- 55 4章1節保育の専門性にかかわる知識・ 技術と実践 P126~127家庭的養護とは
「保育士等キャリアアップ研修テキストシリー ズ No3 障害児保育」	編著	2019年6月	オフィスポケット(62ページ)	須永進監修 大多和亮介・胡桃沢令子・下 尾直子著 P4~12第Ⅰ章 障害児保育を支 える障害の理解 P34~43第Ⅳ章 障害児 保育の実際1 P44~53第Ⅴ章 障害児保育 の実際2
「乳幼児教育保育シリーズ 子ども家庭福 祉」	分担執筆	2019年3月	光生館(180ページ)	渋谷昌史・加藤洋子編著 P140~150 第4章 ⑦障害のある子どもへの対応
「乳幼児教育保育シリーズ 社会的養護Ⅰ・ Ⅱ」	分担執筆	2019年4月	光生館(214ページ)	谷口純世・加藤洋子・志濃原亜美編著 P140~144,P151~155,P161~166 Ⅱ第5章② 日常生活支援とは何か③治療的支援とは 何か④自立支援とは何かのうち、障害児施 設部分

「知的障害のある子を育てた母の障害観 ICFによる質的分析から」	単著	2018年3月	生活書院（302ページ）	博士論文の出版である。知的障害児の母親4グループのグループディスカッションデータをICFコードにリンクして分析を行った。母親の障害観は、障害児を育てることで医学モデルに依拠しながら社会モデルの視点をもちようになり、両モデルの交差が母親の障害観の中にみられることを示した。
「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護内容」	編著	2017年9月	大学図書出版（130ページ）	雨宮由紀絵・下尾直子編著 はじめにP3 第2章1節（4）P21-23、第3節P30-32、第3章1節P38-45、第5章2節P20-22 ～施設職員の視点ではなく実習生の日誌事例を考察する内容で、教科書全体をまとめる企画をし、障害の氷山モデルや、障害のとりえ方、障害者の通所・通園施設についての概要、社会的養護における家庭的養護とはなどを執筆した
(論文)				
「障害の社会モデルの啓発・理解促進に向けた授業の開発ー障害を学ぶための授業の比較からー」	共著	2021年3月	東京家政大学研究紀要第61集(8ページ)	田中恵美子・平井佑典・野澤純子・奥平真砂子・下尾直子 P97~104いまだ浸透していない障害の社会モデルの啓発理解促進を目的に開発した教材を使った授業の実践研究である。
「親元から一人暮らしを始めた知的障害のある娘と母の内的変容ーひとまずの「自立生活」から真の「自立」へ向けてー」	単著	2020年3月	「社会福祉」第60号(13ページ)	P69 ~81親元から自立した知的障害のある26歳女性の言動記録をエピソード記述の手法で分析した事例研究である。
「知的障害児の母親の障害観にみる障害モデルの共存 ～ICFによる質的分析～」	単著	2016年3月	日本女子大学 人間社会学研究科社会福祉学博士号請求論文(385ページ)	障害のある子どもをもつ母親らのグループディスカッションをICFで分析し、母親の障害観が子育ての過程で変容し、社会モデルと個人モデルの交差という独特の障害観を示すことを示唆した、
(報告書など)				
「知的障害のある人の自立生活を考える会」報告書	共著	2024年3月	知的障害のある人の自立生活を考える会(128ページ)	(共同研究により抽出不可)企画、構成、一部執筆にかかわった。主に会の活動として(キリン福祉財団の女性を受けて)行った調査研究のまとめ、調査で出会った方々の紹介を2名で話し合いつつ執筆した。また、運営委員の紹介文について校正にかかわった。
書評りぷらい「知的障害のある子を育てた母の障害観:ICFによる質的分析から」	単著	2019年	社会福祉学59(4) (3ページ)	P105~107 拙著の書評に対するリブライ:拙著に対する社会事業大学木全和巳氏の書評を受け、「母としてのノーマルな願いは子のノーマルな自立生活に相反するか」「本書の結論について」「ICFの使用について」「言葉の定義について」リブライした
(学会発表:口頭発表)				
「知的障害児の母親の障害観にみる障害モデルの共存 ～ICFによる質的分析～」	単著	2016年7月	日本女子大学社会福祉学会	博士論文公开发表(障害のある子どもをもつ母親らのグループディスカッションをICFで分析し、母親の障害観が子育ての過程で変容し、社会モデルと個人モデルの交差という独特の障害観を示すことを示唆した)

(学会発表:ポスター発表)				
「統合保育における、発達障害のある子と玩具」	単著	2019年5月	日本保育学会	インクルーシブ保育を推進する保育所において参与観察を行い、障害のある子どもがほかのこどもとかかわりを持ち、あそびが広がる様子を確認し、保育者の有効な動きかたについて考察を行った。
「知的障害のある子をもつ母親のFGDで現れた「かすがい」とう他者援助機能—ICFによる質的分析」	単著	2016年9月	日本社会福祉学会	知的障害のある子を持つ母親のフォーカスグループインタビューデータをICF-CYのコードで分類し、母親が語る子のプラス機能である「かすがい」について分析した
統合保育における障害児の保護者との連絡帳 ～ICF分析～	単著	2014年9月	日本特殊教育学会 第52回大会	保育園に通う障害児の保護者と保育士の連絡帳をICFを使って分析し、連絡帳の応答次第で保護者の変容が見られることを指摘した
(学会発表:シンポジウム)				
幼少児健康教育学会第42回川崎大会シンポジウム「	シンポジスト	2024年2月	幼少児健康教育学会第42回川崎大会	「子どもの声を引き出す」シンポジウムで、障害のある子どもたちの声なき声を引き出すことについて
日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFと合理的配慮」	話題提供	2014年9月	日本特殊教育学会 第52回大会	ICF-CYに依拠した合理的配慮についてのシンポジウムで、保護者の立場から発達障害児の防災対策を行ったPTA活動について報告した
(講演)				
戸田市立心身障害者福祉センター講演会	講師	2024年11月	戸田市	「障害のある人の自立生活」
産業カウンセラー協会講座	講師	2024年11月	産業カウンセラー協会	「障害者の自立と支援」
社会福祉法人もろほし会園内研修	講師	2024年6月	産業カウンセラー協会	「気になる子の支援の面白さとやりがい」
神奈川県 県立施設職員研修	講師	2024年3月	神奈川県	「施設内虐待」をふせぐために
横浜市都筑区社会福祉協議会 講演会	講師	2024年2月	都筑区社会福祉協議会	地域の防災を考える～障害のある人と防災
横浜市青葉区青葉台地域ケアプラザ講演会	講師	2023年12月	青葉区社会福祉協議会	「私たちにできること～“障害”と地域」
川崎市幼稚園協会経験者講習	講師	2023年10月	川崎市幼稚園協会	インクルーシブ教育にやりがいを～「気になる子」の捉え方
横浜市都筑区ふれあい地区社会福祉協議会講演	講師	2023年9月	ふれあい地区社会福祉協議会	今、地域ができること～障害の捉え方
横浜市都筑区都田地区社会福祉協議会講演	講師	2023年7月	都田地区社会福祉協議会	今、地域ができること～障害の捉え方
玉川幼稚園職員研修	講師	2023年3月	玉川幼稚園	「私たちにできること～特別支援の保育」
横浜市都筑区社会福祉協議会 講演会	講師	2023年2月	葛が谷地域ケアプラザ	「私たちにできること～“障害”と地域」

横浜市荏田南社会福祉協議会 講演会	講師	2020年 2022年	都筑区荏田南1丁目会館	障害をどう捉えるか、そして今何ができるのか ～他人事ではないジブンゴトとしての障害～
横浜市青葉区放課後児童健全育成事業 職員向け研修	講師	2021年10月	青葉区役所大会議室	「障害とは」
横浜市立鉄小学校PTA 講演会	講師	2020年～年1.2回	横浜市立鉄小学校	「福祉の観点から見た、子育てのヒント」等
川崎市幼稚園協会 免許更新講習	講師	2019 2020 2021	川崎市ユニオンビル	テーマ「子どもの言語発達を促す遊びと援助 個別の教育的ニーズへの対応」
横浜市放課後キッズクラブ・はまっこふれあいスクール連絡協議会 講演会・巡回保育相談員	講師	2019/1/24 2019/5/21	青葉区役所大会議室	テーマ「気になる子とその対応」
洗足学園SD	講師	2017/12/1 2018/12/18 2019/9/3	洗足学園	テーマ「障害とは何か～発達障害に対応する」
日本女子大学同窓会「みどり会」講演会	講師	2017年10月	日本女子大学	テーマ「相模原障害者殺傷事件をうけて～障害とは何か、社会の「観方」を問い直す」
川崎市保育士会	講師	2014年7月	川崎市保育会	テーマ「気になる子の支援」
川崎市保育士会	講師	2014年7月	川崎市保育会	テーマ「気になる子の支援」
相武台中央幼稚園職員研修	講師	2012年12月 2014年3月 2015年3月 2016年3月 2017年3月	学校法人神奈川県住宅福祉学園 相武台中央幼稚園	軽度障害のある園児への効果的な指導について、当該児童の生活観察にもとづいて実践的なアドバイスをを行った
(その他教育研究活動など)				
品川区障害福祉計画等推進委員	副委員長	2025年3月より 現在	品川区	品川区福祉部障害者施策推進課より委託
町田市子ども子育て会議	委員	2024年4月より 現在	町田市	町田市子ども生活部より委託
川崎市社会教育委員会高津市民館専門部会	副代表委員	2024年4月より 現在	川崎市教育委員会	川崎市教育委員会より委託
町田市子ども発達支援計画行動計画検討部会	委員	2023年4月より 2023年3月まで	町田市	町田市子ども生活部より委託
横浜市保健医療協議会	委員	2023年4月より 2024年3月まで	横浜市	横浜市医療局医療政策課より委託
川崎市高津区子ども子育てネットワーク会議	委員	2023年4月より 現在	川崎市高津区	高津区より委託
横浜市福祉調整委員	代表委員	2021年4月より 現在	横浜市	横浜市健康福祉局相談調整課より委託
知的障害のある人の自立生活を考える会	運営委員	2019年9月より 現在	知的障害のある人の自立生活を考える会	特定非営利活動法人風雷社中 理事長 中村和利氏の呼びかけによる団体

障害の社会モデル啓発研究	メンバー	2018年4月～ 2023年3月	東京家政大学	東京家政大学大学間連携等共同研究 研究代表者 田中恵美子
巡回保育相談研究会	メンバー	2017年1月～ 現在	巡回保育相談研究会	大妻女子大学久富陽子教授の呼びかけによる、巡回保育相談を行っている相談員が集まって月に一回研究活動を行っている研究会
さいたま市巡回保育相談委員	委員	2017年4月～ 2020年3月	埼玉県 保育課	さいたま市内の育成支援の対象となった障害のあるお子さんの巡回相談員・一人のお子さんに年1回巡回し、保育の様子を観察、園内カンファレンスを行、報告書を提出する
手話通訳士試験実施検討委員会	委員	2017年1月～ 2022年3月	聴覚障害者情報文化センター	手話通訳士資格のの試験問題を作成
東京都民生委員100年史編纂	委員	2016年4月～ 2019年3月	東京都民生児童委員連 合会	東京都民生委員100周年を記念した100年 史の編纂
ぼらん保育園第三者評価委員	委員	2016年4月～ 2020年3月	ぼらん保育園 第2ぼら ん保育園	東京都大東区のぼらん保育園で年2回開 かれる第三者評価委員会に出席し、第三 者として意見を述べる
障害者職業カウンセラー採用試験委員会委員	委員	2016年4月～ 2019年3月	独)高齢・障害・求職者 雇用支援機構	障害者職業カウンセラー採用試験作成

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 山本 有紀

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(論文・紀要等)				
「保育者養成課程における乳幼児の発達理解について ―育ちの記録の作成による学び―」	単	2017年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第45号 (15ページ)	保育者養成課程の心理科目で求められる到達目標のうち、生涯発達、個人差や発達過程に応じた保育、発達の課題に応じた援助や関わり、発達の連続性の教授法や事前事後学習の工夫が望まれる現状である。自身の幼少期の発達と養育者や保育者からの関わりについてまとめることを課し、学生同士で課題を見合うことで、乳幼児の発達についての理解が深まり、発達の個人差を実感し、自身の学びを確認、意欲を喚起する結果となった。学習成果を確認する機会となった。(pp.141～155)
「子ども理解と援助に関する心理科目の授業実践 ―“感覚”への意識による気づきと学び―」	単	2019年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第47号 (15ページ)	保育者養成課程の心理科目で求められる子ども理解と援助についての実践力を高めるため、“感覚”に焦点をあて、実習での学生の実態と、講義での必要な学びについて検討した。実習において“感覚”を意識することを学生に課し、子ども、保育者、自身の“感覚”を意識した援助についての気づきについて、実習後の授業で振り返り、子どもの育ちや学びの過程に関する知識、具体的には乳幼児の言葉や認知などの発達、感覚を用いた直接的な体験による学びの特徴、乳幼児の学びの特性に合わせた感覚の情報を補う援助について段階を追って整理した。感覚を意識することを発端に、子どもに寄り添う援助への気づきや学びの広がりが見られ、感覚を意識することが子ども理解と援助の実践力の向上および乳幼児の学びの過程についての理解の深まりにつながったと考える。(pp.117～130)
「感性と表現」についての学生の学び―保育者養成課程の「子どもの理解と援助」における授業実践―	単	2023年3月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第51号 (15ページ)	「子どもの理解と援助」の実践力を高めるための心理科目の教授内容として「感性と表現」に焦点をあてた。心動いたものを子どもの視点で捉えて発表するという授業実践における学生の学びをまとめた。子どもの「表し」の過程を考えること、子どもの存在そのものが「表現」であること、幼い子どもの表出は「表現」との接点があること、これらの学びが見受けられた。子どものありのままの感性と表現を受け止めること、表しに至らなくとも、そこに子どもの思いがあることに気づくこと、素朴な表現を見逃さないように心がけることが保育者には大切である。子どもの感じる世界を受け止め、感じ取り、応じるといった保育者の関わりの実践を具体的に思い描き、保育現場での実践につなげようとする、他者の個性や感性を認めるという結果につながり、「子どもの実態、内面を捉えて援助する」という保育者養成課程の心理科目「子どもの理解と援助」の学びに通じた。(pp.213～227)

(著書)				
「シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ 第2版」	共	2015年9月	建帛社 (232ページ)	2011年1月発行「シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」の第2版において、担当章の改訂を行った。DSM-ⅣからDSM-Ⅴへの改訂における特徴(新設、呼称変更、区分など)、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害をはじめとし、知的能力障害、注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害(ADHD)の症状および保育現場での対応についてまとめた。また、心的外傷(トラウマ)およびストレス因子関連障害として、①虐待と神経発達障害の関連、②虐待とPTSD(心的外傷後ストレス障害)、③虐待と愛着障害の項目で、各症状と保育現場での対応についてまとめた。(pp.123～133: 第13章「子どもの精神的健康と障害」) [編著] 本郷 一夫 [共著] 山本 有紀、他14名
「保育を深めるための心理学」	共	2018年3月	花伝社 (253ページ)	乳幼児期からの自己形成の過程と様相を述べた。自己感、身体的自己、鏡映自己、第一次反抗期の様相と大人の関わり、留意点、自己評価の特徴、自己制御(自己主張・自己実現と、自己抑制)、児童期以降を含めた自己概念の形成、記憶などについて述べた。また、コラムとして、隔離飼育で育ったサルについて述べ、生物学的にヒトに近いサルにおいても、社会的行動の発達には、発達初期の親子関係や同年代の仲間関係の経験が不可欠であることをまとめた。(pp.70～82、pp.219～221: 第6章自他の気づくとき)(問26～30) [編著] 鈴木 敏昭、村上 涼、松鹿 光、加藤 孝士 [共著] 山本 有紀、他13名
「子どもの発達の連続性を支える保育の心理学」	共	2019年5月	教育情報出版 (222ページ)	子どもの育ちや学びの過程、子どもと向合う基本姿勢といった心理学の基礎知識が、子どもの心を育むための関わりとして保育にとって重要であること、獲得と喪失を繰り返す中での発達、発達心理学の歴史の変遷、文化や社会、環境が互いに関連する中で生きる子どもの姿を捉えることの大切さについて述べた。(pp.18～22: 第1章2節「心理学では発達は、どのように捉えられているのでしょうか」) 子どもの発達や内的世界を把握するために必要な保育者の視点として生涯発達を挙げ、時間や状況、関係性の中で発達を捉えることや、発達の連続性を踏まえた保育者の関わりについて述べた。また、ピアジェやエリクソンの発達段階について述べた。(pp.51～55: 第3章1節「子どもの発達の連続性とはどのようなものだろうか」) [編著] 浅井 拓久也 [共著] 山本 有紀、他30名

「新・子ども理解と援助ーその理論と方法ー」	共	2021年9月	教育情報出版 (168ページ)	保育士養成課程における「子どもの理解と援助」、幼稚園教諭養成課程における「幼児理解の理論及び方法」に対応したテキストである。乳幼児期は環境の影響を大きく受けること、環境が子どもを育むこと、保育幼児教育が環境を通して行われること、環境構成や環境調整の実際、入園や就学、家族構成の変化、自然災害などの乳幼児が経験する種々の環境の変化や移行、環境移行への保育者の関わりと子どもが培う力について説明した。心の拠り所となる大人に寄り添われながら環境の変化を乗り越えたという経験が、生涯のなかでいつかまた現れる環境の変化に向き合う力を培うことについて述べた。(pp. 63～72: 第6章「環境の変化や移行が子どもに与える影響」) [編著] 入江 慶太 [共著] 山本 有紀、他11名
「シードブック 子ども理解と援助」	共	2023年1月	建帛社 (135ページ)	保育士養成課程における「子どもの理解と援助」に対応したテキストとして、発達の観点から子どもを理解し、それに基づく適切な援助を行う実践力の修得を目指すことを主旨としている。”子どもの理解に基づく発達援助”のなかでも、就学に向けての実際と支援について述べた。「子どもの理解」が援助や支援の起点となること、日々、子どもとの関わりを積み重ね、振り返り、子どもを理解し直すという循環が欠かせないこと、保育の場に留まらず、専門機関によるアセスメント、関連機関との連携の必要性について述べた。乳幼児期からの発達と学びの連続性、幼児教育保育から学校教育への環境移行、“連続性”を意識した幼保小の連携や接続カリキュラムの実際と問題点について説明した。個別に配慮を必要とする子どもの就学に向けた支援の実際と問題について触れるなかで、時間、関係、状況の視点に基づく一貫した支援、総合的かつ継続的な支援となるように、関連機関が連携し、多職種が協働して子どもとその家族を支えるの重要について述べた。(pp. 120～129: 第13章「発達と学びの連続性と就学支援」) [編著] 飯島 典子・本郷一夫 [共著] 山本 有紀、他12名
「指導法もいっしょに学ぶ 保育内容「言葉」」	共	2023年7月	教育情報出版 (176ページ)	”保育内容「言葉」”の理論と実践を学ぶための、保育者養成課程を踏まえたテキストである。子どもの言葉の役割と機能(伝達機能、思考機能、行動調節機能)、言葉の機能により、認知や想像、自己や社会性、問題解決などの心の発達に影響をすること、前言語期から言語期へ、喃語や一語文などの話し言葉と、読み書きの発達について、児童期以降の二次的ことばについても述べた。保育・教育の現場で子どもが言葉に触れる場面を種々挙げるとともに、子どもが自ら言葉で表現したくなるように周囲があたたく受け止めることなど、関わりでの留意点についても述べた。(pp.44～48: 第3章子どもの言葉の発達を学ぶために必要なこととは 1節「言葉の役割と機能を学ぶ」) [編著] 浅井 拓久也 [共著] 山本 有紀、他17名

「子どもの発達の連続性を支える保育の心理学 第2版」	共	2025年1月	教育情報出版 (222ページ)	2019年発行の初版の改訂を行った。 子どもの育ちや学びの過程、子どもと向き合う基本姿勢といった心理学の基礎知識が、子どもの心を育むための関わりとして保育にとって重要であること、獲得と喪失を繰り返す中での発達、発達心理学の歴史の変遷、文化や社会、環境が互いに関連する中で生きる子どもの姿を捉えることの大切さについて述べた。(pp.18～22: 第1章2節「心理学では発達は、どのように捉えられているのでしょうか」) 子どもの発達や内的世界を把握するために必要な保育者の視点として生涯発達を挙げ、時間や状況、関係性の中で発達を捉えることや、発達の連続性を踏まえた保育者の関わりについて述べた。また、ピアジェやエリクソンの発達段階について述べた。(pp.51～55: 第3章1節「子どもの発達の連続性とはどのようなものだろうか」) [編著] 浅井 拓久也 [共著] 山本 有紀、他30名
「指導法もいっしょに学ぶ 保育内容「言葉」第2版」	共	2025年1月	教育情報出版 (182ページ)	2023年発行の初版の改訂を行った。 ”保育内容「言葉」”の理論と実践を学ぶための、保育者養成課程を踏まえたテキストである。子どもの言葉の役割と機能(伝達機能、思考機能、行動調節機能)、言葉の機能により、認知や想像、自己や社会性、問題解決などの心の発達に影響をすること、前言語期から言語期へ、喃語や一語文などの話し言葉と、読み書きの発達について、児童期以降の二次的ことばについても述べた。保育・教育の現場で子どもが言葉に触れる場面を種々挙げるとともに、子どもが自ら言葉で表現したくなるように周囲があたたく受け止めることなど、関わりでの留意点についても述べた。(pp.46～50: 第3章子どもの言葉の発達を学ぶために必要なこととは 1節「言葉の役割と機能を学ぶ」) [編著] 浅井 拓久也 [共著] 山本 有紀、他17名
(問題集)				
保育士試験科目別問題集 '15年版[下巻]	共	2015年3月	成美堂出版 (190ページ) (解説32ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。保育の心理学のポイント、練習問題、本試験型問題の三部構成。(練習問題、本試験型問題については、同問題集'14を一部修正、作問した。)(pp.6～50、解説pp.2～8) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他5名
保育士試験完全予想模試問題集'15年版	共	2015年4月	成美堂出版 完全予想模試第1回 (100ページ) 完全予想模試第2回 (101ページ) (解説99ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当、本試験型問題を作問した。(同問題集を一部修正、作問した。)(問題: 第1回pp.1～10、第2回pp.1～12)(解説: pp.30～35、pp.80～85) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他10名

保育士試験科目別問題集 '16年版[下巻]	共	2016年2月	成美堂出版 (190ページ) (解説書32ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。保育の心理学のポイント、練習問題、本試験型問題の三部構成。(練習問題、本試験型問題については、同問題集'15を一部修正、作問した。)(pp.6-50、解説pp.2-8) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他5名
保育士試験完全予想模試問題集' 16年版	共	2016年3月	成美堂出版 完全予想模試第1回 (109ページ) 完全予想模試第2回 (108ページ) (解説99ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'15を一部修正、作問した。)(問題: 第1回pp.1-10、第2回pp.1-12)(解説: pp.30-35、pp.80-85) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他8名
保育士試験完全予想模試問題集' 17年版	共	2017年2月	成美堂出版 完全予想模試第1回 (109ページ) 完全予想模試第2回 (108ページ) (解説100ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'16を一部修正、作問した。)(問題: 第1回pp.1-13、第2回pp.1-13)(解説: pp.4-10、pp.54-59) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
本試験型保育士試験問題集' 17年版	共	2017年3月	成美堂出版 (262ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(科目別問題集'16を一部修正、作問した。)(pp.6-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
本試験型保育士試験問題集' 18年版	共	2017年12月	成美堂出版 (262ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'17を一部修正、作問した。)(pp.6-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
保育士試験完全予想模試問題集' 18年版	共	2018年2月	成美堂出版 完全予想模試第1回 (108ページ) 完全予想模試第2回 (108ページ) (解説101ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当、本試験型問題を作問した。(同問題集'17を一部修正、作問した。)(問題: 第1回pp.1-13、第2回pp.1-12)(解説: pp.4-10、pp.55-60) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他8名
保育士採用試験重要ポイント+問題集' 20年版	共	2018年11月	成美堂出版 (222ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'19を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名

本試験型保育士試験問題集'19年版	共	2018年12月	成美堂出版 (262 ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'18を一部修正、作問した。)(pp. 5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
保育士採用試験重要ポイント+問題集'21年版	共	2019年11月	成美堂出版 (234ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'20を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名
本試験型保育士試験問題集'20年版	共	2019年12月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'19を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
本試験型保育士試験問題集'21年版	共	2020年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'20を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
保育士採用試験重要ポイント+問題集'22年版	共	2020年11月	成美堂出版 (224ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'21を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名
本試験型保育士試験問題集'22年版	共	2021年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'21を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
保育士採用試験重要ポイント+問題集'23年版	共	2021年11月	成美堂出版 (224ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'22を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名
本試験型保育士試験問題集'23年版	共	2022年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'22を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名

保育士採用試験重要ポイント＋問題集 '24年版	共	2022年11月	成美堂出版 (224ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'23を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] <u>山本 有紀</u> 、他6名
本試験型保育士試験問題集'24年版	共	2023年9月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'23を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] <u>山本 有紀</u> 、他 9名
保育士採用試験重要ポイント＋問題集 '25年版	共	2023年11月	成美堂出版 (224ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'24を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] <u>山本 有紀</u> 、他 6名
本試験型保育士試験問題集'25年版	共	2024年9月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'24を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] <u>山本 有紀</u> 、他 9名
保育士採用試験重要ポイント＋問題集 '26年版	共	2024年11月	成美堂出版 (224ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'25を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] <u>山本 有紀</u> 、他 6名
(研究発表)				
「保育所実習の振り返りにおける学生の学びのとらえ方」	共	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 相山女学園大学	短期大学2年次の保育所実習終了時点での振り返りの記述内容を分析した。学生が子どもの姿からどのような点を学びとしているのか、傾向や着眼点を整理した。実習で体験したことが「気づき」「考察」まで深まらず、「感想」「事実」に留まるものが70%を超えた。実際に捉えた子どもの姿と、これまで学んだ知識との結びつけ、分析を行う経験が不足していると考えられる。 <u>曾野麻紀</u> 、 <u>並木真理子</u> 、 <u>桃枝智子</u> 、 <u>山本有紀</u>

「保育者養成課程の心理学における授業実践―“育ちの記録”作成による視点変化と学び―」	単	2017年5月	日本保育学会 第70回大会 川崎医療福祉大学	保育者養成課程の心理科目では、実践的な発達援助の理解が到達目標だが、各年齢での様相と目安の理解不足という学生の自覚が挙がった。関係性や連続性から捉える意識に乏しい現状から、教授法と課題に工夫が必要であり、学習成果の査定、主体的に取り組む事前事後の学習課題が求められる。“育ちの記録”の作成と、学生同士で互いに見ることを課した結果、発達過程の理解を底上げし、各自の関心(例:言葉、描画)を掘り下げることができたが、乳児期より幼児期の理解に繋がりにくい結果となった。感想の記入方法を変えたことで、生涯発達と関係性の視点が全学生に生じ、園の連絡帳を読む、出身園の方針を調べるなど、より保育現場に沿った学びが見られた。(洗足論叢第45号『保育者養成課程における乳幼児の発達理解について―育ちの記録の作成による学び―』(山本有紀、2016)の未発表部分と、追研究として2016年12月から翌1月に収集したデータを加え再分析したものである)。
(教育活動、その他)				
夢ナビ講義ライブ2015		2015年7月	主催 フロムページ 後援 文部科学省 共催 河合塾・Z会・受験サプリー・進研ゼミ高校講座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2015年東京会場(東京ビッグサイト)では、301の講義ライブが実施された。「となりのトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ(4歳)の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620 ・受講者の声 http://yumenavi.info/live/uketuke/kakunin/Kuchikomi_pc.aspx?kjid=s800622001&kougicd=20040
夢ナビ講義ライブ2016		2016年7月	主催 フロムページ 後援 文部科学省 共催 河合塾・Z会・受験サプリー・進研ゼミ高校講座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2016年東京会場(東京ビッグサイト)では、333の講義ライブが実施された。「となりのトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ(4歳)の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620 ・受講者の声 http://yumenavi.info/live_archive/uketuke/kakunin/KliveList_Pc.aspx?p=tokyo

夢ナビ講義ライブ2017	2017年7月	主催 フロムページ 後援 文部科学省 共催 河合塾・Z会・受験サプリー・進研ゼミ高校講座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2017年東京会場（東京ビッグサイト）では、384の講義ライブが実施された。 「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ（4歳）の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620
新説！所JAPAN	2019年3月	カンテレ	日本人が隠れ家に心惹かれる理由について番組が調査する中、発達心理学の観点でインタビューに答えた。幼少期に経験したかくれんぼや秘密基地といった遊びでの体験、発見の喜びが生涯につながっていることを述べた。
スタッフセミナー （洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学）	2019年12月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 SD活動	「心豊かな日々のための生涯発達心理学」と題し、本学職員に向けたセミナーの講師を担当した。生涯での獲得と喪失、対象喪失、他者との関係性の中で築かれる自己について、幼少期の経験が大人につながるなど、他者の喜びや悲しみを分かち合うことなど、発達心理学をはじめ、心理学の諸領域より講義を行った。
図書館便り2020 <私の推薦図書>	2020年9月	洗足学園音楽大学附属 図書館・洗足こども短期 大学附属図書館 図書館便り2020 第11巻 1号 （13ページ）	『子どもの世界をどうみるか 行為とその意味』を推薦図書に挙げ、著者である津守真が、日々の保育実践から感じた子どもの内奥に広がる世界の奥深さについて、また自己理解が完全ではないこと、他者理解の難しさ故に積極的関心を向けること大切さについて述べていることについてまとめた。 「子どもにとって意味のある世界は、生活の片隅のように見える小さな時間と空間の中にある」という一文、「何気ない日常場面のひとつのような記憶が、何十年を経た後も心の底に残り、人間形成に関わる」という著書の内容を取り上げ、コロナ禍における現在の日常も貴重な人間形成の時間であることを述べた。また、他者からのあたたかなまなざしと寄り添い、心を通わせ合う経験の積み重ねが、その人の生涯に渡る生きる力の基礎を育むということについても触れ、自分の思いを伝え、受け止めてくれる存在がいることの幸せを存分に感じながら日々を過ごしていくことのかけがえのなさについて言及した。（p3）

教 育 研 究 業 績 書

2025 年 5 月 1 日

氏名 長島 万里子

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑 誌又は 発表学会などの 名称	概 要
(著書)				
発達保育実践政策学のフロンティア(第2巻 保育・子育ての社会科学)	共著	2021年2月	中央法規出版	東京大学大学院教育学研究科付属発達保育実践政策学センター監修、秋田喜代美・小玉重夫編。第2巻第1章「保育者養成の高度化」を分担執筆。保育者養成に4年制大学が増加している状況とその要因をアンケートとインタビュー調査から実証的に検証した。アンケート作成、インタビュー実施、分析を担当。両角亜希子・長島万里子・松村智史(pp1-34)総ページ294
哲学的な考えをいかす 新・保育原理	共著	2024年2月	教育情報出版	7章2節「子ども・子育て支援新制度を考える」多文化共生、少子化のなかの教師や保育者のありかたを考える内容を事例やワークを含めて執筆した。総ページ173
保育者・小学校教諭を目指す学生のための ワークで学ぶ 教育原理	共著	2025年3月	ミネルヴァ書房	保育者(保育士、幼稚園教諭、保育教諭)や小学校教諭を目指す学生が学ぶための「教育原理」テキストである。保育のみ、小学校のみの資格・免許を取得する学生も、幼小の接続を理解することは重要であることから、乳幼児期から児童期までをつながりとしてとらえられるよう執筆した。柳井郁子・長島万里子編集。
(学術論文)				
幼児期の発達調査に関する提言—S幼稚園児の土踏まず測定と生活アンケート結果をもとに	共著	2016年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第44号(10ページ)	3年間縦断的に集積したS幼稚園における園児の土踏まずの形成状況と保護者へ向けた生活に関するアンケート結果との関連を報告し、発達を促すと考えられる生活習慣、運動習慣を検討することを目的とした。また、この結果より得られた発達調査研究の限界と課題を明確にし、現在広くおこなわれている発達調査に対する課題に言及し、今後の発達調査を的確におこなうための一助とすべく提言を行った。石濱加奈子・長島万里子・神蔵幸子。アンケート作成・実施・集計・分析・考察を担当執筆。
保育の質に対する園長の専門性—保育に関する全国調査から—	共著	2017年3月	大学経営政策研究、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース 第7号、89-104(14ページ)	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)が実施した「保育・幼児教育施設大規模調査」のうち、就学前教育・保育施設の長(園長)を対象としたアンケートを用いて分析を行った。園に対する主観的な評価に対しては、園長の学歴、園長の専門性がきわめて大きな影響を与えており、逆に立地の違いは影響を与えていないことがわかるなど、これまで研究が行われてこなかった面が明らかになった。両角亜希子・長島万里子。研究設計、アンケート分析、考察を担当執筆。
韓国の保育者養成校における教育課程—培花女子大学の事例から—	単著	2017年3月	短期高等教育研究、短期大学コンソーシアム、第7号、51-57(7ページ)	近年、保育者養成校はいかにその教育課程を工夫し、基準に則りつつも他大学と差別化を図り、質の良い保育者を送り出していくかが問われている。本研究では韓国の保育制度や保育者養成の動向を整理した上で、首都ソウルに立地する短期高等教育機関である専門大学、培花女子大学の保育者養成の教育課程を考察した。人形劇やワークショップの授業プログラム、学士学位取得への「専門深化課程」、学校独自の奨学制度等から日本への示唆を得た。

韓国における医師養成課程の効率性分析	共著	2017年12月	Journal of Policy Informatics、政策情報学会、第11巻第1号、47－55（9ページ）	韓国におけるメディカルスクールは国際競争力のある医師を養成するために米国式の形態を取り入れたものである。韓国の医師養成課程における3類型（MS型/MC型/並行型）別の効率性について、包絡線分析（DEA）を用いて明らかにした。その結果MC型のほうが効率性のよい教育研究を推進していることが分かったが、全国的にMS型に戻る流れとなっていることなどの現状の分析と、日本への示唆を示した。長島弥史郎・長島万里子。資料翻訳、分析、考察部分を担当執筆。
保育者養成校の教育内容に関する実証的研究－四大化は質の高度化につながっているのか－	共著	2019年3月	大学経営政策研究、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース 第9号、1－18（18ページ）	保育者養成校の教育内容に焦点を当て、どのような教育内容・方法等が質の高い保育者養成あるいは評価の高い卒業生の輩出につながっているのかをアンケート調査結果から検討した。その結果、入学者の学力層の直接的な影響が見られず、機関別の直接的影響も限定的であることがわかった。卒業生評価においてはinput要素と比較して教育内容の違い、その中でも「実践力重視」や「保育関連カリキュラムの充実」が高い影響を与えている傾向があった。また養成校の歴史や専任教員の保育者を育てる自負心の強さ、教員間のコミュニケーションの良好さ、実習指導授業の充実などが実践力を重視する教育内容につながっている可能性が示された。両角亜希子・長島万里子 アンケート作成・実施・集計・結果分析を担当執筆。
短期大学における保育者養成の特徴と課題－機関責任者へのアンケート調査から－	単著	2019年5月	短期高等教育研究、短期大学コンソーシアム、第9号、25－31（7ページ）	幼稚園教諭免許を取得可能な指定保育士養成校の責任者を対象としたアンケート調査の分析を行い、現場での実践的な教育と、丁寧な就職支援が特色であるとする短期大学が多い傾向が明らかになった。課題としては、実習指導の忙しさや担当授業数の多さで時間を取られること、学生の学習習慣不足があげられた。また短期大学の強みについては保育士資格を2年で取得できる、早く働きたいニーズに応えられる、低学費に加え、学生の目的も保育者になることと明確であること、また短大卒に対する現場のニーズが高いことなどがあげられた。
保育者養成系高等教育機関に期待される養成及び現職教育への関わり方に関する考察	共著	2021年3月	大学経営政策研究、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース 第11号、85－100（16ページ）	保育者養成系高等教育機関が保育者の「養成」及び「現職教育」にどのように関わるべきかを検討するため、保育現場の長（園長等）へのインタビューからの分析を行った。養成校で身に着けることが求められていることとして実技の「基本」、保育への構え、前向きさ、豊かな人間性、学び続ける姿勢などの土台の上に、「知識」や「引き出し」があげられたことが明らかになった。松村智史、長島万里子 研究設計・先行研究整理・インタビュー実施・分析・考察を担当執筆。
「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討：「実習日誌」及び「保育者のための文章表現授業」アンケートからの分析	共著	2021年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第49号、81－95（15ページ）	著者グループは子どもの育ちを的確に記録し、その姿を丁寧に読み解いて記述する能力に着目し、保育記述力と名付け、それを育む授業のあり方を模索している。本研究では2019年から2020年にかけて、学生の実習日誌記述に関する困難感を把握し、「保育者のための文章表現授業」の効果を明らかにするために実習日誌及び「保育者のための文章表現授業」に関するアンケートを実施し、その分析結果をまとめた。井上 真理子、向笠 京子、長島 万里子、高橋 優子、伊藤 路香、上田 よう子 研究設計・先行研究整理・統計分析・考察を担当執筆。

我が国における政策系大学院教育に関する研究動向	共著	2021年12月	Journal of Policy Informatics、政策情報学会、第15巻第1号、5－12。	我が国の政策系大学院の教育に関する研究動向を把握することを目的とし、政策系大学院の教育課程、海外の政策系大学院教育、政策系大学院教育と仕事との関係の3点それぞれの分野から論文レビューを行い、整理したものである。その結果、我が国の政策系大学院の教育に関する研究領域は多岐に渡り、それぞれの領域について部分的に先行研究は存在するものの、全体として低調な傾向にあり、特に実証系の研究が欠如しているのが現状といえることを明らかにした。海外(韓国)の政策系大学院教育の事例部分を担当執筆した。長島弥史郎・松村智史・長島万里子
「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討(2): テキストマイニングによる「保育者のための文章表現」授業アンケート自由記述回答の解析	共著	2022年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第50号、117－129。	「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討(1)(井上ほか2021:81-95)」の結果を検証するとともに質的な言語データ(テキスト)の中に埋もれている情報を掘り起こし、活用するため、テキストマイニングによる授業アンケート自由記述回答の解析を行った。その結果、学生にとって、「事例・考察」の書き方についての授業内容が最も役に立ち、また知りたかった内容であったということ、そのなかでも第2回目の実習(保育所)終了後には一段階レベルの高い保育記述力についての要望が強くなっていることを明らかにした。研究設計・先行研究整理・テキストマイニング分析・考察を担当執筆。長島万里子・向笠京子
円滑な幼保小接続のための保育者養成教育内容の検討—A市の公立小学校における栄養教諭・栄養士等のアンケート調査のテキストマイニング分析から—	共著	2023年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第51号、229－240。	小学校栄養教諭/栄養士への23名へのインタビューを行った結果を報告した。小学校教員(栄養教諭)は、幼小接続に関する研修や実際の交流がなかったこと、接続という意識ではなかったが各自が円滑な接続のため工夫してきたことが明らかになった。また、各自の知識や経験をあわせることで、食に関して、より効果的な幼小接続が実現する可能性が示唆された。そして幼小交流に栄養教諭が参加することに効果がある可能性が示唆された。長島万里子・山下奈美子・青柳徳子
保育者養成に関する体験型学習プログラムの検討: 先行研究レビューから	共著	2024年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第52号、197－207。	保育者養成におけるワークショップに関する先行研究を収集し内容を概観し知見を整理し、その意義と課題を明らかにすることを試みた。13件の先行研究から得られた知見として、授業カリキュラムとの連関の提示が望ましいこと、専門性の高い講師がいて満足度が高いこと、体験的な学びや教育的な評価の必要性などがあげられた。坪井葉子・長島万里子 共同研究により抽出不可
日本、韓国、中国の幼児教育・保育制度の動向—日韓中における子どもの健やかな育ちに関する教育・保育カリキュラムに注目して—	共著	2024年3月	日本幼少児健康教育学会誌第9巻第2号、33－40	東アジアに位置し、少子高齢化、子どもの体力低下、保育の質への取り組みなどにおいて類似する課題をかかえる韓国・中国の子どもの育ちの現状を知ることによって日本への示唆を得ることを目的として、日韓中共同研究をすすめるなかで、日韓中3か国の幼児教育・保育に関わる法制度や行政支援、掲げられている理念や目標などを背景調査として整理し、比較した。その結果、日韓中3か国とも、幼児(未就学児)を取り巻く保育・教育の制度に違いはあるものの、国家カリキュラムの中に子どもの健やかな育ちに関する目標をもっていることが明らかになった。そして、子どもの健やかな育ちのために子ども主体で活動すること、楽しんでからだを動かすことを大切にしていることが示唆された。長島万里子・金銀正・範莉穎・陳兆麗・徐相玉・河本洋子・梅澤雅和 研究設計・先行研究整理・分析・考察を担当執筆。

国家公務員の米国大学院留学における学びに関する考察 —インタビューのテキストマイニング分析結果から—	共著	2024年3月	大学経営政策研究、第14号、215—229。	25名へのインタビューのテキストマイニング分析結果から国家公務員の米国大学院留学における学びを実証的にとらえることを試みた。その結果、第一に、米国留学前後の意識変化の分析結果からは、日本やアメリカの見方、仕事や行政へのポジティブな意識変化が整理されたことから留学先の大学院の教育内容及び留学生活が、国家公務員に認知面・情緒面でプラスの影響を与えている可能性がうかがわれた。第二に、米国留学で得られたネットワークの分析結果からは、留学先の大学院における研究者のつながりだけでなく、大学が位置する地域の研究コミュニティや、地域の留学生同士、帯同する子どもなどを通じた地域のつながりから、留学生としての国家公務員は有益なネットワークを得ていることがうかがわれた。 長島万里子・松村智史・長島弥史郎 研究設計・先行研究整理・分析・考察を担当執筆。
コロナ禍における保育所の感染症対策に関する実態と課題—2021年のアンケート自由記述回答の解析より—	共著	2025年7月	学苑 昭和女子大学紀要979号	コロナ禍の保育所の感染症対策を振り返り、検討することが今後の保育所の感染症対策の一助となると考えコロナ禍における保育所の現状と課題を明らかにすることを目的とし、2021年2月と7月に関東圏の保育士を対象に、無記名自記式質問紙調査を行った結果を分析し、考察を整理した。自由記述部分のテキストマイニングとその考察を担当した。 向笠京子・長島万里子・福楓
(学会発表)				
S幼稚園における幼少児の土踏まず測定と生活アンケート結果の分析—年長時の測定で土踏まずが形成されていた子どもの特徴	共同	2016年3月	日本幼少児健康教育学会、第34回大会、青山学院大学	幼児期の土踏まず形成を促す要素を検討する目的で、年少時に土踏まず形成が見られなかった幼児のうち、年長時には土踏まず形成が見られた幼児と年長時にも土踏まず形成が見られなかった幼児の生活アンケート調査結果をマン・ホイットニーのU検定を実施し比較した。その結果「早寝・早起きの規則正しい生活をする」、「活発な活動を保育の場や家庭で十分におこなうこと」、「母親が幼児とともにスポーツ・運動遊びを積極的にこなうこと」、「家族で運動・スポーツに関する話題を楽しむこと」が土踏まず形成群に有意に多く認められたことから、これらが幼児の体力・運動能力を向上させることにつながる可能性が示唆された。長島万里子・石濱加奈子・神蔵幸子(30—31頁)
メディカルスクール導入後の韓国における医師養成課程の効率性分析	共同	2016年5月	日本比較教育学会、第52回大会、大阪大学	韓国の医師養成課程におけるメディカルスクールの発展過程(導入の背景、経緯、現況、導入後の課題等)を明らかにした。また韓国の医師養成課程における3類型(MS型/MC型/並行型)別に包絡線分析(DEA)を用いてその効率性を調べた、その結果、メディカルスクール(MS型)は旧来の医学部(MC型)や並行型と比較し、効率性の高い医師養成課程である可能性を垣間見ることができた。長島万里子・長島弥史郎。
保育者の遊び環境設定力の教育歴による差 —保育に関する全国調査(5歳児クラス担任編)から—	単独	2017年3月	日本幼少児健康教育学会、第35回大会、日本体育大学	「保育所内外の空間や物的環境、様々な遊具や素材、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく技術」に着目し、保育者の教育歴によりその力に違いがあるのかどうかを分析した。東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)が実施した「保育・幼児教育施設大規模調査」を用いて分析を行った。マンホイットニーのU検定の結果、幼稚園においては遊び環境設定力($p=0.000$)は四年制大学卒業者が短期大学卒業者に比べ有意に高い水準を示し、ルール指導力($P=0.000$)においては四年制大学卒業者より短期大学・専門学校卒業者の方が有意に高い水準を示していることなどが明らかになった。

保育者養成の高学歴化に関する研究 —機関側の行動から—	共同	2017年3月	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2016年度関連SEEDSプロジェクト成果報告会、東京大学	保育者養成を行う四年制大学の教育・カリキュラムなどは短大のそれとどのように異なっており、本当に保育の質の高度化につながっているのかを明らかにする目的で東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）SEEDSプロジェクトで取り組んでいる研究（研究代表者：両角亜希子）の当該年度の報告をおこなった。保育者養成校の取得資格、就職状況などを各校のウェブサイトをもとに整理した結果及び機関関係者へのインタビュー調査の結果をカリキュラム、就職面などでの特徴を中心に発表した。両角亜希子・長島万里子
保育者養成の高学歴化に関する研究 —機関側の行動から—	共同	2018年1月	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2017年度関連SEEDSプロジェクト成果報告会、東京大学	保育者養成を行う四年制大学の教育・カリキュラムなどは短大のそれとどのように異なっており、本当に保育の質の高度化につながっているのかを明らかにする目的で東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）SEEDSプロジェクトで取り組んでいる研究（研究代表者：両角亜希子）の当該年度の報告をおこなった。首都圏を中心に四大4校、短大5校の学科・学部の長、担当教員を対象とし、2016年7月～2017年10月に実施したヒアリング調査を分析したものを発表した。保育者の需要がピークアウトすることへの対応、専門性への議論の必要性、保育者の資格のあり方・資質統制方法の必要性などが共通の課題であることを整理した。両角亜希子・長島万里子
保育者養成の高学歴化に関する研究 —四大化は質の高度化につながっているのか—	共同	2019年2月	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2018年度関連SEEDSプロジェクト成果報告会、東京大学	保育者養成校の教育内容に焦点を当て、どのような教育内容・方法等が質の高い保育者養成あるいは評価の高い卒業生の輩出につながっているのかを東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）が実施した「保育者養成に関するアンケート」の調査結果から検討した。その結果、入学者の学力層の直接的な影響が見られず、機関別の直接的影響も限定的であることがわかった。卒業生評価においてはinput要素と比較して教育内容の違い、その中でも「実践力重視」や「保育関連カリキュラムの充実」が高い影響を与えている傾向があった。また養成校の歴史や専任教員の保育者を育てる自負心の強さ、教員間のコミュニケーションの良好さ、実習指導授業の充実などが実践力を重視する教育内容につながっている可能性が示された。両角亜希子・長島万里子
保育者養成校の教育内容に関する実証的研究 —短期大学における保育者養成の特徴と課題—	単独	2019年5月	日本保育学会、第72回大会、大妻女子大学	四年制大学の参入が続き、少子化のなかで学生募集の競争が激化している状況における短期大学の保育者養成の課題及び特徴を東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）が実施した「保育者養成に関するアンケート」の調査結果から検討した。その結果、短期大学における保育者養成の課題は、立地別の差は見られなかった。また、短期大学における保育者養成の共通の課題には「実習指導の忙しさ」、「学生の学習習慣の不足」、「担当授業の多さ」があげられた。
保育者養成の高学歴化に関する研究 —四大化は質の高度化につながっているのか—	共同	2020年2月	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2019年度関連SEEDSプロジェクト成果報告会、東京大学	保育者養成校の高学歴化に関して東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）が実施した「保育者養成に関するアンケート」の調査結果と保育現場へのインタビューを分析した。専門職としての保育者を育てるために現場では就職後の経験や学びが重要とされていること、しかしながら養成校の教育内容が専門性を高めることを意識したものであることも一定の意味があることなどが明らかになった。両角亜希子・長島万里子・松村智史
保育学生の心身の健康が実習満足度に与える影響の分析	共同	2021年2月	日本幼少児健康教育学会第39回大会春季：加須大会、平成国際大学	保育実習の充実には保育学生自身の心身の健康が関連するという仮説の検証を試みた。2020年6月に実施した実習終了後アンケートから実習に関する項目を使用し、研究における倫理的配慮を行ったうえで分析を実施し重回帰分析を行い、実習期間の心の健康は、実習満足度に影響を与えることを明らかにした。向笠京子・長島万里子

コロナ禍における保育所の実習生受け入れ体制の実態及び感染症対策、職場環境についての調査研究 第1報	共同	2022年3月	日本保育者養成教育学会第6回研究大会	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行・拡大・鎮静している中で、感染対策を講じながら、実践力を培う実習の受け入れと健康と安全を保障する実習のあり方が課題となっているなかで、1. 実習の受け入れに対する現場の実態を捉えること2. 実習受け入れの可否やその条件を現場がどのような基準や判断に基づき決定をしているのかの実態を明らかにすること3. 養成校における教育・指導内容を検討することを目的とした保育者対象アンケート調査結果を報告した。向笠 京子・井上 眞理子・坂田 哲人・長島 万里子・高橋 優子・伊藤 路香・上田 よう子
コロナ禍における保育所の実習生受け入れ体制の実態及び感染症対策、職場環境についての調査研究 第2報	共同	2022年3月	日本保育者養成教育学会第6回研究大会	第1報では量的分析結果を報告したが、第2報では、自由記述部分をテキストマイニング分析によって考察した。その結果、保育所におけるコロナ禍での実習生受け入れに関して、「よかった点」として示された意見の大多数は、普段の実習生受け入れ時と変わらなかったといえること、「養成校への要望、意見」については、コロナ禍ならではの養成校への要望・意見が多くみられたこと、「困ったことや検討したこと」については、実習内容や経験が通常通り提供できなかったことへの実習園側の申し訳なさや、安全面への配慮に苦慮しながらも、慎重かつ最大限の工夫を模索・検討している様子が明らかになった。長島 万里子・向笠 京子・井上 眞理子・坂田 哲人・高橋 優子・伊藤 路香・上田 よう子
コロナ禍における保育士の心身の健康と感染症対策に関する検討ーテキストマイニングによるアンケート自由記述回答の解析ー	共同	2022年3月	日本幼少児健康教育学会第40回記念大会【春季：赤羽台大会】	保育士の心身の健康やコロナ禍での感染症対策などを、質的に検討するため、言語データ(テキスト)を活用し、テキストマイニングによる自由記述回答の解析を行った。その結果から、保育者養成校の子どもの保健や実習指導の授業では、実際に現場に行った際に感染症の予防と対策などを実践できるように、今まで以上に感染症対策に関して授業で取り扱い、演習形式で実践的な授業がより必要であると考えられることが明らかになった。向笠京子・長島万里子
健やかな子どもの育ちのための幼小接続期のあり方に関する一考察	共同	2022年3月	日本幼少児健康教育学会第40回記念大会【春季：赤羽台大会】	小学校栄養教諭への4名へのインタビューを行った結果を報告した。小学校教員(栄養教諭)は、幼小接続に関する研修や実際の交流がなかったこと、接続という意識ではなかったが各自が円滑な接続のため工夫してきたことが明らかになった。また、各自の知識や経験をあわせることで、食に関して、より効果的な幼小接続が実現する可能性が示唆された。そして幼小交流に栄養教諭が参加することに効果がある可能性が示唆された。 長島万里子・山下奈美子・青柳徳子
韓国の保育者養成ー専門大学における「専攻深化課程」の考察ー	単独	2022年5月	日本高等教育学会第25回大会	韓国では専門大学(短期高等教育機関)出身者の割合が高いため、入学者ではなく卒業者の学力向上の方法を用意するべきであること、「深化教育課程(専攻深化課程をさす)」などで学士学位を取得することがすすめられている。韓国の「専門大学」における学士学位取得制度である「専攻深化課程」が、保育者養成においてどのような位置づけにあるのかを事例考察から明らかにすることを試みた。保育者を養成する専門大学にとっても学生獲得というメリット、及び4年制大学と同等の学位を授与できるため4年制大学と対抗できるというメリットがあることが示唆された。

遊び中心・子ども主体の現場づくりのための日韓中の状況と幼少児の健康・生活習慣の現状と課題に関する国際調査の取り組み	単独	2022年9月	日本幼少児健康教育学会第41回大会	日本と同じ東アジアに立地し、少子高齢化、子どもの体力低下、保育の質への取り組みなどにおいて類似する課題をかかえる韓国・中国の子どもの現状、教育保育の動向を知ることによって日本への示唆を得ることを試みた。日中韓の子どもが置かれる状況、保育制度、保育内容は様々であるが、子ども主体、遊び中心は共通であることが明らかにされた。日本主導でおこなう研究、本学会が調査する意義を考慮し、「保育内容・健康」の考え方からの尺度(本学会員澤・藤本作成)をベースに、日韓中3か国のこどもの心身の健康を調査することにつながる議論のたたき台となった。
健やかな子どもの育ちのための幼小接続期のあり方に関する一考察—A市における栄養教諭・栄養士等のアンケート調査の分析から—(共同)	共同	2023年3月	日本幼少児健康教育学会第42回大会	円滑な幼小接続のために保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)がどのようなことを知識として備えて現場に出ることが求められているのか、そのために保育者養成段階でどのような養成教育を行うことが望ましいのか、を22名のアンケートから実証的に探った。1年生の給食指導において困ることは①給食の量や内容、準備に時間がかかること、食べるにあたっての偏食など、給食そのものへの苦手意識や苦手な反応、②牛乳を飲むことや箸の使い方、食事時間の短さに泣くなどの児童の様子、③静かに座ることができない、④授業中に教室をでる、⑤食事中に立つ、歩く、集中できない、マナー不足、が目立っているように整理された。青柳 徳子・長島 万里子・山下 奈美子
韓国の幼児教育保育制度及び保育者養成に関する考察—「子どもの健やかな育ち」に着目して—	単独	2023年5月	日本比較教育学会、第41回大会、上智大学	①2022年5月に第20代大統領に就任した尹錫悦大統領の新政府における幼児教育保育政策の方向性、そして韓国の現職保育者が②子どもの心身ともに健やかな育ちに関連しどのような部分に実際に課題を感じているのか、それに最も関連の深い領域である③ヌリ課程「身体運動・健康」領域のうちどのような内容が保育者養成段階で学んだもののうち現場で役に立っているかと考えられているのかについて文献資料を整理し日本への示唆を得た。
国家公務員の米国大学院留学における学びに関する考察—インタビューのテキストマイニング分析結果から—	共同	2023年6月	日本高等教育学会第26回大会 千葉大学	米国大学院の留学経験を持つ国家公務員もしくは国家公務員経験者25名に半構造化インタビューを実施した結果①留学前後の意識変化の分析結果からは、日本やアメリカの見方、仕事や行政への意識などの変化が整理されたことから留学先の大学院の教育内容及び留学生活が、認知面・情緒面で影響を与えていることが明らかになった。②留学で得られたネットワークの分析結果からは、留学先の大学院における研究者のつながりだけでなく、大学が位置する地域の研究コミュニティや、地域の留学生同士、帯同する子どもなどを通じた地域のつながりも見られた。これらから、米国留学がもたらすものは、国際化が進展する中で、国際的視野を持ち、複雑・多様化する国際環境に的確に対応できる人材を育てることに一定の成果があるといえるのではないかと考えられた。長島万里子・松村智史・長島弥史郎
健やかな子どもの育ちのための 幼小接続期のあり方に関する一考察	共同	2023年6月	日本生活科・総合的学習教育学会第32回神奈川大会	健やかな育ちのための円滑な幼保小接続を研究するために実施したA市における栄養教諭・栄養士等22名のアンケート調査の分析をふまえ、小学校1年生担任からの意見を整理し発表した。また朝の支度の後の「のんびりタイム」として今日児教育保育施設で慣れている環境、遊び、ゲーム、歌などでのびのびと自己発揮できるようになることを目的として設けられた時間を紹介した。山下 奈美子・青柳 徳子・長島 万里子
健やかな子どもの育ちのための 幼保小接続期のあり方に関する一考察—小学校教諭アンケート調査から—	共同	2023年9月	日本幼少児健康教育学会第41回大会、安田女子大学	小学校教諭が幼保小接続に関して感じている小学校教諭の幼保小接続や接続期への意識、円滑な幼保小接続を実現するために気を付けている点・工夫・支援や課題、教員養成課程への意見を大規模調査するにあたり、半構造化インタビューによって調査項目を精査した結果を発表した。小学校教員が幼保小接続に関して関連用語を養成課程や研修である程度認識していること、研修や養成課程での学習の必要性を感じていること、「10の姿」を意識した声掛けをしている割合も高かったこと等がうかがえる結果となった。長島万里子・青柳 徳子・山下 奈美子

「日韓中3 か国における子どもの心身の健康に関する調査」 日韓予備調査報告	共同	2024年2月	日本幼少児健康 教育学会第42回 大会、洗足こども 短期大学	日韓の子どもの心身の健康を測るための保護者調査 (日本15 名,韓国19名),保育者調査(日本22 名,韓国 16 名を)を分析した。その結果日本の子どもが自己 肯定感が高い結果であったこと、韓国の子どものほう が歯の健康への意識が高く、就寝時刻が遅いこと、 日本の保育者のほうがこども主体の研修をより多く受 けていることなど、日韓の子どもの実態や保育者の意 識の違いが一部浮かびあがってきた。 長島万里子・金銀正・徐相玉・河本洋子・三宅孝昭・ 梅澤雅和・日本幼少児健康教育学会 国際交流委員 会
健やかな子どもの育ちのための幼保 小接続期のあり方に関する一考察 —小学校教員アンケート調査から—	共同	2024年2月	日本幼少児健康 教育学会第42回 大会、洗足こども 短期大学	小学校教員71 名を対象に実施した調査より、幼保小 接続に関して、実際の現場での指導の中で研修の必 要性は感じているが機会は限られていること、幼保小 接続の関連用語の認識には用語によって大きな差が あること、「10 の姿」を意識した声掛けをしている割合 も高くはないこと等がうかがえることが明らかになっ た。山下 奈美子・青柳 徳子・長島 万里子
韓国の短期高等教育機関における保 育者養成の課題	単独	2024年3月	日本保育者養成 教育学会第8回研 究大会 東京家政大学	①日韓の幼児教育保育政策、保育者養成、少子化対 策を韓国教育部資料、韓国の論文データベースで発 表されている論文から文献調査を実施したものと、② 韓国の保育者養成に携わる教員インタビュー結果を 分析したものを整理し発表した。日韓は歴史上、幼児 教育保育制度において類似する部分が多い。しかし 今年度実現する幼保一元化(韓国語では「幼保統 合」)、就学年齢の前倒しなど韓国の政策はより積極 的な変化を見せている。保育者養成校教員インタ ビューからは、4年制大学と比較し短期大学の学生募 集の厳しさがうかがいあがってきた。
韓国の短期高等教育機関における保 育者養成—教員インタビューの分析 から—	単独	2024年5月	日本高等教育学 会第25回大会 鎌倉女子大学	韓国の保育者養成を行う高等教育機関の教員に対 し、保育者養成内容の特徴、養成校の強みと課題、 志願者の動向などを把握するために半構造化インタ ビューを実施した。本発表では短大(2・3年制の専門 大学)教員2名と4大教員2名のインタビュー調査の結 果を考察した。韓国では国民の教育熱・高学歴化の 影響もあり、保育者も4大卒以上を求められ、また保 育者自身も望む傾向があること、幼保一元化の政策 動向のなかで、養成年限の基準が4年になる可能性 が高いことなどを整理した。
韓国の就学前教育・保育の現状と課 題—保育者養成校教員のインタ ビューから—	単独	2024年5月	日本保育学会、 第78回大会長野 県立大学	韓国の教育・保育政策の動向レビュー、及び韓国の 大学教員へのインタビュー調査を整理した。韓国の現 政権は幼保一元化を進めており韓国の保育者養成 は日本の資格取得や就職状況に類似するも、幼稚園 教師の資格に関して政府の制限があると、日韓で異 なる点等が明らかになった。また就学前の幼児教育・ 保育機関も統一され、幼稚園正教師・保育教師の資 格も一つの資格となるため養成年限が4年になり、短 期大学においても何等かの形で4年の養成が行われ るようになるのではないかと不安も期待もあること が明らかになった。
保育者養成課程における紙芝居や絵 本への関心を高める実践報告(1)— 保育・子育て研究所の取り組みから —	共同	2024年5月	日本保育学会、 第78回大会長野 県立大学	ワークショップ型の学びを通して、保育者の視点のみ ならず子どもの視点を自分ごととして実感し、そこから 保育者として必要な技術・態度の気づきを学生が得 ていると示唆された。自由記述のテキストマイニング と考察部分を担当。坪井葉子・長島万里子・柳井郁 子
保育者養成課程における紙芝居や絵 本への関心を高めるための実践報告 (2)—アンケート調査の分析から—	共同	2024年5月	日本保育学会、 第78回大会長野 県立大学	S 短期大学の1・2年生の紙芝居体験に関するアン ケート調査結果を分析し考察した。学生は紙芝居を仲 間と共に見る経験をすることにより、仲間との間に共 感やコミュニケーションを生み出すという紙芝居の特 性と意義をイメージとして認識するにとどまらず、実感 をもって理解していること等が明らかにされた。自由 記述のテキストマイニングと考察部分を担当。柳井郁 子・長島万里子・坪井葉子

(報告書)				
私学高等教育研究叢書『日韓大学国際化と留学生政策の展開』	共著	2014年 10月	日本私立大学協会附置私学高等教育研究所	高等教育の国際化について、日本と韓国を比較し、特に私学の実態に迫ることを目的に行われた調査研究をまとめた報告書。本人担当部分である第4章「韓国の留学生受入れ・送り出し政策」では、2013年までの韓国における留学生受入れ・送り出し数と政策を整理し、少子化や留学生数の伸び悩みへの韓国政府の対応から日本への示唆を示した。
(その他)				
1回でわかる！保育士過去問題集16年度版	共著	2016年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の平成28年zenki、26年、25年度の3か年分を解説したものである。担当した発達心理学、精神保健及び保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。平成27年度保育の心理学27-33頁、平成26年度保育の心理学77-83頁、平成25年度保育の心理学132-139頁
保育士一問一答問題集16年度版	共著	2016年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では16年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。第6章保育の心理学177-210頁
これだけ覚える！保育士重要項目17年度版	共著	2016年12月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを16年の試験内容に関連した事項を中心にとりあげた。第1章保育の心理学7-48頁
1回でわかる！保育士過去問題集17年度版	共著	2017年2月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の平成28年度前後期試験、27年度試験の3回分を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。平成28年後期保育の心理学1-7頁、平成28年度前期保育の心理学53-58頁、平成27年度保育の心理学127-133頁
保育士一問一答問題集17年度版	共著	2017年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では17年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。第1章保育の心理学11-44頁
これだけ覚える！保育士重要項目18年度版	共著	2017年12月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを2018年の試験内容に関連した事項を中心にとりあげた。第1章保育の心理学7-48頁
1回でわかる！保育士過去問題集18年度版	共著	2018年2月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集18年度版	共著	2018年12月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では2018年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。第1章保育の心理学11-44頁
これだけ覚える！保育士重要項目19年度版	共著	2019年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
1回でわかる！保育士過去問題集19年度版	共著	2019年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集19年度版	共著	2019年12月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆

これだけ覚える！保育士重要項目20年度版	共著	2020年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
1回でわかる！保育士過去問題集20年度版	共著	2020年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集20年度版	共著	2020年12月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
これだけ覚える！保育士重要項目21年度版	共著	2021年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
1回でわかる！保育士過去問題集21年度版	共著	2021年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集21年度版	共著	2021年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
これだけ覚える！保育士重要項目22年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
1回でわかる！保育士過去問題集22年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集22年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士試験完全予想模試 '22年版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士一問一答問題集23年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
これだけ覚える！保育士重要項目23年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士試験完全予想模試 '23年版	共著	2023年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士一問一答問題集24年度版	共著	2024年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
これだけ覚える！保育士重要項目24年度版	共著	2024年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士試験完全予想模試 '24年版	共著	2024年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士一問一答問題集25年度版	共著	2025年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆

(講演等)				
韓国の医学教育における メディカル スクール導入について	共同	2016年 12月	大阪大学大学院 医学系研究科 医療経済・経営学 寄付講座 東京研 究会	韓国におけるメディカルスクールは国際競争力のある 医師を養成するために米国式の形態を取り入れたも のである。韓国の医師養成課程における3類型(MS 型/MC型/並行型)別の効率性について、包絡線分析 (DEA)を用いて明らかにした。その結果MC型のほう が効率性のよい教育研究を推進していることが分 かったが、全国的にMS型に戻る流れとなっていること などの現状の分析と、日本への示唆を示した。長島 万里子・長島弥史郎。
新学習指導要領における小学校1年 生の学習内容からみた幼小接続につ いて	単独	2019年 8月	川崎市幼稚園協 会主催幼稚園免 許状更新講習	平成29年3月、幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂さ れ、令和2年には小学校学習指導要領も全面実施に なった。就学前の教育・保育機関が一元化されつつ あると同時になめらかな幼児教育(保育所・幼稚園・ 認定こども園)と初等教育(小学校)への接続が目指 されている。講習講師として政策・制度、小1プロブレ ム、スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムな どの用語の説明、実際の小学1年生の生活の様子の紹 介などを行った。
新学習指導要領における小学校1年 生の学習内容からみた保幼小接続に ついて	単独	2019年 9月、 11月	一般社団法人 キッズライフラボ 主催保育士キャリ アアップ研修	平成29年3月、幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂さ れ、令和2年には小学校学習指導要領も全面実施に なった。就学前の教育・保育機関が一元化されつつ あると同時になめらかな幼児教育(保育所・幼稚園・ 認定こども園)と初等教育(小学校)への接続が目指 されている。講習講師として政策・制度、小1プロブレ ム、スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムな どの用語の説明、実際の小学1年生の生活の様子の紹 介などを行った。
短期大学における保育者養成の特徴 と課題 一四年制大学との比較一	単独	2020年 2月	短期大学コンソー シアム九州 FD/SD研修会及 び九州私立短期 大学協会幼児教 育・保育研究会	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政 策学センター(Cedep)が実施した「保育者養成に関す るアンケート」の調査結果を分析し、短期大学におけ る保育者養成の特徴、短期大学における保育者養成 の課題について四年制大学と比較し検討した。今後 の短期大学における保育者養成の教育内容、方法に ついて議論する際に活用しうるデータを報告した。
保育者養成系高等教育の現状と課 題	単独	2020年 10月	創価大学教育学 部FD研究会	世界的に就学前教育・保育の重要性が認知され、保 育者(幼稚園教諭・保育士)養成の在り方が注目され るなか、日本における保育者養成系高等教育機関の 歴史、現状と課題を整理し報告した。

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 岡本 かおり

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
やさしく学ぶ発達心理学 第2版	共著	2020年4月	ナカニシヤ出版 (185ページ)	ジェームズ・J・ヘックマンやOECDによる報告を主に取り上げて、社会情動的スキルの基礎的概要を記した。また、コラムでは、子どもの心と繋がる関わりについて、信頼関係の概念を用いて記した。(Ⅱ部1章 社会情動的発達、コラム3 子どもの心と繋がる関わりとは？、p21-29) (浜崎隆司・田村隆宏・湯地宏樹 編者、浜崎隆司・田村隆宏・湯地宏樹、岡本かおり、他11名分担執筆)
新・子ども理解と援助ーその理論と方法ー	共著	2021年9月	教育情報出版 (168ページ)	「パーテン」による理論を用いて子どもの遊びの特徴、「自己制御」による理論を用いて友達との関わりでみられる子どもの特徴について紹介した。さらに、信頼できる仲間や「協同性」を育む集団づくりにおいて保育者による援助の視点を概説した。(第4章 子ども相互の関わりと、関係づくりー「自分の世界」から「友だちとの世界」へー、pp43-52) (入江慶太(編)、入江慶太・大塚紫乃・前田和代・岡本かおり、他9名分担執筆)
子どもと社会の未来を拓くー保育内容ー健康	共著	2022年3月	青踏社 (204ページ)	健康における心の側面について、「社会情動的スキル」や「愛着」、「情緒の安定」、「信頼関係」、「古典的条件付け」、「道具的条件付け」を紹介し、概説した。(第3章 3 心の発達、pp39-46) (高橋弥生・臼井達矢(編)、高橋弥生・臼井達矢・石濱加奈子・岡本かおり・山本明美、他14名分担執筆)
乳幼児の言葉が生まれ・育っていくために 保育内容「言葉」	共著	2024年3月	アイ・ケイ コーポ レーション (108ページ)	低年齢期(1歳以上3歳未満児)のことばの発達、及び低年齢児保育における領域「言葉」の援助について概説した。(第5章 低年齢期(1歳以上3歳未満児)のことばの発達pp28-33、低年齢児保育における領域「言葉」の援助 pp34-39) (河合優子(監)、並木真理子・桐川敦子(編)、岡本かおり・尾根秀樹・小林由香・篠沢薫、他4名分担執筆)
(保育士資格試験テキスト・問題集)				
保育士過去問題集' 15年版	共著	2015年1月	成美堂出版 (185ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。(p50-52、102-105、152-154、同問題集' 14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分担執筆

保育士重要項目' 15年版	共著	2015年1月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集' 14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ' 15年版	共著	2015年3月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集' 14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士科目別問題集' 15年版	共著	2015年3月	成美堂出版 (190ページ)	保育実習理論(p147-190、〈解答・解説編>21-26)の「保育所保育指針・その他法令等」を担当。(同問題集' 14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他5名分 担執筆
保育士入門テキスト' 16年版	共著	2015年12月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士重要項目 ' 16年版	共著	2015年12月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集' 15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ' 16年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集' 15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士過去問題集 ' 16年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (160ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。(p48-50、100-103、152-155、同問題集' 15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士科目別問題集' 16年版	共著	2016年2月	成美堂出版 (190ページ)	保育実習理論(p144-190、解答・解説編p22-27の内「保育所保育指針・その他法令等」を担当。(同問題集' 15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他5名分 担執筆
保育士入門テキスト' 17年版	共著	2016年11月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集' 16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆

保育士重要項目 ’ 17年版	共著	2016年12月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集’ 16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 17年版	共著	2017年1月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集’ 16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士過去問題集 ’ 17年版	共著	2017年2月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育原理」「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。(p7-12、49-52、59-64、97-106、148-157、201-203、同問題集’ 16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士試験完全予想模試 ’ 17年版	共著	2017年2月	成美堂出版 (100ページ)	「保育原理(第1回p14-31、第2回p14-28、〈解答・解説〉第1回p10-15、第2回p60-64)」を担当。(同問題集’ 16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士試験問題集 ’ 17年版	共著	2017年3月	成美堂出版 (262ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p244-245、252-253、256-262、同問題集’ 16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士入門テキスト’ 18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集’ 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士重要項目 ’ 18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集’ 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集’ 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ’ 18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (262ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集’ 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆

保育士過去問題集 ’ 18年版	共著	2018年3月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。 (p48-52、100-102、151-154、199-202、同問題集’ 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士入門テキスト’ 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。 (p192-195、216-219、同問題集’ 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻’ 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。 (p266-285、同問題集’ 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士重要項目 ’ 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集’ 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集’ 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ’ 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (262ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集’ 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士過去問題集 ’ 19年版	共著	2019年3月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当。(p46-48、95-98、148-150、199-200、同問題集’ 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士入門テキスト’ 20年版	共著	2019年11月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。 (p192-195、216-219、同問題集’ 19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻’ 20年版	共著	2019年12月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。 (p266-285、同問題集’ 19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆

保育士重要項目 ’ 20年版	共著	2019年12月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集’19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 20年版	共著	2019年12月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集’19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ’ 20年版	共著	2019年12月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集’19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士過去問題集 ’ 20年版	共著	2020年3月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当(p49-50、99-100、147-148、195-198、同問題集’19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士入門テキスト’ 21年版	共著	2020年9月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集’20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻’ 21年版	共著	2020年9月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p266-285、同問題集’20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士重要項目 ’ 21年版	共著	2020年10月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集’20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 21年版	共著	2020年10月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集’20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ’ 21年版	共著	2020年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集’20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆

保育士過去問題集 ’ 21年版	共著	2021年2月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当(p46-48、97-98、147-148、194-196、同問題集’20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士入門テキスト’ 22年版	共著	2021年9月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集’21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻’ 22年版	共著	2021年9月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p266-285、同問題集’21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士重要項目 ’ 22年版	共著	2021年10月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集’21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 22年版	共著	2021年10月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集’21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ’ 22年版	共著	2021年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集’21年版の一部加筆修正を含む)・保育原理を担当(p38-68、同問題集’21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士過去問題集 ’ 22年版	共著	2021年10月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当(p49-51、98-100、149-150、199-200、同問題集’21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他7名分 担執筆
保育士入門テキスト’ 23年版	共著	2022年9月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-222、同問題集’22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻’ 23年版	共著	2022年9月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・保育所保育指針等」を担当。(p266-285、同問題集’22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆

保育士重要項目 ’ 23年版	共著	2022年10月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集’ 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 23年版	共著	2022年10月	成美堂出版 (352ページ)	保育実習理論(保育所保育指針等)を担当 (p336-349、同問題集’ 22年版の一部 加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ’ 23年版	共著	2022年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当 (p256-262、同問題集’ 22年版の一部加筆修正を含む)・保育原理を担当 (p38-68、同問題集’ 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士過去問題集 ’ 23年版	共著	2022年9月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当 (p47-49、100-102、151-153、200-202、同問題集’ 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士入門テキスト’ 24年版	共著	2023年9月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-222、同問題集’ 23年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻’ 24年版	共著	2023年9月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・保育所保育指針等」を担当。(p266-285、同問題集’ 23年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 24年版	共著	2023年9月	成美堂出版 (352ページ)	保育実習理論(保育所保育指針等)を担当 (p336-349、同問題集’ 23年版の一部 加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ’ 24年版	共著	2023年9月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当 (p256-262、同問題集’ 23年版の一部加筆修正を含む)・保育原理を担当 (p38-68、同問題集’ 23年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士過去問題集 ’ 24年版	共著	2023年10月	成美堂出版 (225ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当 (p47-49、116-118、165-167、217-219、同問題集’ 23年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆

スピード合格！保育士要点まとめ ’ 25年版	共著	2024年9月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針等)を担当(p296-303) 近喰晴子 監修, 岡本かおり, 他10名分担執筆
本試験型保育士問題集 ’ 25年版	共著	2024年9月	成美堂出版 (263ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等), 保育原理を担当(p38-68, 256-262頁, 同問題集’ 24年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修, 岡本かおり, 他8名分担執筆
保育士一問一答問題集 ’ 25年版	共著	2024年9月	成美堂出版 (352ページ)	保育実習理論(保育所保育指針等)を担当(p336-349, 同問題集’ 24年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修, 岡本かおり, 他10名分担執筆
いちばんわかりやすい保育士合格テキスト下巻’ 25年版	共著	2024年9月	成美堂出版 (384ページ)	保育実習理論・保育所保育指針等を担当(p266-285頁, 同問題集’ 24年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修, 岡本かおり, 他6名分担執筆
保育士入門テキスト’ 25年版	共著	2024年9月	成美堂出版 (224ページ)	保育実習理論・指針等, 言語を担当(p192-195, 216-222, 同問題集’ 24年版の一部加筆修正を含む)近喰晴子 監修, 岡本かおり, 他9名分担執筆

(論文)				
保育者のとらえる子どもとの信頼感	単著	2015年3月	学習開発研究第8号 (10ページ)	保育者の視点から子どもとの信頼感をどのように捉えているかに着目し、保育のあり方について検討した。幼稚園教諭10名と保育士10名へのインタビューを分析した結果、子どもの言葉や行為に変化がみられることを保育者が実感していることがわかった。また、保育者は信頼関係を築くために、子どもに対して「受容・共感」しながら子どもへの多様な関わりを試みていることがわかった。さらに、この関わり背景には、子どもや子どもの可能性を信じて全てを受け止める保育者の姿勢が窺え、このような保育のあり方は日本の特徴であることが示唆された。
保育者養成校初学者における子ども理解-詩的表現の試み-	共著	2018年3月	洗足論叢第46号 (12ページ)	保育者養成校初学者を対象に、幼稚園半日体験での振り返りの保育記録を詩的表現という形式で実施することを試みた。結果、子どもの内面やその状況をよりよく表すことを見出すことができた。詩的表現による文章表現が、子どもを全体的存在として理解することを可能にすることが窺えた。保育者の保育実践力として重要な要素である子ども理解が、詩的に表現することで学び得ることを考察した。(金充貞・岡本かおり・桃枝智子・柳井郁子、共同研究につき抽出不可、『はじめに』に当たる部分を中心に担当)
保育者の子どもとの信頼関係構築に関する意識の検討-信頼関係構築のための子どもとの関わり方、及び信頼関係構築を意識させる状況や子どもの姿の検証-	単著	2018年9月	応用教育心理学研究 第35巻第1号 (12ページ)	保育者と子どもの信頼関係について、保育者自身の意識に着目し、保育者の行為や、信頼感を実感している時の子どもの姿を通して検討した。「保育者の子どもへの関わり行動尺度」を用いて検討した結果、「親和的関わり」因子と「把握的関わり」因子の2つの因子による子どもへの関わりが行われていた。「親和的関わり」は、多くの保育者が実践している関わりである一方、子どもの内面を理解して関わる「把握的関わり」については、保育所の初任者の得点が低いことが明らかになった。そして、過半数以上の保育者は、保育者に関わろうとする子どもの姿によって、保育者に対する子どもからの信頼感を実感していることが明らかにされた。
親子の信頼感尺度作成の試み—青年期の子が信頼する親のイメージ—	共著	2020年3月	家庭教育研究 25号 (14ページ)	青年期の子の親に対する信頼感を一体的に測れる尺度(親子の信頼感尺度)を作成して信頼性と妥当性を検証した上で、尺度の構成概念の検討より、信頼できる親のイメージを見出した。結果、青年期の子の信頼できる親のイメージとして「子どもとしての自分を理解して受け入れ尊重し、自身が向上心を持ちつつ確固たる信念をもって生きている、尊敬に値する」人物を見出した。そして、親子関係の再構築を目指した尺度の活用について提言した。(吉田美奈・浜崎隆司・岡本かおり)

信頼関係構築による保育の質の変化- 保育者が捉える子ども・保育者・保護者の姿 -	単著	2021年8月	応用教育心理学研究 第38巻第1号	幼稚園教諭と保育士を対象にインタビューを行った結果、特に、《情緒的安定-自己表出態度》の言及が多く、子どもの心の安定と自分を出せることを関連付けて捉えていた。また、保育者の変化における【自己充実感】、【向上的実践態度】に関する言及が多かった。保育者自身の内面や保育実践において肯定的な影響をもたらす子どもとの信頼関係構築は、保育の専門性を高める上で重要な保育者の実感になりうることを示唆された。
(学会発表)				
校外授業を通した保育内容の総合的理解	共	2015年5月	日本保育学会 第68回大会	2年制の保育者養成校で保育内容の授業担当者による実践報告で、保育内容はそれぞれの領域の「ねらい」をもちながら、領域別に指導されるものではなく、遊びを通して総合的に展開されるものであることを学生が理解できることを目的とした2年間の取り組みである。校外授業により、1つの活動には、保育内容の観点が複合的に含まれていることを体験的に理解するきっかけとすることができたように捉えられた。また、保育の実践を想定し、実際の素材を共有しながらの学習は、具体的な学びとして学生の意欲を引き出し、より深く、また広く学習成果を生み出すことを提示した。
保育者のとらえる子どもからの信頼感を築く行動-子どもの年齢と保育経験による比較-	共	2015年8月	日本学校心理士会 2015年度大会	保育者の視点をもとに信頼感をとらえ、保育者に尋ねることにより、信頼関係を築くために保育者がどのような子どもへの関わりをしているのか、保育者の意識を明らかにした。また、子どもの年齢や保育歴によって信頼関係を築くための関わり方に対する意識の違いはあるのかについて着目した。結果、3歳以上の子どもにおいて、表面的な関わりである「外的接近」よりも、子どもの心に寄り添い内面まで理解して関わろうとする「内的接近」に対する保育者の意識が高いことが明らかにされた。熟年保育者は若年保育者よりも子どもに関わる意識が高いことが明らかにされた。
保育者のとらえる子どもとの信頼感-子どもと保育の変化-	単	2015年12月	日本応用教育心理学会 第30回研究大会	保育者が子どもと信頼関係を築くことにより、どのような変化があるのかを明らかにした。結果、子どもの変化におけるカテゴリー「心」と「獲得」が出現し、信頼関係によって築かれた子どもの心の状態と何かができるようになるという獲得が関連していることがわかった。また、保育の変化におけるキーワード「保育者」「子ども」「保育実践」「保護者」「全体」は、保育者の肯定的感情を示すものであった。子どもとの信頼関係をもとにした保育を展開できるということが、保育職に対する肯定感に繋がり、仕事を続けられる要因となることが示唆された。

保育者のとらえる子どもとの信頼感-幼稚園教諭の保育歴による比較-	共	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	子どもとの信頼感を保育者の視点でとらえ、保育者が感じている信頼感をみる。保育者の語りからみられる「気付き」に着目し、保育者の意識を明らかにすると共に保育歴による比較検討を行った。保育者の気付きの多くは、自分自身を振り返った反省や新たな見方を獲得するもので、これが信頼関係を築くための子どもへの多様な関わりを可能にすることを示唆した。また、経験は保育者にとっての確信した学びとなり(経験年数が関与する)、子どもと信頼関係を築けた感覚が保育者としての自信や喜びに繋がることを示唆した。さらに、困った時に、的確な助言をもらい学べる環境は保育者としての専門的な見方をもって成長することを可能にすることを指摘した。
子どもとの信頼感-出会いから数年後の子どもの姿-	単	2016年11月	日本応用教育心理学会 第31回研究大会	幼稚園教諭と小学校教諭の55名を対象に、子どもとの出会いから数年後に現れる子どもとの信頼感に関して語られたインタビューの結果をまとめた。一部の教師・保育者は、担任を離れた後に子どもとの接触があり、そこから長期に渡る信頼感の可能性を感じる場合もあることが示唆された。保育/教育としての日々の実践が、すぐに結果として実感できない場合もあることがわかった。しかし、数年後に、教師/保育者の前で現す子どもの姿は、当時の教師・保育者の存在が子どもの心に確かに残っていることを示す。教師・保育者の日々の姿から、子どもが確かに感じとっているものがあることが窺えた。
児童文化教材作成と指導案立案をつなぐ授業展開の課題-「保育内容・言葉」の授業における学生の意識調査から-	共	2016年11月	日本乳乳幼児教育学会 第26回大会	「保育内容・言葉」の授業において、児童文化教材作成と指導案立案を行い、学生の意識調査を実施した。結果、教材の作成過程において子どもへの意識が高まっているにも関わらず、教材の出来不出来など技術的な側面や「言葉」という科目としての課題によってせっかく持っていた子どもへの思いが繋がらないことが課題としてあげられた。子どもに伝えたいことを教材に具現化しながら、それを随時、指導案に反映させていくことで、指導案のねらいや内容につながりやすい過程を設定できることが考えられた。また、教材を作りながら保育手順を指導案に書き込んでいくことにより、子どもへの意識や教材の持つ楽しさへの意識、さらに具体的な立案への意識が高まることが期待された。

保育者がとらえる子どもとの信頼感-保育歴による子どもの姿-	単	2016年12月	日本学校心理士会 2016年度大会	保育者が感じる信頼関係を築けた子どもの姿について、保育歴による比較検討を行った。結果、全ての保育者は、以前とは異なる子どもの言葉や態度から信頼関係を築けたことを感じていることが窺えた。特に、想いや考えを保育者に伝える子どもの姿は明確な子どもの変化としてとらえられていることが明らかにされた。一方、保育者からの子どものへの働きかけに対して応答的に関わる子どもの姿については、若年保育者よりも熟年保育者の方が意識が高いことが明らかにされた。熟年保育者は、自身の関わりからみられる子どもの姿についても、より敏感にとらえていることが示唆された。
保育者がとらえる子どもとの信頼感-保育士における検討-	共	2017年5月	日本保育学会 第70回大会	保育士が感じている信頼感を子どもの姿から明らかにした結果、子どもの年齢により異なる姿がみられることが明らかにされた。主に0歳から4歳では、信頼関係を築く前の子どもの姿について、「泣く/保育者を拒否する」子どもの態度が多く見られ、5歳-6歳では友達関係や活動における子どもの態度に関する内容が多かった。3歳以上児では、自分で出来ることが増える一方で自分の思いの全ては通らないことの他、友達や家庭のことも関係して子どもの内面がより複雑に現れた姿であることが窺えた。
Trust Relationships Between Elementary Students and Teachers	単	2018年7月	40th International School Psychology Association Conference 'Promoting Resilience for Children Toward Life-long Happiness'	This study is going to catch a feeling of trust between elementary students and teachers. It shows how a elementary school teacher feels trust. I carried out the interview investigation using the semi structured interview for 40 female elementary school teachers who had experience in first grade elementary school studies and examined the characteristics of the situation when elementary school teachers gained confidence with their children.
親子の信頼関係尺度作成の試みー青年期の子が信頼する親のイメージー	共	2019年8月	日本家庭教育学会 第34回大会	青年期の子の親に対する信頼感を測る尺度（親子の信頼感尺度）を作成して信頼性と妥当性を検証し、尺度の構成概念の検討より、信頼できる親のイメージを見出した。結果、信頼性および妥当性は、おおむね許容範囲であることが示された。また、青年期の子にとって信頼できる親とは、「子どもとしての自分を理解して受け入れ尊重し、自身が向上心を持ちつつ確固たる信念をもって生きている、尊敬に値する」人物であると考えられた。

保育者を目指す学生の食習慣に関する意識にみる課題	共	2020年5月	日本保育学会 第73回大会	保育現場における協働が保護者の食習慣の意識改革につながる事例学習を行い、乳幼児期の望ましい食習慣の指導及び保護者支援につながる実践力を育てる授業展開のあり方について検討した。授業を通して、自身のありたい保育者の姿や食育の知識や実践力の必要性をより現実的に感じ、さらには、食育に対する関心や疑問に繋がる学生たちの記述がみられ、今後の実践力に繋がると考えられる学生の学び続ける姿勢が見出された。
保育学生のとらえる子どもとの信頼感 ー 保育者養成校における 2 年間の変化 ー	単	2023年12月	日本応用教育心理学会 第38回研究大会	保育学生のとらえる子どもとの信頼感のと特徴について、保育学生は、保育者と同様に子どもの姿から信頼関係を感じているものの、信頼関係を築いた子どもの姿が担任の先生に見せる子どもの姿と同じであることに言及していたことを示した。また、保育学生は、信頼関係を感じ取りながら多様で適切な子どもへの関わりを獲得すること、信頼感を形成する要因は、母親や園時代の担任の先生から短大での授業や実習経験、就職先の研修経験に移行していくことを示唆した。
(社会・教育的活動)				
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2016年4月		「子どもとの信頼関係」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2016年12月		「外発的動機づけから内発的動機づけへ」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2017年10月		「子どもの反抗期」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2018年3月		「新しい環境」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2018年12月		「子育てに『これでよい』という感覚を」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2019年5月		「子どもの自己決定」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2020年1月		「心地よい距離感」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2020年5月		「心を育む」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2020年12月		「子育てに『時々』という感覚を」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2021年5月		「『助けて』と言えるように」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2021年9月		「子どもの話を聞く先生」と題し、心理学の視点から論じた。

日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2022年1月		「善いことは言葉にして伝える」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2022年8月		「『何をやっても無駄』思わせないために」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2023年3月		「ありがたいの気持ち」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2023年8月		「素直な気持ちを子どもに伝える」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2024年4月		「自分を褒める」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2024年11月		「親の気持ちと子どもへの言葉」と題し、心理学の視点から論じた。
日本海新聞「子どもの周辺」記事 執筆		2025年4月		「『開放の窓』を広げよう」と題し、心理学の視点から論じた。
都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業 講師		2024年4月～		テーマ「人間関係、ソーシャルスキルトレーニング、キャリア教育」

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 高橋 優子

著書・学術論文などの名称	単 著 ・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
これからの時代の保育者養成・実習ガイド —学生・養成校・実習園がともに学ぶ	共著	2020年12月	中央法規出版	教育実習・保育実習(保育所)(施設)の3つの実習の内容が網羅されたテキストである。その中の第2章「オリエンテーション」、第5章「部分実習・責任実習」について担当した。(p36.37,120,121,128)
新訂 演習「保育内容総論」	共著	2019年4月	建帛社	保育内容総論のテキストであり、保育内容を領域ごとから捉えて章構成を行うのではなく、遊びや子どもの生活、行事等の視点から実態に即した形で学ぶ内容となっている。その中の第8章「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育料における保育内容の捉え方」を担当した。具体的には、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿及びに、乳児保育の3つの視点、5領域について解説した。(pp72～81)
演習「保育内容 人間関係」	共著	2019年4月	建帛社	第1章「現代の乳幼児を取り巻く人間関係」について、「親子やきょうだい、地域における人間関係の変化」として家族や地域社会の変化に伴う子どもの人間関係の変化について解説するとともに、「現代の乳幼児を取り巻く人間関係の特徴と課題」について、貧困や虐待、情報化社会等を取り上げ、解説した。(pp1～16)
やさしい乳児保育	共著	2019年3月	青踏社	第8章「保育の計画」において、乳児保育における計画の意味や重要性についてまとめ、乳児保育における計画について解説を行った。
生活事例から始める保育原理	共著	2019年3月	青踏社	第3章「子ども観・保育観」における日本の保育の歴史に関する点をまとめた。特に「日本の保育の発展を支えた人物」の東基吉、和田實について説明を行った。(pp35～39)
5『Workで学ぶ保育原理』	共著	2015年3月	わかば社 (142ページ)	保育原理のテキストであり、保育士としてより良い実践を考える力を養うために、テキストには論述式ワークを設け、学生が主体的に学ぶことができるよう工夫を行っている。「Ⅲ保育実践の基本と課題から学ぶ」と題する章の「Unit7様々な保育内容とその方法」を執筆している。3つの保育実践を例に挙げ、それぞれの保育現場で何を大切にしているかによって保育内容とその方法が違うことを解説した。(pp.51～58)佐伯一弥、金瑛珠、鈴木彬子、高橋優子
(科学研究費助成事業)				
保育の質をもたらす組織の質及び自律型組織の成長モデルに関する研究 基盤研究(C)	研究 分担者	2021年採択 (2021年度 ～ 2023年度)	日本学術振興会	保育の質を実現する「園組織の質」に焦点を当て、保育現場の組織の質を可視化し、園組織の質を示す指標をモデル化することを目指す。(井上真理子、坂田哲人、松井剛太、田澤里喜、松山洋平、高橋優子、伊藤路香)
保育者の成長プロセスに応じた専門性向上の機会のあり方に関する研究 基盤研究(C)	研究 分担者	2020年採択 (2020年度 ～ 2022年度)	日本学術振興会	保育者の成長だけでなく、その園における保育者の成長モデルについて着目し、保育者の成長に影響を与える経験や組織的要因を分析し、組織の中で保育者の専門性が向上するプロセスのモデル化を目指す。(坂田哲人、井上真理子、高橋優子)

保育者の成長志向性と組織要因との関連における保育者の成長モデルの構築に関する研究 基盤研究(C)	研究 分担者	2016年採択 2019年度	日本学術振興会	保育者の成長だけでなく、その園における保育者の成長モデルについて着目し、保育者の成長に影響を与える経験や組織的要因を保育者の語りから分析し、明らかにする。(坂田哲人、井上真理子、高橋優子)
(論文)				
研究ノート「「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討-「実習日誌」及び「保育者ための文章表現授業」アンケートからの分析-」(査読付き)	共著	2021年2月	洗足論叢 第49号 p.81-95	保育者養成校、短期大学1年生における「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育むための効果的な授業方法や内容を検討することを目的として、学生にアンケート調査を行った。その結果、学生の実習日誌記述に対する困難感の把握や保育記述力を高める授業内容・方法への一定の示唆を得ることができた。井上真理子、向笠京子、長島万里子、高橋優子、伊藤路香、上田よう子(共同研究により抽出不可、主に調査結果について担当した)(pp.81～95)
「保育内容総論」における実践的な学びのプロセス-学内施設の子どもたちを招く「夏祭り」の遊び場づくりを通して-	単著	平成30年3月	東京家政大学 研究紀要 第58集(1) (9ページ)	「保育内容総論」の実践的な授業において、どのように学びを獲得したのか、学生へのインタビューから明らかにすると共に「保育内容総論」における実践的な学びの意義について考察を行った。その結果、実践的な学びは保育内容の総合性を体験する場になると共に、学生が主体的に学ぶ意欲を育む契機となっていたことが明らかになった。しかし、保育内容の総合性の体験の自覚化に至るには更なる授業内容の工夫等の課題が示唆された。(pp.51～59)
実践の場における保育理念の共有 ～A園の保育者の語りを手掛かりとして～	単著	2016年6月	保育の実践と研究 21(1)(10ページ)	保育現場において保育者間で保育理念を共有することは、保育の質の向上のためにも重要なことである。しかし、実際の現場で保育理念を共有し保育実践を行うことは容易なことではない。 そこで、そこでA園の保育者のインタビューを基に保育実践の場で何をきっかけとして、保育理念の共有が行われているのか検討を行った。結果、園内研修などの話し合いの場だけではなく、実践の場においても保育者がお互いの保育実践を見合ったり、共に実践することをきっかけとして保育理念が共有されることを明らかにした。 (pp.54～63)
保育理念の共有のプロセス ～保育者の語りを手がかりとして～ (修士論文)	単著	2015年3月	東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科 家政学修士号請求論文 (117ページ)	保育現場において園の保育理念を共有することの重要性は明らかなが、実際には困難な現状がある。保育理念の共有化のプロセスは、個々の保育者が保育理念に対する理解を深めるプロセス、更にそれを共有するプロセスの2つの視点から検討が可能であるが、本論文では個々の保育者が保育理念に対する理解を深めるプロセスから保育理念の共有化について明らかにした。

(報告書)				
園の保育理念に基づく保育実践の創造の特徴	共著	2017年7月	東京家政大学 生活科学研究所研究報告 第40集 (2ページ)	保育者が園の保育理念をどのように理解し、保育実践を創造しているのか保育者、園長、主任保育士のインタビューをもとに検討を行った。その結果、保育理念に基づく保育実践を創造する保育者は、保育理念と具体的な子どものエピソードをつなげて語ることを通して保育理念の理解が深まり、園長や主任保育士とも理念と実践の往復的な語りを基に共有していることが明らかとなった。一方で、保育理念の理解と保育実践の間にある困難さとして振り返りが十分でない、保育理念と保育実践をつなげた語りに至らないなど課題が示唆された。 (pp: 79～80) 戸田雅美、高橋優子
「保育実習(保育所)事後指導」報告	共著	2010年3月	千葉明德短期大学 研究紀要 第30号 (15ページ)	本報告では、保育所実習の巡回指導を担当した学生で構成されたグループで行なった二日間の保育実習(保育所)の事後指導における学生の様子を報告した。筆者らが担当したグループで特筆すべきは、本学の専任教員と本学学生支援アシスタントと共同で学生の実習事後指導に当たったことであり、本報告では保育実習の事後指導におけるそれぞれの異なった視点からの報告という形を取りながら議論を進め、学生の学びの姿を検証している。(pp.36～40) 小久保圭一郎、高橋優子
授業アシスタントから見た「現代社会論」(2)～授業連携によって創り出された新たな授業～	単著	2009年3月	千葉明德短期大学 研究紀要 第29号 (15ページ)	平成20年(2008年)発行の「授業アシスタントから見た現代社会論」の続編である。一般教養科目である「現代社会論」の授業内容の報告をうと共に、教員の連携に着目して、9コース、9名の専門性が異なる教員が1つの方向性に向かい、緩やかに連携を取り合いながら、発展的な授業運営を可能にしている要因を明らかにした。(pp.73～87)
授業アシスタントから見た「現代社会論」～授業連携によって創り出された新たな授業～	単著	2008年3月	千葉明德短期大学 研究紀要 第28号 (11ページ)	「現代社会論」は教養基礎科目の一つであり、複数のコース(各論)を設けている。ゼミ形式で学ぶばかりではなく、学年全体による学び(総論)も取り入れ、発展的な授業展開を試みている。その授業内容を紹介すると共に、コース(各論)がバラバラに存在するのではなく、相互に関連し合っていること、学生もその関連性を感じ取っていることを学生のコメントから明らかにした。(pp.65～75)
学生理解に関する私の思考に関する一考察 ～2004年度保育者論に携わって～	単著	2006年11月	千葉明德短期大学 研究紀要 第26号 (16ページ)	「保育者論」の授業における授業内容(教員の意図)と学生の理解のズレに着目し、授業アシスタントという教員でもなく学生でもない立場である筆者の視点から、教員の授業の意図と学生の授業内容に対する理解のズレがなぜ起こったのかについて明らかにした。更にはその学生を見る筆者自身の理解の枠組みについても述べた。(pp.85～100)

(学会発表：口頭発表)				
保育理念の理解のプロセスⅢ ～新任保育者の語りから2～	単独	2018年5月	日本保育学会 第71回大会	本研究の目的は、新任としてA園に勤務した保育者が7年間の経験を経てどのように園の保育理念を理解し、実践に埋め込んでいったのかについて検討を行い、その過程について明らかにした。
保育理念の理解のプロセスⅠ ～新任保育者の語りから～	単独	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	本研究の目的は、新任のB保育者がどのように園の保育理念を理解し、実践しようとしているのかを明らかにすることである。B保育者はA園の保育理念に共感していたにも関わらず、保育を実践しようとする際に葛藤が生じた。B保育者は、同僚に話を聞き、葛藤を抱えつつも、保育行為を変化させたことで、新たな子どもの姿に出会い、実感が伴い保育理念の理解が深まったと考えられる。つまり、保育理念の理解は、言葉上の理解にとどまらず、同僚の話や子どもの姿など保育実践を通して行われることが明らかとなった
(学会発表：ポスター発表)				
就学前施設と養成校の協同による保育者養成	共同	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会	養成の初期段階に保育現場を見学し、保育環境に込められた保育者の意図や配慮に気づくことをねらいとして実施していた見学実習が、2020年度は感染症の流行により、現場を訪問することができなかった。現場の実際の保育環境を伝える方法として、幼稚園園長の協力のもと、幼稚園と養成校の協同によるオンラインでの見学実習を行った。本研究では、そのオンラインによる見学実習の学生への効果と、就学前施設と養成校の協同による新たな授業展開の可能性について検討した。
保育者の人材育成・確保に影響を与える組織要因の分析	共同	2019年5月	日本保育学会 第72回大会	「保育所等におけるキャリアアップと人材育成に関する調査」の全国調査のデータをもとに、保育現場の人材育成および人材確保の実態がどのように変容しているのか、組織要因との関連、管理職のマネジメントの実態が与える影響について分析を行った。結果、働き続けるには、園の方針の一貫性と自己の保育観の一致がその大きな要因となっていることが示唆された。井上真理子、坂田哲人、今井豊彦、高橋優子
保育士の専門性向上をもたらす『学びの機会』の捉え方・あり方にかんする研究	共同	2019年5月	日本保育学会 第72回大会	「保育所等におけるキャリアアップと人材育成に関する調査」の全国調査のデータをもとに、保育者の専門性向上について、園内で保育者がどのような機会を得て、効果をどのように認識しているのか明らかにし、本来的に求められる専門性向上の取り組みについて考察を行った。保育者の経験年数に応じて変化する専門性開発の機会を、それぞれの求めに合わせて提供していくことが、必要であることが示唆された。坂田哲人、井上真理子、今井豊彦、高橋優子

保育理念の理解のプロセスⅡ ～他園経験者の語りから～	単独	2017年5月	日本保育学会 第70回大会	本研究では、他園を経験し、A園に転職したJ保育者がどのようなプロセスを経て園の保育理念を理解し、保育を実践しようとしているのかを明らかにした。園の考え方に共感して入職したものの、実践する際に葛藤を抱えたJ保育者は、同僚の保育実践に巻き込まれることで、予想とは異なる子どもの姿に出会い、保育理念の理解を深め、結果的に保育行為も変化した。つまり、保育理念の理解は、前勤務園での経験が影響を与えること、話し合いだけではなく、同僚の保育行為に巻き込まれる等実践を通して行われることが明らかとなった。
短大における新たな保育者養成システムの可能性(2)	共同	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	本研究では、養成期間が短い短期大学が、より専門性の高い保育者を養成するために試みた「研修性制度」の取り組みについて、報告及びに今後のあり方や課題について考察を行った。研修生制度は、卒業後保育現場に勤務する卒業生が月に2回集まり、事例検討をベースとしたディスカッション、他園への見学その他、1年間の終了時には、個々の学びをレポートにまとめる。1年目は成果を残したが、2年目以降、エピソード記述が書けない等の課題が生じた。その課題をどう解決するか、検討を行った。由田新、金瑛珠、片川智子、高橋優子
(その他教育研究活動など)				
子ども・子育て支援推進調査研究事業(厚生労働省) 保育士のあり方に関する研究 研究報告書部分執筆、研究協力	共同	2016年3月	一般社団法人 全国保育士養成協議会 (276ページ)	保育士資格取得の2つの方法、すなわち指定保育士養成施設において取得する方法と、保育士試験に合格して取得する方法に関して多面的に比較検討を行うとともに、他の国家資格との共通性や相違点について検討を加え、今後の保育士養成課程及びに保育士試験の在り方を検討する素材を提供することを目的として行った調査研究に参加した。具体的には「保育試験実施方式及びに内容に関する検証」にて保育士養成校の学生の試験体験後のグループワークの分析、「教育原理」の試験内容に対する学生コメントの分析を行った。(pp.82～83)
(社会・教育的活動)				
埼玉県南部ブロック 保育実践研究協議会	講師	2024年1月	埼玉県私立幼稚園連合会	子どもと共に育つ保育者
こどもの園プラムハウス 園内研修	講師	2023年度～	社会福祉法人 上尾芙蓉会	園全体における共通認識の生成 (0～5歳児クラスの保育実践の質の向上) 共通テーマによる自主研究のサポート
認定子ども園 すこやか 園内研修	講師	2023年3月	社会福祉法人さがみ愛育会	保育教諭の資質・専門性の向上
埼玉県南部ブロック 保育実践研究協議会	講師	2023年1月	埼玉県私立幼稚園連合会	愛されて育つ子ども
世田谷区実践充実コーディネーター		2022年4月～	世田谷区	園の自己評価の取り組みを支持的・共同的な姿勢で支援する
川崎市幸区 保育ボランティア研修	講師	2021年10月	川崎市幸区役所	子どもの発達を知り子どもに合った保育を学ぶ
こどもの園プラムハウス 園内研修	講師	2018年度～	社会福祉法人 上尾芙蓉会	0～2歳児の保育実践の質の向上
千葉市子育て支援員研修事業【現任研修】	講師	2021年2月	千葉市	「地域とつながりながら子どもが育つ」
保育士等キャリアアップ研修 「幼児教育」	講師	2019年10.11月 2020年1月	HITOWAキッズライフ 株式会社	「幼児の発達に応じた保育内容」 「幼児教育の意義」

教 育 研 究 業 績 書				
2025年5月1日 氏名 伊藤 路香				
著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド	分担執筆	2020年12月	中央法規出版株式会社 3ページ	子ども主体の保育が展開できる保育者を養成するために、養成校での教育と保育現場での指導のあり方を共に考えることができる内容である。幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための実習に必要な手続きや心構え、準備を具体的に紹介するとともに、保育の魅力も存分に伝える内容となっている。(大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里樹編著、井上真理子・高橋優子・伊藤路香他) 第5章 部分実習・責任実習(P.133～135)
(論文・研究ノート)				
就学前施設における心理的安全性と組織の成長に関する研究―保育の質の向上を支える組織要因の分析―	共 著	2025年3月	乳幼児教育・保育者養成研究 第5号 依頼論文 17ページ	就学前施設における心理的安全性を保障するための組織要因を明らかにした。分析の結果、抽出された7つの概念は、保育者個人の実感や経験、同僚との関係性、組織の風土、管理職のリーダーシップなど、多岐にわたる要素と関係していた。保育の質の向上を実現するために心理的安全性を保障する組織は、画一的なアプローチによるマネジメントではなく、組織の成長段階や特性に応じた柔軟かつ探求的なアプローチが求められる。(共同研究につき抽出不可。研究協力園の保育者へのインタビュー等を担当) (pp:145-161) (井上真理子・坂田哲人・松井剛太・田澤里喜・松山洋平・伊藤路香・加藤翼)
保育学生が捉える子ども主体の保育とは	共 著	2025年2月	星美学園短期大学 研究論叢第57号 研究論文 16ページ	保育者役として模擬保育を実施した学生 4名に模擬保育と実習から得た学びを調査し、その特徴や関連性を明らかにした。その結果、学びの関連性として、模擬保育で得た学びを(1)実習全体に繋げている、(2)責任実習を行うクラスでは思うように繋がられない、(3)主活動やその他の部分実習を展開していくことのみに繋げているという3つのパターンが明らかになった。また、模擬保育から得た学びと実習から得た学びの視点が一貫していると考察した。(大井美緒・伊藤路香)(pp.1～16)
模擬保育から得た学びと幼稚園教育実習から得た学びの関係性(1)―保育者役の学生に焦点を当てて―	共 著	2023年2月	星美学園短期大学 研究論叢第55号 実践研究 10ページ	保育者役として模擬保育を実施した学生 4名に模擬保育と実習から得た学びを調査し、その特徴や関連性を明らかにした。その結果、学びの関連性として、模擬保育で得た学びを(1)実習全体に繋げている、(2)責任実習を行うクラスでは思うように繋がられない、(3)主活動やその他の部分実習を展開していくことのみに繋げているという3つのパターンが明らかになった。また、模擬保育から得た学びと実習から得た学びの視点が一貫していると考察した。(大井美緒・伊藤路香)(pp.16～40)

保育学生の主活動における導入に関する意識調査	共著	2021年2月	星美学園短期大学 研究論叢第53号 研究ノート 25ページ	保育学生がイメージする主活動の「導入」を調査し、養成校における「導入」の指導法を検討した。その結果、保育学生は「導入」の設定において(1)モチーフの一致を第一に考える、(2)「スムーズ」に行えそうなものを選択する、(3)「導入＝○○」という固定したイメージがあることが明らかになった。学生は「導入」の意味や重要性は理解していたものの、子ども主体の保育の実現のためには、学生の責任実習においても、実習園と保育者養成校との十分な連携を図って、指導をしていくことが課題である。(大井美緒・伊藤路香)(pp.83-93)
「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討 —「実習日誌」及び「保育者のための文章表現授業」アンケートからの分析—	共著	2021年2月	洗足論叢第49号 研究ノート 15ページ	短大保育者養成校1年生に保育記録について調査し、「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業内容の効果について検証した。その結果、学生が困難感を抱えている内容について、より丁寧に触れ定着度を測っていくこと、1回目(幼稚園)と2回目(保育所)の実習そのものや記述における視点の違いをより丁寧に扱うと共に、実習を経験後の個別の課題や保育者志望度などに合わせた相談の場を設けるなどが考えられた。(井上真理子、向笠京子、長島万里子、高橋優子、伊藤路香、上田よう子)(pp.81～95)
「特別な配慮が必要な子ども」の人間関係の構築に関わる保育者の援助 一人への愛着をもつA子の事例の分析を通して	単著	2016年12月	『保育の実践と研究』 21(3) 12ページ	筆者自身が担任保育者として関わったインクルーシブな保育場面における「特別な配慮が必要な子ども」と他児の人間関係構築に関する実践研究。「フィギュアスケートごっこ」の事例から人との関わりに弱さがある「特別な配慮が必要な子ども」と他児との関係構築の過程と保育者の援助効果を分析検討した。保育者が衣装、音楽など環境を整えることで、「特別な配慮が必要な子ども」の遊びのイメージの世界に他児が位置づき、共に遊ぶ姿につながった。双方の協調点を見出し、双方が自己発揮ができる援助の必要性が示唆された。(pp.17～28)
(学会発表：口頭発表、ポスター発表)				
幼稚園教育実習から得た学びに関する一考察 —「柔軟な対応」について—	共同	2024年5月	日本保育学会 第77回大会 口頭発表 (オンライン開催)	“子ども主体”の保育に欠かせない「柔軟な対応」の中身について2名保育学生の実習から得た学びの語り(実習を終えての感想、学び、自己課題、実習園に指導、評価してもらったこと等)をもとに考察し、その違いを明らかにした。その結果、「子どもの姿をみて計画を見直す」対応「計画はそのままに言葉掛けを工夫する」対応と、実習園の実際の保育のあり方によって、学生の言う「柔軟な対応」の中身は大きく違っていることが明らかとなった。(大井美緒・伊藤路香)
模擬保育から得た学びと幼稚園教育実習から得た学びの関連性(2) —子ども役の学生に焦点を当てて—	共同	2023年5月	日本保育学会 第76回大会 ポスター発表 (オンライン開催)	子ども役として模擬保育を実施した学生に模擬保育と実習から得た学びを調査し、その特徴や関連性を明らかにした。その結果、模擬保育と実習で得た学びの視点は一貫していた。ただし、得た学びを責任実習以外の場面にも生かした学生は少数であった。また、模擬保育は学生が必ずしも保育者役を経験しなくても、子ども役として模擬保育に参加することでも学びを得られることが明らかになった。今後は保育全体の場面に通底する学びが得られるようにというねらいを持った授業展開を模索したい。(伊藤路香・大井美緒)

つくってあそぶ活動内容を保育学生が体験する意義	共同	2022年5月	日本保育学会 第75回大会 口頭発表 (オンライン開催)	一斉で行う製作場面を想定し、学生が実際につくってあそぶ体験をする意義を明らかにした。その結果、(1)「子どもの姿」を多様に予想することに繋がる、(2)楽しさや面白さについて考えることは、活動の導入や具体的な材料の準備や環境の設定に繋がることを明らかにした。学生が意見を出し合い子どもの立場になってあそぶことは大変意義深く、実習においても、子ども一人一人が期待感を持ちながら、主体的に活動に取り組むことができるような保育の構想、具体的な援助に近づいていくと考える。(伊藤路香・大井美緒)
子どもの興味や期待が高まる導入に関するアクティブラーニング保育学生が行う主活動の導入に焦点を当てて	共同	2022年2月	第18回 日伊総合研究所研究会 (オンライン開催)	保育・教育課程論を履修する学生126名を対象に、子どもの興味や期待が高まる導入をテーマに学生自身の気づきを促し、その内容を明らかにした。具体的には、責任実習の製作活動を想定し、その導入部分についてグループ発表を行い、学生が高く評価した導入の内容とアンケートの内容を分析した。その結果、「話し方や動きを工夫する」「視聴覚教材を準備し活用する」「子どもの反応を受け止めながら対応する」「展開を工夫する」ことが、子どもの興味や期待が高まる導入に重要な視点であることが明らかになった。(大井美緒・伊藤路香)
保育学生が考える主活動の導入の内容についてー導入内容の動画を視聴することによる意識変化ー	共同	2021年5月	日本保育学会 第74回大会 口頭発表 (オンライン開催)	学生が現場の保育者が行う主活動の導入の動画を視聴することによる意識変化を明らかにした。その結果、57.8%の学生に意識変化が見られた。具体的な変化は、①様々なバリエーション、導入方法に気づく②子どもに合わせていくことが大切③導入＝○○○という考えからの脱却④話し方、伝え方の工夫であった。これらの意識変化は、子どもにとってふさわしい導入の内容を考える際の選択の幅が広がっていくこと、目の前の子どもに目をむけ、子ども主体の保育を意識していくことに繋がっていくと考えられる。(伊藤路香・大井美緒)
就学前施設と養成校の協同による保育者養成	共同	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会 ポスター発表 (オンライン開催)	コロナ禍のオンライン(動画視聴と解説)による見学実習の効果と、就学前施設と養成校の協同による新たな授業展開の可能性を検討した。具体的には、学生の提出課題の学生の気づきや感想に着目して考察した。その結果、「子どもの興味関心が生まれる工夫」「遊びに集中できる環境」「安全への配慮」等、多様な視点での読み取りが伺え、対面実施とほぼ同様の効果が得られた。コロナ禍の制限された環境の中でも、アイデアを出し合い、対話的に授業展開を検討したことが意味深い。(伊藤路香・井上真理子・上田よう子・高橋優子・田澤里喜)
子ども同士の人間関係構築にかかわる保育者の実践知―「特別な配慮が必要な子ども」と他児との遊びの場面における保育者の援助の分析を通して	単独	2019年12月	日本乳幼児教育学会 第29回大会 口頭発表	多様な子どもが在籍する保育に熟達した4名の語りから、「特別な配慮が必要な子ども」と他児との遊び場面の具体的な援助に焦点をあて、子ども同士の人間関係の構築にかかわる保育者の実践知を明らかにした。その結果、保育者が子どもの「仲間の一人」としてかわり、子ども一人一人の姿を丁寧に捉え、好きな遊びを中心に実践を組み立てていた。人間関係の構築を急いで一緒に遊ばせようとするのではなく、一人ひとりの遊びの充実に向けた援助に力点を置いていた。このような保育は、決まった保育内容に、子どもをはめ込む考えでは実現できるものではない。

「特別な配慮が必要な子ども」を含んだ保育における保育者の実践知	単独	2017年5月	日本保育学会 第70回大会 口頭発表	「特別な配慮が必要な子ども」を含んだ保育に豊富な経験をもつ保育者4名に具体的な場面を中心に語ってもらい、実践知の特徴を明らかにした。その結果、保育者に共通した実践知は次の通りである。①子どもの状態への視点をもつ、②連携してチームで保育にあたる、③遊びを中心とした保育実践を行う、④遊びを通した子ども同士の自然な繋がりを捉える、⑤援助の実際は遊びの充実を第一とする普段の保育観から生じている。さらにこれらは共に関連し合い、実践知を構成していたことが明らかになった。
特別な配慮を要する子が友達の中に位置付く契機としての遊び―遊びの成立によって生まれた「互恵性」の存在とその意味	単独	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 口頭発表	特別な配慮を要する子が、友達との遊びの成立を契機として、クラスの友達の中に位置付いていった事例の検討し、その意味を考察した。遊びの成立により2人の子どもの関係が繋がり、さらにクラスの人間関係の構築まで波及していったのは、遊びの成立過程において子どもの間に「互恵性」が生まれたことが大きな要因となっていた。一般に他の子どもとの遊びの成立が難しいと言われる特別な配慮を要する子にも、保育者が遊びの成立にこだわって援助をすることが、人間関係の構築の貴重な一歩となり得ることが示唆された。
(保育者対象講習会講師)				
東京都保育士等キャリアアップ研修 「幼児教育」 幼児教育の指導計画、記録及び評価	単独	2024年10月	江戸川区	3名の講師がリレー方式で、往還型研修を実施した。保育士等が自園の保育と紐付けて、計画の意義、評価の方法等を確認し、挑戦したいことについてディスカッションする時間を十分持ち、参加者と共に創る研修を実施した。
横浜市幼稚園協会泉支部「新任教員研修会」	単独	2024年4月	横浜市幼稚園協会	保育者としての心構え、保育職の素晴らしさ・やりがい、社会人としての立ち振る舞い子どもの育ちとは…等、新人を対象とした研修会を実施した。
川崎市幸市民館 家庭・地域学級 「遊び」って大切講座	単独	2023年10月	川崎市幸市民館	翌年幼稚園入園を予定している子どもを持つ保護者を対象に、子どもの意志で自由に遊ぶことの大切さと遊びから学ぶことを考える全5回講座の第2回目を担当。乳幼児期の特性や非認知能力を身につける重要性に触れ、子育てについて考える機会とした。
東京都私立幼稚園新規採用教員研修会 保護者と築く心地よくあたたかい関係 一小さなことから始める保護者支援	単独	2022年7月	公益財団法人東京都私立幼稚園教育研修会	幼稚園が担うべき子育て支援・保護支援について、幼稚園教育要領に基づきながら確認すると共に、気になる保護者について考えたり、具体的な支援の内容と方法、支援しやすい関係を築き方など、日々の保育の中で行える支援について考える研修内容とした。

東京都保育士等キャリアアップ研修 「幼児教育」 幼児教育の環境	単独	2022年6月～ 2023年6月	社会福祉法人 聖光会	幼児教育の基本に基づき、実際の保育場面を想定して掘り下げる内容とした。環境を捉える視点として「温かなくつろぎの場」「生き生きと活動できる場」「定位置の安心感」「子ども目線で考える環境」を挙げ、自園の保育を再検討できるようにした。そして環境に主体的に関わることができるような子どもへの援助のあり方について考えた。さらに参加者同士のワークでは、他園の取り組みを共有する時間を取ると共に、人的環境としての保育者の協働を促進するワークを紹介し体験してもらった。
世田谷区実践コーディネーター事業(バディ)	共同	2022年度～	世田谷区乳幼児教育支援センター	区内の教育・保育 関係者が共有すべき方向性を示した「実践コンパス」を活用して各幼稚園・保育所等が自園の実践を振り返り、自己評価の取組みを進めていくことを支援していく事業。実践コーディネーターの補助的な役割であるバディとして参加している。
園内研修 園職員一人一人がより一層活躍するための研修 一園のビジョンにつながる若手職員の取り組みー	共同	2021年8月 2021年10月 2022年3月	公益財団法人鉄道弘済会 与野本町駅前保育所 おひさま保育園	若手職員7名を対象に、全3回の研修を行った。若手ならではの感性を活かして「日常の保育の様子」を保護者に伝える動画制作に取り組んでもらうことで、園における若手職員の活躍の機会を提案した。この取り組みを通じて、普段じっくりと関わる機会の少ない若手職員同士の意見交換や対話の機会を促進するとともに、園全体での動画視聴会を開催することにより、園の職員全体で園のビジョンを共有することに繋がった。
東京都保育士等キャリアアップ研修 「保護者支援・子育て支援」 保護者支援・子育て支援の意義／地域における子育て支援	単独	2020年度～	一般財団法人 保健福祉振興財団	保護者支援・子育て支援の基本的な考え方や概念を元に、自らの保育所の実践と繋げて意味づけして考え、実践できるだけでなく、ポイントを意識化、言語化できるようにした。方法としては、講義に加え、少人数でのワークを通じて、他園の実践からも学び、共有できるような研修を行った。
川崎市幼稚園協会免許状更新講習 「新学習指導要領における小学校1年生の学習内容からみた幼小接続について」	単独	2020年7月 2021年8月	公益財団法人 川崎市幼稚園協会	急激な社会変化(情報化、グローバル化加速、AIの進化、人口減少、少子高齢化、深刻な環境問題)に伴い、これからの社会に求められることを踏まえた上で、新学習指導要領の改訂ポイントを確認した。また、幼児期に育てたい資質能力の3つの柱や、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識しながら、日々の幼稚園での実践を振り返り、少人数でのディスカッションを通して、幼小接続について考え、各園における今後の課題を発見できるような内容とした。
(その他教育研究活動など)				
東京都福祉サービス第三者評価	共同	2017年～	NPO法人 メイアイヘルプユー	高齢者1件、子ども・ひとり親3件、障害者・児3件の評価を実施。メインの評価者の補助評価者として活動をしている。
子ども・子育て支援推進調査研究事業(厚生労働省) 保育士のあり方に関する研究 研究協力	共同	2016年3月	一般社団法人 全国保育士養成協議会	保育士資格の取得の2つの方法(指定保育士養成施設において必要な科目を履修して卒業する方法と保育士試験に合格して取得する方法)に関して、多面的に比較検討を行うとともに、他の国家資格・国家試験との共通性や相違点について検討を加え、今後の保育士養成課程および保育士試験のあり方を検討する素材を提供することを目的として行った。 実際には、「保育士試験の実施方式及び内容に関する検証」にて、保育士養成校の学生に対して行った保育士試験体験後のグループワークの分析、事後アンケートの分析を担当した。(pp.17～28)

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 加藤 翼

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(論文)				
就学前施設における心理的安全性と組織の成長に関する研究—保育の質の向上を支える組織要因の分析— (査読付き)	共 著	2025年3月	乳幼児教育・保育者養成研究,第5号,17ページ	就学前施設における心理的安全性を保障するための組織要因を明らかにすることを目的とし、「若い組織」の特徴等、組織の成長モデルを踏まえ、教育・保育の質を向上させるための組織の質に焦点を当て、量的及び質的分析を用いて検討する。分析の結果、7つの概念が抽出され、保育者個人の実感や経験、同僚との関係性、組織の風土、管理職のリーダーシップなど、多岐にわたる要素と関係していた。心理的安全性を保障する組織は、組織の成長段階や特性に応じた柔軟かつ探求的なアプローチが求められる。
保育の質を担保する保育士研修のあり方についての研究—研修体系の歴史的変遷から読み解く研修と処遇の関係を検討する— (査読付き)	単 著 (研究ノート)	2025年2月	洗足論叢,第53号,13ページ	保育士の資質向上に必要な研修体系のあり方について検討した。保育所保育指針に基づき、保育士には専門性の向上が求められているが、その実現のための研修体系は十分とは言えない現状がある。歴史的変遷の分析から、研修体系と処遇の関係性について考察を行い、全国団体や基礎自治体が策定する研修体系の構造や内容面での分析の必要性を指摘している。今後は、調査範囲や対象を広げ、より妥当性・信頼性のある検討を重ね、保育の質を担保する効果的な研修体系の構築を目指す。
研究題目 往還型の外部研修を通じた園組織の変容に関する研究 —ミドルリーダーに着目して—	単 著	2024年3月	修士論文,84ページ	保育現場におけるミドルリーダーの外部研修を通じた園組織の変容プロセスを明らかにすることを目的としている。全3園のミドルリーダーを対象に半構造化インタビューを実施し、M-GTAで分析した結果、研修ニーズ、研修転移、研修成果という時間軸に沿った3要素と、園組織の現状とミドルリーダーを後押しする諸条件という2つの影響要因が明らかになった。研修前の課題認識から、研修中の実践、そして研修後の組織文化醸成まで、ミドルリーダーが組織変容の中核的役割を担っていることが示された。
(報告書)				
保育所における人材育成の実態に関する調査報告書	共 著	2015年3月	社会福祉法人 日本保育協会 (32ページ)	2013年以降、厚生労働省において保育士の人材確保や保育士の育成に関する取り組みが公開されたが、保育士の専門性の向上については、その体系、提供されている研修、あるいは園内(組織内)での育成システムなど、他の専門職に比して必ずしも十分に整えられていない現状がある。これらの問題の背景には、さまざまな要因となるものがあると想定されるが、一つの原因として、保育士の成長に関する全体的な議論の不足、そのことからくる育成体系が整備されていないことがあげられる。本研究においては、保育所における人材育成の実態、人材育成をどう考え、どのような取り組みが行われているか、保育の質の観点から明らかにし、基礎データを基に保育士の成長モデルを作り提示ことを目的して実施。 担当: 第2章(p3-34)

(学会発表・ポスター発表)				
往還型研修を通じたミドルリーダーの役割に関する一考察	単著	2024年5月	日本保育学会 第77回大会 (2ページ)	往還型の保育士等キャリアアップ研修を受講し、公開保育を実施した保育所等のミドルリーダーインタビューデータをもとに、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析を行なった。ミドルリーダーは、促進要因と阻害要因に影響を受けながらも、研修前・研修中・研修後の様々な学びと実践の往還を経て、園組織に働きかけ、管理職と職員らの中間に立ち、組織の中核的な役割を担っていることが示された。さらに、研修後の成果では、研修活用が継続され、研修を受講した当事者のみならず、同僚にまで波及していることから、園組織の変容として、学び続ける文化を醸成する可能性をミドルリーダーがもたらしうることが、結果図により可視化することができた。
保育士の成長をもたらす学びのあり方に関する研究―園長・保育士の二者のマッチングデータの分析から―	共同	2023年5月	日本保育学会 第76回大会 (2ページ)	全国調査「保育所等におけるキャリアアップと人材育成に関する調査」のデータをもとに、園外研修への園長の期待と経験年数別の保育者が実感する研修効果について分析を行った。ミドルリーダー層の実感が他経験区分よりも低い傾向にあり、キャリアの変革期と園内での役割の増大に、保育士等キャリアアップ研修の受講が重なることが一因であることが確認できた。当研修は開始から6年程度経ち、実態に関する調査が必要と考えられる。(加藤翼・井上真理子・坂田哲人) 「共同研究により抽出不可」
(講演)				
令和6年度 保育士等キャリアアップ研修(マネジメント分野)	講師	2024年度	公益財団法人児童育成協会	マネジメント研修における科目「人材育成」を担当(eラーニング)
令和6年度 リーダー研修	講師	2024年10月 2025年1月	厚木地区私立幼稚園協会	教育・保育現場における組織マネジメント―自園の強みを活かしたチームづくりと管理職・ミドルリーダーの役割―をテーマに講演
令和6年度 運営方針を具現化するための組織づくり研修	講師	2024年6月,10月	世田谷区子ども・若者部 児童課	マネジメントに関する研修の事例報告へ講評及びグループワークを担当
世田谷区実践充実コーディネーター事業	講師 (パディ)	2022～2025年度	世田谷区	2022年度1園、2023年度2園、2024年度1園、2025年度2園を担当
世田谷区保育施設等開設前支援プログラム	講師	2022年度	世田谷区	科目「保育の質の向上・自己評価・マネジメント」の中で「保育所等における人材育成(園外研修)」を担当
(社会的活動等)				
リアルキャリアアップ研修会(滋賀県)アンケート調査の分析	調査担当	2023年度 (2回)	日本保育協会 滋賀県 支部青年部	事前・研修中・事後アンケート調査の分析担当
社会福祉法人日本保育協会 研修企画委員会	オブザーバー	2022年度	社会福祉法人 日本保育協会	(1)保育現場の研修受講実態に関するアンケート (2)令和5年度の研修体系と研修内容 (3)その他

(その他教育研究活動など)				
保育所の組織的な要因との関連における保育者の成長・キャリア形成の現状と課題	研究協力	2018年	日本乳幼児教育学会 第28回大会(岡山)	全国調査のデータをもとに、保育士等キャリアアップ研修の実施が現場に与える影響について、分析を行った。保育士が園の中で成長、キャリア形成をしていくにあたり、組織的な影響要因を明らかにするとともに、組織マネジメントをつかさどる管理職の状況と職員のキャリア意識への影響を中心に分析を行った。(坂田哲人・井上真理子・今井豊彦)
成長段階と役割から見た保育士の専門性開発の現状と課題	研究協力	2014年	人材育成学会 第12回 年次大会(明治大学)	

教育研究業績書				
2025年5月1日 氏名 尾根 秀樹				
著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(論文)				
「保育における子どもの劇的表現活動観の歴史的変遷―鑑賞する演劇から劇あそびへの転換点に着目して―」	(単著)	2022年3月	東京家政大学博物館紀要	本稿の目的は、日本の劇的表現活動を検討し、現行の保育における劇あそびとの連続性に関して吟味することにある。日本の幼児・児童演劇における劇的表現の重要性を唱えた先駆者たちに着目し、関連する論文や著書等より文献研究を行なった。その結果、子どものための演劇がどのように生まれ、史的変遷の中で演劇教育がどのような変容を遂げ、今日の劇あそびの礎となったのが明らかになった。「幼児教育法」の和田、「律動遊戯」の土川、「誘導保育案」の倉橋、「全人教育」の小原らによって、劇的表現活動の教育的価値が見出され、子ども主体の演劇が広がるとともに、「演劇」と「子ども」の関係性がより探求された。また、海外のドラマ教育を学び、日本の劇的表現活動の意義を明確に示した岡田によって、「劇あそび」の意義や構造が浮き彫りになった。レフェリー制有り。
「遊びを通しての総合的な指導」の検討(1)―劇あそびの起源に着目して―	(単著)	2023年3月	東京家政大学博物館紀要	平成10年改訂の幼稚園教育要領解説には、「遊びを通しての総合的な指導」が謳われた。「遊びを通しての総合的な指導」とは、子ども主体でありながら、保育者の関わりが不可欠であると読み取れる。平成20年および平成29年改訂の幼稚園教育要領解説にもこの文言があることから、この方向性はさらに強まったといえよう。そこで、保育者の関わりが不可欠であり、また、子ども主体で行われる「劇あそび」に着目した。劇あそびの名付け親とされる山村きよの保育思想と実践を分析することで、現代の幼児教育における劇あそびの可能性を考察した。本研究によって、劇あそびの成り立ちが明らかになったと同時に、「劇あそび」は「遊びを通しての総合的な指導」を包括する保育活動となり得る可能性を見出すことができた。レフェリー制有り。
(著書)				
子どもの未来を拓く 保育内容表現	共著	2024年4月	青踏社 (14ページ)	(pp.37,pp.39～51) 第3章:「園の生活の中での表現」では、あそびの中で生まれる表現とはどのようなものなのか、日常のあそびの事例を通して解説している。 第4章:「あそびの中の表現活動」では、演じて遊ぶ活動である「劇あそび」について執筆をした。年齢ごとの事例を通して「劇あそび」の理解を深める内容となっている。
保育内容「言葉」	共著	2024年3月	アイ・ケイ コーポレーション (7ページ)	(pp.72～77,pp.79) 11章:「遊びとことば」では、遊びの中から子どもが言葉を獲得し成長していくことを執筆した。遊びの事例や言葉遊びの紹介、劇あそびなどにも触れ、遊びを通じた総合的な指導について解説している。

(報告書)				
1 幼児教育年報 52	友松浩志 尾根秀樹	2015年	・公益社団法人東京都私学財団 ・公益社団法人東京都私立幼稚園教育研修会	p10-12.(全256p)・数学者 ピーター・フランク ル先生による「人生を楽しむ方程式」という講義の記録
2 幼児教育年報 53	加藤篤彦 尾根秀樹	2016年	・公益社団法人東京都私学財団 ・公益社団法人東京都私立幼稚園教育研修会	p80-83.(全166p)・玉置美恵子先生による「 「幼児のケガへの対応～救急士処置と予防教育～」という講義の記録
(学会発表：口頭発表)				
1「保育現場における劇あそびの実践」	尾根秀樹	2019年5月	日本保育学会第72回大会 口頭発表	・劇あそびは多くの保育現場において実践されているが劇あそびの受け止めは実に多様であり、園や保育者によって解釈はさまざまである。「劇あそび」の先駆者とされる山村きよに着目し、歴史的変遷を辿りながら、山村がなぜ劇あそびに着目し、また劇あそびの実践を積極的に行うまでに至ったのかを探究することで、現在の保育現場での劇あそびの意義や今後の必要性を明らかにする。
3「山村きよと倉橋惣三の繋がりから視えてくる『劇あそび』のはじまり」	尾根秀樹	2021年12月	日本乳幼児教育学会第31回大会 口頭発表(オンライン発表)	・「劇あそび」の名付け親とされる山村きよがなぜ保育活動として「劇あそび」を据え置き、また、山村が師事していた倉橋惣三の影響を受けて「劇あそび」の実践に至ったのではないかという問いを明らかにすることである。そして「劇あそび」と「倉橋の保育観」との相関を捉え、山村と倉橋が子どもたちに願った「劇あそび」の本来のねらいを考察していく。方法は、山村、倉橋に関連する文献研究を行うこととする。
(学会発表：ポスター発表)				
2「保育者の劇あそびに対する解釈に着目して」	尾根秀樹	2021年5月	日本保育学会第74回大会 ポスター発表(オンライン発表)	幼稚園教諭が保育活動としての「劇あそび」をどのように解釈しているのかを調査・分析し、導き出された結果を踏まえて、保育現場における劇あそびの解釈と取り組みについて検討することを目的とする。
4「現行の幼稚園教育要領から読み解く劇あそびの意義」	尾根秀樹	2022年5月	日本保育学会第75回大会 ポスター発表(オンライン発表)	・現行の幼稚園教育要領では、「劇あそび」とは明記されていない。では、なぜ保育現場で「劇あそび」の実践がされているのだろうか。保育要領から現行の幼稚園教育要領までを読み解くことによって「劇あそび」の意義を検討する。
(講演)				
第46回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	尾根秀樹	2015年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 日常保育からの劇あそび(全体のコーディネーターを兼任)
第46回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2015年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 日常保育からの劇あそび(全体のコーディネーターを兼任)
第47回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	尾根秀樹	2016年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 絵本からの劇あそび Bプロ

第47回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2016年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 絵本からの劇あそび Bプロ(全体のコーディネーターを兼任)
平成29年度青梅私立幼稚園協会第1回教員実技研修会	加藤早恵 尾根秀樹	2017年5月	青梅私立幼稚園協会	福島学園幼稚園にて開催 内容『劇あそび』
2017 沖縄 幼児・児童の劇あそび講習会	尾根秀樹	2017年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会	初めて沖縄での講習会開催となり、そのコーディネーター兼講師として講習会実施に携わった。「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか＊フェスタ」提携事業
第48回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2017年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ③ 絵本からの劇あそび 3歳児(全体のコーディネーターを兼任)
葛飾区私立幼稚園研修会『日常保育からの劇あそび』	尾根秀樹	2017年12月	葛飾区私立幼稚園連合会	帝釈天ルンビニー幼稚園にて開催
2018 沖縄 幼児・児童の劇あそび講習会	尾根秀樹	2018年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか＊フェスタ」提携事業	コーディネーター兼講師「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか＊フェスタ」提携事業
第49回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	尾根秀樹	2018年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	全体会Ⅱ 劇あそび実践編サポート分科会 ④ 絵本からの劇あそび～4歳・5歳からの劇あそび～
第49回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2018年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	全体会Ⅱ 劇あそび実践編サポート分科会 ④ 絵本からの劇あそび～年長～
『劇あそびを通して保育を見つめる』	尾根秀樹	2018年8月	光が丘第四保育園 園内研修	園内研修として勤務する保育士対象に劇あそびについて講義と実践研修を行う。
『第2回 劇あそびを通して保育を見つめる』	尾根秀樹	2018年8月	光が丘第四保育園 園内研修	前回の研修を終え、どのようにクラスなどで行なったかなど話し合いの時間を多く持ち、園内での保育をする上で領域表現をどのように捉えているのか、検討し保育実践に生かしていく研修会。
2019 沖縄 幼児の劇あそび夏季講習会	尾根秀樹	2019年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか＊フェスタ」提携事業	「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか＊フェスタ」提携事業
2019幼児の劇あそび夏季講習会 関西	尾根秀樹	2019年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会	分科会 ～日常保育を中心に～
第50回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2019年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ① 絵本からの劇あそび～年少～
『劇あそびをとって保育を見つめる』	尾根秀樹	2021年1月	クオリスキッズ駒込保育園 園内研修	園内研修として勤務する保育士対象に表現について講義と実践研修を行う。
第52回幼児の劇あそび夏季講習会 オンデマンド開催	尾根秀樹	2021年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	実践講座2 幼児といっしょに劇あそび
コロナ禍で視えてくる領域『表現』の重要性	尾根秀樹	2022年3月	福島学園幼稚園 園内研修	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象にコロナ禍だからこそ「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。

2023 沖縄 幼児の劇あそび講習会	尾根秀樹	2023年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会	講師： 全体会、分科会①絵本からの劇あそび（年少）
第54回 幼児の劇あそび夏季講習会	尾根秀樹	2023年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	講師： 全体会、分科会①絵本からの劇あそび（年少）
麻の実幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2023年8月	麻の実幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
令和5年度 第3回 新規採用教員研修会	尾根秀樹	2023年9月	東京都私立幼稚園連合会	豊かな表現を育む「劇あそび」
令和5年度 港区保育研修	尾根秀樹	2023年10月	東京都港区子ども家庭支援部	劇あそび一劇あそびを通して「子ども主体の保育」をいまいちど考えるー
笑顔があふれる「劇あそび」	尾根秀樹	2023年11月	大阪劇あそび勉強会	保育者を対象とし、劇あそびについて理論と実践を往還的に学ぶ。
令和5年度 芝公園保育園講演会	尾根秀樹	2023年11月	芝公園保育園	劇あそび一劇あそびを通して「子ども主体の保育」をいまいちど考えるー
令和5年度 高津区保育実技研修会	尾根秀樹	2023年11月	川崎市高津区	身体を使った表現遊び
第1回高津幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年2月	高津幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第2回高津幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年6月	高津幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第3回高津幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年7月	高津幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第1回小平なみき幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年7月	小平なみき幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第1回愛心幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年8月	愛心幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第55回 幼児の劇あそび夏季講習会	尾根秀樹	2024年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会	講師： 全体会、分科会④劇あそびで発表会
第2回小平なみき幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年10月	小平なみき幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。

第4回高津幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年10月	高津幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第1回大島五丁目保育園 園内研修	尾根秀樹	2024年10月	大島五丁目保育園	園内研修として4歳児クラスを対象に「劇あそび」の重要性について再認識することを目的とし、助言や実践を行う。
第2回大島五丁目保育園 園内研修 (ZOOM)	尾根秀樹	2024年11月	大島五丁目保育園	園内研修として4歳児クラスを対象に「劇あそび」の重要性について再認識することを目的とし、助言や実践を行う。
第2回愛心幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年11月	愛心幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第1回 東京仏教保育協会 研修会	尾根秀樹	2024年11月	東京仏教保育協会	仏教系の幼稚園教諭及び保育士を対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第3回大島五丁目保育園 園内研修	尾根秀樹	2024年12月	大島五丁目保育園	園内研修として4歳児クラスを対象に「劇あそび」の重要性について再認識することを目的とし、助言や実践を行う。
第5回高津幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2024年12月	高津幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
令和6年度 高津区保育実技研修会	尾根秀樹	2025年2月	川崎市高津区	身体を使った表現遊び
2025年度 第1回高津幼稚園 園内研修	尾根秀樹	2025年2月	高津幼稚園	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
第2回 東京仏教保育協会 研修会	尾根秀樹	2025年2月	東京仏教保育協会	仏教系の幼稚園教諭及び保育士を対象に「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
(その他教育研究活動など)				
○公益社団法人日本児童青少年演劇協会主催 幼児の劇あそび夏季講習会 講師	尾根秀樹	2007年5月～現在に至る	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	・東京家政大学にて児童演劇を指導されていた落合聡三郎教授(在籍期間 1976～1982)が1984年に発足した研究会に所属。第50回まで開催されている講習会でありその講師を担当している。
公益社団法人東京都私立幼稚園教育研修会 教育研究委員	尾根秀樹	2014年7月～2020年3月	東京都私立幼稚園連合会	幼稚園教諭への研修のコーディネーター等を担当
世田谷区実践充実コーディネーター	①井上眞理子 ②堀科 尾根秀樹	2022年～2024年	世田谷区	世田谷区の保育実践コンパスを元に、世田谷区の保育実践の充実に向けた事業のバディを担当
世田谷区実践充実コーディネーター	尾根秀樹 片口桂	2025年	世田谷区	世田谷区の保育実践コンパスを元に、世田谷区の保育実践の充実に向けた事業のコーディネーターを担当

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 齊藤 加奈

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(論文)				
1『保育の自然体験活動におけるいのちの教育の研究—子どもの心の揺れ動きに着目して—』	単 著	2018年3月	東京家政大学修士論文	授業や科目といった垣根のない日常保育の中で、構造化されていない自然体験を通して、子どもたちがどのようにいのちについて学び、いのちの大切さを実感するのかを明らかにした。
2. 年報 『保育者養成教育における「いのちの教育」動向に関する検討』	単 著	2020年2月	東京家政大学教員養成推進室年報第9号 p. 179-p. 185	子どもたちがいのちを感じその尊さに気づき大切に育むためには、保育者自身の「いのち」の捉えや、死生観が大きく影響する。そこで保育者養成過程においてその価値観を育む教育内容を検討するための第一歩として保育者養成教育におけるいのちの教育の動向を探った。その結果、いのちの教育は言葉や慣習を教えるのではなく、保育者自身のいのちの価値観や死生観をもとに子どもたちと対話し“Life”(いのち、生活、心)へ寄り添うことが不可欠である。その姿勢を養うためには、保育者養成教育において周囲の人たち(友人、保護者、教員など)と互いの特性を認め合い、価値観を共有し「いのち」を多角的に捉えられるような授業展開を行っていくことが重要であるとした。
3. 年報 『家庭における「いのちの教育」動向に関する検討』	共 著	2021年2月	東京家政大学教員養成推進室年報第11号 p. 263-p. 267	子どもたちにとって人的環境の大きな部分を構成する要素としての、「保護者、家庭」に着目し「家庭におけるいのちの教育」の動向を検討していった。その結果、保護者の「いのちの教育」への関心の高さが判明した一方で、家庭教育における「いのちの教育」に関する議論が不足している現状も明らかとなった。「いのちの教育」は特別なことではなく、日常的に様々な人の価値観・生命観を吸収し、少しずつ「その子(人)がその子(人)らしく生きるためには」という「積極的な生命尊重」の姿勢を育てていくことが重要であるとした。 共著者: 五島脩
4. 年報 『熊本地震における自閉症スペクトラム障害のある子どもとその家族の抱える困難・ニーズの検討』	共 著	2021年2月	東京家政大学教員養成推進室年報第11号 p. 255-p. 262	質問紙調査から平成28年熊本地震における自閉症スペクトラム障害のある幼児児童生徒とその家族の非難の実態と福祉避難所及び災害時要援護者名簿の周知の実態、また災害時の困難・ニーズを明らかにした。 共著者: 五島脩、高野陽介

(学会発表:ポスター発表)					
1ポスター発表 『保育における自然環境を通したいのちとの出会いの検討』	単著	2016年8月	全国保育士養成協議会 研究大会第55回全国大会(盛岡)	日常保育における子どもたちの姿を捉え、どのように身近な自然と触れ合い、その中でどのようないのちとの出会いがあるのかを明らかにした。その結果をもとに乳幼児期におけるいのちの教育の望ましいあり方を検討した。	
2ポスター発表 『保育における自然環境を通したいのちの教育の在り方-虫類を介在したいのちとの出会い-』	共著	2017年5月	日本保育学会第70回全国大会(岡山)	日常保育における自然との触れ合いを記録観察し、身近ないのちとの出会いの場面について検討した。特に、いのちの学びへの人的環境の影響に注目し、参与観察にて得たエピソードを保育者・友人・子ども自身の経験の3つに分類することで、乳幼児期におけるいのちの教育の望ましいあり方を検討した。 共同発表者:大澤力	
3ポスター発表 『保育者としての成長プロセスの検討その1～保育所実習不安を規定する要因の分析(入学前～導入)～』	共著	2019年3月	日本保育者養成教育学会第3回研究大会(仙台)	養成校入学前から養成段階、現職以降の長期的な視点で保育者の成長プロセスを明らかにし、それぞれの段階における保育者の成長を支える養成教育や現職教育の在り方を検討する基礎資料を提示することを目的とする。本報告は、その第1報であり、養成教育の中でも初期段階である養成校入学前から初年次に焦点をあて、保育所実習不安を規定する要因について分析をした。 共同発表者:細井香、小櫃智子	
4ポスター発表 『保育者としての成長プロセスの検討その2～実習段階による子ども理解の変容(導入～応用)～』	共著	2019年3月	日本保育者養成教育学会第3回研究大会(仙台)	保育者の専門性の中でも子ども理解に焦点をあて、養成校1年次から3年次にかけて実施される各実習段階による子ども理解の変容を明らかにすることを目的とする。保育における子ども理解は、子どもの発達等の基礎知識に加え、子どもとのかかわりの中で共感的に理解することや、子どもとのかかわりを省察する中で自身が変容することが重要である。実習での子どもとのかかわり体験は、学生の子ども理解のあり様に大きな影響を及ぼすものである。実習体験の積み重ねの中で学生の子ども理解がどのように変容しているかを分析することを通して、保育者の専門性のである子ども理解のスキルを養成段階からどのように育てていくことができるのかその可能性を検討する。 共同発表者:小櫃智子、細井香	
5ポスター発表 『養成から育成までの保育者効力感の変容』	共著	2019年3月	日本保育者養成教育学会第3回研究大会(仙台)	省察的実践家としての姿勢を養う教育内容の検討と保育者の資質・専門性の向上を図る研修の在り方を模索していく上での指標として、保育者効力感に着目して養成から育成について検討していく。保育者効力感とは「保育場面において子どもの発達に望ましい変化をもたらすことができるであろう保育的行為をとることができる信念」と定義される概念である。特に本発表では 養成課程に焦点を当てて検討を行う。 共同発表者:細井香	
6ポスター発表 『養成から育成までの保育者効力感の変容Ⅱ』	単著	2020年3月	日本保育者養成教育学会第4回研究大会(福山)	2019年3月に発表した「養成から育成までの保育者効力感の変容」に続く調査研究である。保育ニーズの変化に伴い保育形態が多様化する中で、保育者の専門性の向上及び自己を省察する姿勢の養成を目指し、教育・研修内容の検討を行う。2019年3月の発表では、養成課程における保育者効力感の変容について調査を行った。本調査では、研究の再現性を確認するため、前回とは異なる学年で縦断的調査を行った。	

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 篠沢 薫

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
保育内容「言葉」:乳幼児の言葉が生まれ・育っていくために	共著	2024年3月	アイ・ケイコーポレーション	「第7章 幼児期(3歳以上児)のことばの発達」として、3歳から5歳児のことばの発達過程、一次のことばと二次のことば、科学的なものの見方と考え方につながることばについて、解説した。 河合優子(監修)、並木真理子・桐川敦子(編著),(pp.36-41)
(論文)				
外国籍幼児が在籍するクラスの保育者における日本語の萌芽的リテラシー環境に関する意識.	共著	2024年3月	洗足論叢, 52, 185-196.	本研究では、保育者におけるクラスの萌芽的リテラシー環境に関する意識について、3～5歳児担当の保育者128名を対象に質問紙調査をした。その結果、保育者の意識として①萌芽的リテラシーの発達の直接的な援助、②萌芽的リテラシー活動の物的環境構成および活動の設定の2因子が見出され、外国籍幼児在籍数が0～1名よりも2名以上のクラスの保育者の方が、萌芽的リテラシーの発達の直接的な援助に関する保育者の意識が高かった。 (著者:篠沢 薫・松寄洋子) 共同研究により、担当部分抽出不可。
バイリンガル幼児の第二言語における萌芽的リテラシー能力の発達を促す構造に関する研究(博士論文)	単著	2022年3月	東京学芸大学博士学位論文	本研究は、バイリンガル幼児の第二言語における萌芽的リテラシー能力の発達を促す構造について、構成要因の実態および構成要因間の関係性を明らかにすることを目的とした。4～5歳の幼児、保育者、保護者を対象にして3つの研究を実施した。その結果、第二言語の文字音知識や音韻意識について発達を促す何らかの配慮が必要であること、一方で、萌芽的リテラシー活動への興味関心は強みであること、が考えられた。また物的環境や人的環境の重要性が示され、さらに萌芽的リテラシー活動の楽しさが萌芽的リテラシー能力の発達を促す上で重要であることが示唆された。
バイリンガル幼児における文字音知識および音韻意識の発達と萌芽的リテラシー活動への興味関心との関連:中国語・日本語バイリンガル幼児の第二言語習得に着目して	単著	2021年10月	学校教育学研究論集, 44, 1-14.	本研究では、中国語・日本語バイリンガル幼児における日本語の文字音知識および音韻意識の発達とEL活動への興味関心との関連について、実験および面接調査をした。4～5歳のバイリンガル幼児および日本語モノリンガル幼児を対象に調査した結果、モノリンガル群と異なりバイリンガル群はより多様な萌芽的リテラシー活動への興味関心と関連があった。バイリンガル幼児の第二言語における文字音知識と音韻意識の習得において楽しさのような動機づけの役割がより大きいことが考えられる。

多様な文化的言語的背景をもつ幼児の萌芽的リテラシーへの興味関心と語彙発達およびクラスの言語環境に関する保育者の意識との関連	共著	2020年12月	乳幼児教育学研究, 29, 23-34.	本研究では, CLD幼児の萌芽的リテラシーへの興味関心と, ①萌芽的リテラシーの発達との関連, ②クラスの言語環境に関する保育者の意識との関連, について面接と質問紙調査をした。その結果, CLD幼児が萌芽的リテラシーへの楽しさを十分に感じられていないことと, 保育者におけるCLD幼児への語りかけの意識の高さが関連した。CLD幼児の萌芽的リテラシーに対する興味関心を, 語りかけとを通して育てようとする保育者の意識は, CLD幼児の萌芽的リテラシーの発達を促すことにおいて重要であると考えられる。 (著者: 篠沢 薫・松崎洋子) 共同研究により, 担当部分抽出不可。
日英バイリンガル児の言語の特徴に対する在英日本人母親の意識	共著	2020年3月	千葉大学教育学部紀要, 68, 85-92.	本研究では, 日英バイリンガル児の言語の特徴に対する英国在住の日本人母親の意識について, 在英期間2年以上の日英バイリンガル児の母親12名(日本人家庭6名, 国際結婚家庭6名)を対象にインタビュー調査をした。その結果, ①両家庭ともに日本語へは細やかな, 英語へは大らかな意識があった, ②日本人家庭は「日本語が英語より弱くなった」, 国際結婚家庭は「日本語が英語より弱い」と意識していた, ③日本人家庭の英語に対する心配ごとにより言語発達に加えて言語環境が含まれていた。 (著者: 篠沢 薫・松崎洋子・松井智子) 共同研究により, 担当部分抽出不可。
前言語期の自閉症スペクトラム障害幼児と保育者の身体接触を伴うコミュニケーションの特徴: 一事例による考察	共著	2016年1月	共立女子大学家政学部紀要, 62, 173-180.	本研究では, 前言語期の自閉症スペクトラム障害幼児と保育者の身体接触を伴うコミュニケーションの特徴について, 幼児1名(年長組)と保育者数名を対象に縦断的な観察調査をした。その結果, 調査開始頃は中立的な機能の身体接触が多く, その後, 親和的な身体接触が多くなった。また, 視覚的注意共有のある場合は, 対象児との注意共有が成立しやすいよう動く保育者の姿があった。視覚的注意共有を伴う経験を促す際には, 保育者のかかわり方自体も考慮する必要がある。 (著者: 篠沢 薫・権藤桂子・松井智子) 共同研究により, 担当部分抽出不可。
(その他刊行物)				
げ・ん・き206号 子どもと音環境: 第12回「音環境を活かした保育へ: 多様な子どもたちの育ちを支える音環境」	共著	2024年11月	エイデル研究所	「文化的言語的に多様な子どもと音環境」として, 生活の中で言葉を聞く機会の大切さや, 実際に音環境を工夫した実践事例について解説した。 (著者: 篠沢 薫・野口紗生) (pp.70-79)

(報告書および報告発表)

保育所・幼稚園の言語環境と多言語環境で育つ幼児の萌芽的リテラシー能力との関連	単著	2020年7月	2019年度家庭教育研究助成. 公益財団法人前川財団.	本研究では、国内の外国人集住地域の園の言語環境とCLD幼児の萌芽的リテラシー能力との関連について検討した。その結果、保育者がCLD幼児に配慮しながら絵本を使用していたこと、幼児の語彙を広げることに対する保育者の意識にばらつきがあったこと、CLD幼児の萌芽的リテラシーへの楽しさと保育者の語りかけに対する意識が関連していたこと、などが明らかになった。CLD幼児の萌芽的リテラシーの発達を促すには、保育者の幼児の語彙の広がりへの高い意識やクラスの文字環境の質を高さが重要である可能性が示唆された。
日本語がマイノリティ言語である環境で育つ子どもたちの言語発達: 家庭における支援に向けて	単独	2019年8月	第13回児童教育実践についての研究助成研究成果発表会. 公益財団法人博報児童教育振興会. 東京コンファレンスセンター有明. 東京.	本研究では、在英日本人児童の日本語と英語の発達と家庭言語環境を多角的に検討した。土曜日に日本人補習授業校に通う現地校のYear 2(補習校小1)の児童とその保護者20組を対象に、児童の言語発達調査と保護者のインタビュー・質問紙調査をした。その結果、言語発達調査での群間差、インタビュー調査での言語環境に関する言及から、家庭と家庭以外の言語環境や在英年数もふまえてさらに検討が必要であること、語彙をよく話すことと文をよく理解することとの関連、発話意図の理解と英語の表出文法との関連が明らかになった。
保育者における萌芽的リテラシー環境に関する意識の違い: クラスにおける外国籍幼児数に着目して	共同	2023年12月	日本乳幼児教育学会第33回大会. 名古屋市立大学. 名古屋	本研究では、保育者におけるクラスの萌芽的リテラシー環境に関する意識を明らかにするために、3～5歳児担当の保育者に質問紙調査を実施した。その結果、①発達の直接的な援助、②物的環境構成や活動の設定、の2因子が見出された。また外国籍幼児が0～1名よりも2名以上在籍するクラスの保育者の方が、萌芽的リテラシーの発達の直接的援助に関する意識が高く、環境から活動を引き出すような援助をしている可能性が示唆された。 (報告者: 篠沢 薫・松寄洋子)
コミュニケーション面に弱さのある幼児2例における前言語期の発声の特徴	共同	2015年5月	日本コミュニケーション障害学会第41回大会. 福岡大学. 福岡.	本研究は、コミュニケーション面に弱さのある幼児における前言語期の発声の特徴について、コミュニケーション面に弱さがあり、言語面の発達年齢が10～11ヵ月である幼児2名(A: 5歳6ヵ月, B: 2歳7ヵ月)を対象に、著者らの療育場面の観察調査をした。聴覚評価、音響分析、発声時の視線を分析した結果、話すような音の発声と不定形な音を含む発声の両方が存在していた。不定形な音を含む発声は、発達とともに減少していく様子がみられた。 (報告者: 篠沢 薫・権藤桂子・糸井美和)

(学会発表:ポスター発表)

CLD幼児における萌芽的リテラシー活動への興味関心に及ぼす音環境の影響:吸音パーテーション設置による縦断的検討	共同	2025年3月	日本発達心理学会第36回大会. 明星大学:東京.	本研究では, CLD幼児における萌芽的リテラシー活動への興味関心に及ぼす音環境の影響を明らかにすることを目的とした。園に吸音パーテーションを設置し, 保育所3〜5歳児クラスのCLD幼児5名に6か月間全12回の一事例実験を行った。その結果, 吸音パーテーションの設置は, 一人でも絵本を眺めるくらい萌芽的リテラシー活動に興味関心のあるCLD幼児に, 絵本コーナーで長時間を過ごすことを引き出す可能性が示唆された。 (報告者:篠沢 薫・野口紗生)
文化的言語的に多様な幼児が生活する園の言語環境に関する研究2:保育者の意識に関するヒアリング調査から	共同	2024年11月	日本乳幼児教育学会第34回大会. いわて県民情報交流センター アイナ:岩手	本研究では, 保育所等における保護者支援の具体的事例を把握するために, CLD幼児の担任経験のある9名を対象にヒアリング調査を実施した。その結果, 言語の面で印象に残っている事例への回答として, ①発達に関する問題, ②子どもとのコミュニケーションの難しさ, ③他児との関わり④保護者対応に関することに大別された。子どもの言動に対して保育者が応答的にかかわること, CLD幼児の母語や文化を尊重する重要性, 学習言語を使った小学校以降の生活を保育者が学ぶことが, CLD幼児や保護者への適切な支援につながると考えられた。 (報告者:西村実穂・篠沢 薫)
文化的言語的に多様な幼児が生活する園の言語環境に関する研究1:保育者の意識に関するアンケート調査から	共同	2024年11月	日本乳幼児教育学会第34回大会. いわて県民情報交流センター アイナ:岩手	本研究では, 保育者におけるクラスの萌芽的リテラシー環境に関する意識を明らかにするために, 3〜5歳児担当の保育者に質問紙調査を実施した。その結果, ①日本語の萌芽的リテラシーに関する援助, ②多様な文化に親しむ活動, ③多様な言語や文化に関する物的環境の3因子が見出された。CLD幼児の援助に関する学習経験がある保育者は, 対象者全体の21.7%のみであったことから, 保育者がCLD幼児の援助を学ぶ機会を保障する必要もあることが示唆された。 (報告者:篠沢 薫・西村実穂)
多様な文化的言語的背景をもつ幼児における萌芽的リテラシー活動の違い:園の絵本コーナーにおける吸音パーテーション有無の比較	共同	2024年9月	日本教育心理学会 総会第66回大会. アクティ浜松 コングレスセンター:静岡	本研究は, 多様な文化的言語的背景をもつ幼児 (Culturally and Linguistically Diverse Children : CLD幼児) 5名を対象に, 園の絵本コーナーでの吸音パーテーションの有無によるCLD幼児の萌芽的リテラシー活動の違いを検討した。パーテーション設置前後で対象児が絵本コーナーで過ごす時間を検討したところ, 介入期に増加するパターンIと, 大きな変化のないパターンIIに大別された。パーテーション設置は, 絵本を一人でも眺めようというくらい興味が出始めたCLD幼児に対して, その興味をさらに深める契機となる可能性がある。 (報告者:篠沢 薫・野口紗生)

中国語・日本語バイリンガル幼児における第二言語の文字音知識および音韻意識の発達と萌芽的リテラシー活動への興味関心との関連	単独	2021年7月	広域科学教育学会第5回大会. オンライン開催.	本研究では、中国語・日本語バイリンガル幼児における日本語の文字音知識および音韻意識の発達とEL活動への興味関心との関連について、4～5歳のバイリンガル幼児および日本語モノリンガル幼児を対象に実験法・面接法による調査をした。その結果、モノリンガル群と異なりバイリンガル群はより多様な活動への興味関心と文字音知識および音韻意識の発達に関連があった。バイリンガル幼児の第二言語における文字音知識および音韻意識の習得において、楽しさのような動機づけの役割がより大きいことが考えられる。
Is emergent literacy in young children from culturally and linguistically diverse backgrounds associate with the preschool teachers' perceptions of language environments?	共同	2020年7月	The 21st Pacific Early Childhood Education Research Association (PECERA) international conference. Victoria University of Wellington: NZ.	The aim of the current study was to investigate the association between the development of Emergent Literacy in CLD children and the preschool teachers' perceptions of language environments. Forty-five children, 43 families of these children, and 8 preschool teachers participated. In the result, CLD and control children had similar phoneme isolation (initial sound) and rhyme awareness mean scores. The association found between low score in CLD children and high perception from their teachers suggests that teachers are reflecting on the language environment in their class. (報告者: Kaoru SHINOZAWA, Yoko MATSUZAKI, & Akiko HAYASHI)
外国人集住地域の園の言語環境に関する保育者の意識	共同	2020年5月	日本保育学会第73回大会. 奈良教育大学: 奈良.	本研究は、外国人集住地域の園の言語環境に関する保育者の意識について、関東圏の保育所5園の保育者8名を対象に、個別に半構造化面接をした。その結果、①絵本選択の際には家庭言語環境も考慮し、子どもが使う日本語以外の言語の状況をふまえ、絵本の準備をしていた。②絵本環境は、子どもが絵本に触れる機会を保障するために、家具などの物的環境についても工夫していた。③多言語多文化を知る機会や、日本語経験が積めるような様々な言葉遊びの経験を積むようにしていた。 (報告者: 篠沢 薫・松寄洋子)
4歳児における音韻意識の発達と言語環境との関連	共同	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会. 大阪国際会議場: 大阪.	本研究は、4歳児における音韻意識の発達と言語環境との関連について、4歳児クラスの幼児45名と保護者43名、担当保育士6名を対象に、幼児に対する言語発達と興味関心の評価、保護者に対する家庭言語環境の把握と評価、保育者に対する保育の言語環境の評価、を実施した。その結果、幼児の語末音の抽出と、幼児が絵本を楽しむことや見る頻度の高さが関係した。園の絵本環境の整備は音韻意識に関連するといえるが、現状では園の絵本環境は人的な言語環境に比べて十分に意識されていなかった。 (報告者: 篠沢 薫・松寄洋子・林安紀子)

保育所・幼稚園の言語環境に関する保育者の意識	共同	2019年12月	日本乳幼児教育学会第29回大会. 東北文教大学短期大学部: 山形.	本研究は、保育所・幼稚園の言語環境に関する保育者の意識について、関東圏の保育者132名に質問紙調査を実施した。因子分析の結果、3因子が見出され、「①新たな言葉を知る機会としての語りかけ」は人的環境、「②絵本環境の工夫」は物的環境、「③絵や文字を介したやりとり」は物的環境と人的環境が相互に関連していた。よって、園における言語環境は、人的環境と物的環境の双方が充実して整うと考えられる。 (報告者: 篠沢 薫・松寄洋子)
How mothers think about the linguistic features of their Japanese-English speaking children living in the UK	共同	2019年7月	The 20th Pacific Early Childhood Education Research Association (PECERA) international conference. Howard Civil Service International House: Taiwan.	The aim of the current study was to explore the construct of mothers' recognition of the linguistic features of their Japanese-English speaking children living in the UK. Nineteen mothers were interviewed. Eleven mothers are in international marriages. Their children's average age was 6 years and 7 months. It is important to note that the environmental aspects (English only) were a concern of mothers who had a Japanese husband, so the concern may be related to the mothers' native language. (報告者: Kaoru SHINOZAWA, Yoko MATSUZAKI, & Tomoko MATSUI)
多言語環境で育つ子どもの言語発達	単独	2018年12月	広域科学教育学会第2回大会. 弘済会館: 東京.	本研究は、英国で現地校に通う日英二言語を話す日本人児童における二言語の語彙と文法の理解と表出力および対話能力について、日本人母親をもつ在英日本人児童18名を対象に調査をした。父親が日本語母語話者である8名(A群)とそれ以外の10名(B群)に分け解析した結果、A群に英語を理解できるが話すことの難しい児童がいること、話すことの難しい児童は学習に必要な文法の理解ができず、学校での学習に難しさを抱えている可能性があること、A群はB群よりも発話意図理解に難しさを抱えている可能性があることが示唆された。
Perception of non-native phonemic contrasts in Japanese children with autistic spectrum disorder (ASD)	共同	2018年9月	The British Psychological Society Developmental Psychology Section Annual Conference. Crowne Plaza Liverpool City Centre: UK.	The aim of the current study was to further investigate the characteristics of non-native speech perception in Japanese ASD children using British English /r-l/ /t-d/ contrasts. Twelve school-aged children with ASD and 31 control children participated in the study. Japanese children with ASD have shown increased sensitivity to non-native phonemic categories. Such sensitivity to non-native phonemic categories may be due to enhanced low-level perception or weak central coherence. (報告者: Kaoru SHINOZAWA, Tomoko MATSUI, Akiko HAYASHI, Takahiro SEKIGUCHI, Hiroshi FUJINO, Yoshikuni TOJO, & Keiichiro HAKARINO)

ASD幼児と母親の共同注意場面における母親の発話の特徴	共同	2017年3月	日本発達心理学会第28回大会、広島大学：広島.	本研究では、ASD幼児と母親の共同注意場面における母親の発話特徴について、幼稚園3歳児クラス在籍の前言語期のASD幼児10名と母親を対象に言語検査および観察調査をした。その結果、反応型の共同注意は母親の発話内容に関係なく成立する可能性、言語検査における低得点群の方が共同注意の成立時に母親の発話に提示や身振りが伴うことが多くみられる可能性が示唆された。 (報告者：篠沢 薫・榎藤桂子・松井智子)
前言語期のASD幼児との相互交渉における母親の発話の特徴	共同	2016年4月	日本発達心理学会第27回大会、北海道大学：北海道.	本研究では、前言語期の自閉症スペクトラム障害(ASD)児と母親との相互交渉における共同注意生起時の母親の発話特徴について、幼稚園3歳児クラス在籍の前言語期のASD幼児5名と母親を対象に観察調査をした。その結果、前言語期のASD児との相互交渉における母親の発話特徴として、①共同注意の成立は、発話内容の中でも特定の種類に限定される可能性がある、②共同注意が成立する発話の方が、成立しない発話より発話長が短い、ということが明らかになった。 (報告者：篠沢 薫・榎藤桂子・松井智子)
絵本の種類の違いによる母子のコミュニケーションの特徴について	共同	2015年5月	日本保育学会第68回大会、相山女学園大学：愛知.	本研究は、絵本共有場面における絵本の種類の違い(ストーリー有無)による母子コミュニケーションの特徴について、平均年齢2歳5ヵ月の幼児と母親18組を対象に絵本読み場面の観察調査をした。その結果、発話機能、発話長に絵本の種類の違いの影響があり、発話機能、時制、心的動詞に英語圏との違いがあった。 (報告者：篠沢 薫・榎藤桂子・恒川丹・三輪穂奈美)
前言語期のASD幼児と保育者の相互交渉の特徴：身体的かかわりに着目して	共同	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会、東京大学：東京.	本研究は、保育者とASD幼児の身体的接触や接近がみられる相互交渉に着目し、両者がどのような表情、視線、発話、接触の内容を伴ったときに相互交渉が成立するのか、その特徴を明らかにすることを目的とした。その結果、保育者と対象児の相互交渉が成立するときに身体接触がみられることが多かった。また、対象児の興味関心とは異なる事象については、保育者が身体接触と共に介入すると対象児の反応はあるようであったが、相互交渉として深まっていことはしないようであった。 (報告者：篠沢 薫・榎藤桂子・松井智子)
(社会的活動等)				
小平市巡回相談 相談員	単独	2016年4月～2020年3月	小平市社会福祉協議会	相談員として、発達に遅れや障害のある幼児の保育について、保育者とコンサルテーションを行った。

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月1日

氏名 飯村 愛

著書・学術論文などの名称	単 著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会などの名称	概 要
(著書)				
Q&Aこれからの社会的養育	共著	2023年7月	ぎょうせい	社会的養護が転換期にある中、自治体職員や保育士養成校などに、「社会的養護」を適切に理解していただくことを目的に作成する書籍の中の看護師の役割のページを担当
(論文)				
1 乳児院看護師の役割 –歴史的変遷からの考察–	単著	2023年3月	日本女大学大学院 家政学研究科紀要No.29	乳児院における看護師の配置および役割について、歴史的経緯に関して法改正や社会情勢の変化、施設機能の変化、入所背景の変化から検討を行い、乳児院看護師の役割について考察を行った。
2 保育にわらべ歌を用いる保育者の認識について	単著	2024年3月	洗足学園論叢第52号	保育にわらべ歌を用いている保育士にインタビュー調査し質的分析し、保育士のわらべ歌に対する認識について考察を行った。
(学会発表：口頭発表)				
1 乳児院看護師の役割と職務	単著	2020年2月	第12回日本児童養護実践学会大会 (会場：日本女子大学)	乳児院の看護師の役割と職務について、乳児院を調査し考察した。
2 乳児院看護師の職務と役割について～乳児院看護師のアイデンティティ問題に着目して～	単著	2020年11月	第26回日本子ども虐待防止学会大会 (会場：石川県)	乳児院看護師が独自のアイデンティティを構築していくプロセスについて、乳児院看護師にインタビューし、その結果をM-GTAで質的分析を行い考察した。
(学会発表：ポスター発表)				
1 家政福祉学を基盤とした保育士養成の取り組み ～コース設置3年の報告と展望～	共著	2022年5月	第75回日本保育学会大会 (会場：聖徳大学)	和洋女子大学家政福祉学科を基盤とした保育士養成の取り組みにおける児童福祉コース設置 3 年の報告と展望について、6名の教員（弓削田綾乃、丸谷充子、佐藤有香、大沼良子、二宮祐子、池谷真梨子）、と助手飯村愛の計7名で共同発表を行った。
2 保育内容「人間関係」の授業に『わらべ歌』を用いる意義についての考察	単著	2025年3月	第9回日本保育者養成教育学会 (会場：鎌倉女子大学)	先行研究の保育にわらべ歌を用いている保育士への調査結果をもとに、保育者養成校100校のシラバスを調査し、保育内容「人間関係」に『わらべ歌』を用いることへの意義について考察し発表した。
(その他教育研究活動など)				
臨床発達心理士資格更新委員		2024年度	臨床発達心理士 運営機構	臨床発達心理士の資格試験および資格更新にかかわる審査の面接官と書類審査委員を担当した。
世田谷区保育実践コーディネーター		2024年度	世田谷区教育委員会	保育施設の保育者が自らの教育・保育について取り組みを支援する実践充実コーディネーターのバディとして活動した。